

721

授業科目名	表現文化論				
担当教員名	白瀬浩司				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

私たちにとって、恋は一つの事件にほかならないわけですが、時に、恋ゆえ本当の事件に至ってしまうようなケースもあります。本講座では、この大阪の地で江戸時代に実際に起きた事件を素材とする近松門左衛門の作品を読み進めていきます。古典文学の〈表現〉に出会うとともに、同じ大阪という地に身を置きながらも、時代による〈文化〉の違いと、時代を越えて変わらぬ人々の想いについて考えていきましょう。それぞれの映像化作品も鑑賞します。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

大阪の古典文化について知ることや、古典の文章表現を味わうこと、時代を越えて変わらぬ価値について捉え返すこと。

目標：

時代的（当代的）な要素や普遍的な要素を踏まえ、表現・文化について理解することができる。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP7. 完遂

古典という表現文化を通し、自身の生きる時代の捉え返しと課題を見出すことができる。

現代語・現代文化とは異質な古典という表現文化に最後まで向き合い、理解した上で自身の見解をまとめることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・ 発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

課題レポート（20%×3回）	60%	： 映像作品の鑑賞後に提出された課題レポートを、理解度・記述内容によって評価します。
原文（古文）音読	10%	： 講義時に担当した原文（古文）音読について、5段階で評価します。評価規準については、講義時に提示。
グループ討論・グループ報告	10%	： グループ討議への参加態度、グループによる報告内容によって、3段階で評価します。評価規準については、講義時に提示。
最終課題（期末レポート）	20%	： 与えられた論題に関する理解度と記述内容により評価します。なお、基本的な文章スキルにかかわる減点項目については、講義時に提示。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
近松門左衛門・作、諏訪春雄・訳・注	『曾根崎心中 冥途の飛脚 心中 天の網島』現代語訳付き	角川学芸出版（角川ソフィア文庫）	2007年

参考文献等

諏訪春雄・辻達也・信多純一編『図説日本の古典 近松門左衛門』（集英社、1989年）
 松平進『近松に親しむ—その時代と人・作品』（和泉書院、2001年）
 大阪市立大学文学研究科「上方文化講座」企画委員会編『上方文化講座 曾根崎心中』（和泉書院、2006年）
 神戸女子大学古典芸能研究センター編『近松再発見—華やぎと哀しみ』（和泉書院、2011年）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜・第3限
 場所： 西館4階 91研究室

授業計画

		授業外学修課題にかかると自安の時間
第1回	<p>平成の大阪で、元禄の大坂の表現・文化を〈読む〉ことの意義</p> <p>人形浄瑠璃芝居の特徴や、背景となった元禄時代の習俗（遊郭の生活、商家・農家の生活）について共通認識を持ちます。また、各作品の舞台となった地誌（エリア）についても確認します。</p>	<p>今回の学修範囲「生玉神社の場」前半（古文・現代語訳）を読み進めておく。古文は、何度も音読してスムーズに読めるようにする。</p> <p>4時間</p>
第2回	<p>『曾根崎心中』お初登場・生玉神社の場（1）—お初の願い—</p> <p>遊廓における遊女の生活について再確認し、本作品の冒頭で設定された主人公二人のうち、女主人公であるお初の状況について捉えます。</p> <p>※古文朗読演習</p>	<p>今回の学修範囲「生玉神社の場」後半（古文・現代語訳）を読み進めておく。古文は、何度も音読してスムーズに読めるようにする。</p> <p>4時間</p>
第3回	<p>『曾根崎心中』お初登場・生玉神社の場（2）—徳兵衛の苦境—</p> <p>商家における奉公人の生活について再確認し、本作品の冒頭で設定された主人公二人のうち、男主人公である徳兵衛の状況について捉えます。</p> <p>※古文朗読演習</p>	<p>今回の学修範囲「蜷川新地天満屋の場」前半（古文・現代語訳）を読み進めておく。古文は、何度も音読してスムーズに読めるようにする。</p> <p>4時間</p>
第4回	<p>『曾根崎心中』蜷川新地天満屋の場（1）—お初の憂鬱と、九平次の悪態—</p> <p>前の場面で描かれた徳兵衛の苦境を、最後まで見届けられなかったお初の心情と、当事者である九平次が完全に開き直っているさまを捉えます。</p> <p>※古文朗読演習</p>	<p>今回の学修範囲「蜷川新地天満屋の場」後半（古文・現代語訳）を読み進めておく。古文は、何度も音読してスムーズに読めるようにする。</p> <p>4時間</p>
第5回	<p>『曾根崎心中』蜷川新地天満屋の場（2）—心中決意の共有・〈足問答〉という表現形式—</p> <p>舞台上に展開される〈足問答〉の表現形式について捉えるとともに、登場人物それぞれが抱く想いと、この場面によって、ドラマ展開はどのように方向づけられることになるのか理解します。</p> <p>※古文朗読演習</p>	<p>今回の学修範囲「心中道行・曾根崎の森の場」（古文・現代語訳）を読み進めておく。古文は、何度も音読してスムーズに読めるようにする。</p> <p>4時間</p>
第6回	<p>『曾根崎心中』心中道行・曾根崎の森の場—道行文の表現と、〈恋の手本〉—</p> <p>江戸時代の学者・荻生徂徠が絶讃したとされる道行文を音読によって読み味わうとともに、心中に向かう二人の心をこの世に近づけ止める縁者たちとの関係について読み取ります。さらに、二人の心中場面の陰惨さが持つ意味について考察を加えていきます。</p> <p>※古文朗読演習</p>	<p>今回の映像化作品の鑑賞に備え、『曾根崎心中』を読み返し、全篇の内容をしっかりと再確認しておく。</p> <p>4時間</p>
第7回	<p>映像化作品の鑑賞—『曾根崎心中』（ATG、1978）</p> <p>文字情報によって思い描いてきた作品世界と映像情報化した場合の差異（各自が抱くイメージの差異）を踏まえながら作品世界の捉え返しを行います。</p> <p>※古文朗読演習</p>	<p>課題レポートの執筆。課題内容・分量・書式については講義時に指示する。今回の学修範囲「上之巻」前半（古文・現代語訳）を読み進めておく。古文は、何度も音読してスムーズに読めるようにする。</p> <p>4時間</p>
第8回	<p>『冥途の飛脚』上之巻（1）—忠兵衛をめぐる人間群像—</p> <p>当時の飛脚の仕事について再確認するとともに、本作品の冒頭で設定された主人公をめぐる状況のうち、金催促の内容について捉えます。</p> <p>※古文朗読演習</p>	<p>今回の学修範囲「上之巻」後半（古文・現代語訳）を読み進めておく。古文は、何度も音読してスムーズに読めるようにする。</p> <p>4時間</p>
第9回	<p>『冥途の飛脚』上之巻（2）—遅延する金の配達と〈賣水入〉のウソ—</p>	<p>今回の学修範囲「中之巻」前半（古文・現代語訳）を読み進めておく。古文は、何度も音読してスムーズに読めるようにする。</p> <p>4時間</p>

	<p>本作品の冒頭で設定された主人公をめぐる状況のうち、忠兵衛と八右衛門の間で交わされた〈鬻水入〉を使った詐術を読み解いていきます。</p> <p>※古文朗読演習</p>		
第10回	<p>『冥途の飛脚』中之巻（1）—梅川の想いと、八右衛門の想い—</p> <p>梅川が忠兵衛に注ぐ愛情と心配を押さえるとともに、友人である八右衛門の言動の背後にある想いについて読み取っていきます。</p> <p>※古文朗読演習</p>	<p>今回の学修範囲「中之巻」後半（古文・現代語訳）を読み進めておく。古文は、何度も音読してスムーズに読めるようにする。</p>	4時間
第11回	<p>『冥途の飛脚』中之巻（2）—忠兵衛の〈封印切り〉にみる表現形式—</p> <p>忠兵衛が〈封印切り〉に至るまでの葛藤の内容と心の変化について捉えていきます。</p> <p>※古文朗読演習</p>	<p>今回の学修範囲「下之巻」（古文・現代語訳）を読み進めておく。古文は、何度も音読してスムーズに読めるようにする。</p>	4時間
第12回	<p>『冥途の飛脚』下之巻—ふたりの逃避行と、男女・親子の情愛、事件の決着—</p> <p>この場面における二人の主人公の心情を捉えるとともに、〈親子の情〉が異なる表現形式によって描かれているかについて理解します。結末の描写にも着目します。</p> <p>※古文朗読演習</p>	<p>今回の映像化作品の鑑賞に備え、『冥途の飛脚』を読み返し、全篇の内容をしっかりと再確認しておく。</p>	4時間
第13回	<p>映像化作品の鑑賞—『浪花の恋の物語』（東映、1959）</p> <p>文字情報によって思い描いてきた作品世界と映像情報化した場合の差異（各自が抱くイメージの差異）を踏まえながら作品世界の捉え直しを行います。</p>	<p>課題レポートの執筆。課題内容・分量・書式については講義時に指示する。</p>	4時間
第14回	<p>近松が問いかけるもの—グループ討論—</p> <p>二作品の読解を通じ、これらの作品に通底する作者・近松の〈表現〉意図、あるいは願いについてグループで討議します。また、今回の『近松心中物語』の鑑賞に向け、『ひぢりめん卯月紅葉』の内容について押さえておきます。</p>	<p>今回の映像化作品の鑑賞に備え、配布プリント『ひぢりめん卯月紅葉』に目を通しておく。</p>	4時間
第15回	<p>映像化作品の鑑賞—舞台『近松心中物語～それは、恋』</p> <p>『冥途の飛脚』と『ひぢりめん卯月紅葉』の登場人物を交差させる形で描かれた蛸川幸雄演出の舞台を映像により鑑賞します。現代に生きる近松作品のテーマについて考えるヒントがあるはずです。</p> <p>※最終課題（期末レポート）の課題内容提示</p>	<p>課題レポートおよび最終課題（期末レポート）の執筆。課題内容・分量・書式については講義時に指示する。</p>	4時間

721

授業科目名	Oral Communication I				
担当教員名	麻島徳子・工藤律子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では、英語力の基礎となる文法事項を整理して学び直し、これまで知識として身につけていた英文法をコミュニケーションで使える道具に転換することを目的とします。毎回の授業では、平易な例文で英文法の知識を整理し、かつ実際の英会話の場面を想定した発話練習を繰り返すことによって、知識を定着させます。また、ペアワーク、グループワークを多く盛り込むことによって、協働して課題に取り組む姿勢を育成します。最終的には、日常生活を送る上で必要とされる必要最低限の英会話力を身につけることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

日常生活を送る上で必要とされる英会話能力、英文読解・聴解能力

目標：

日常生活において、最低限のことは英語で会話することができる。また、英語で伝えられる情報を読解・聴解することができる。

汎用的な力

- DP8. 意思疎通

各授業内でのペアワーク、グループワークを通じて、英語で自分のことを説明し理解してもらうことができる。

学外連携学修

有り（連携先：こみち幼稚園）

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回のQuiz	20%	： 毎回、授業の初めに既習単元の小テストを実施します。20点満点の小テストの平均を評価の20%とします。
Review Quiz	30%	： 第15回の授業で、既習単元の理解度を確認するReview Quizを実施します。そのReview Quizの結果を評価の30%とします。
レポート課題	20%	： 学外活動の事前指導、事後指導に基づいてレポート課題を課します。語彙力、表現力、思考力と学外活動に臨む姿勢について、5段階で評価します。
定期試験	30%	： 試験期間中に既習単元を基にした実力テストを実施して、その結果を評価の30%とします。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Hiroimi Akimoto, Mayumi Hamada	Grammar Network	Cengage Learning	2019年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業後・授業前

場所： 授業の教室

備考・注意事項：（麻島）オフィスアワー：火曜1限、研究室：西館5階 メールアドレス：asahata@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間	
第1回	オリエンテーション、英語で自己紹介する ・授業の進め方や評価方法について確認します。 ・be動詞、一般動詞の基本的な用法を整理して、自分のことについて英語で説明できるように練習します。	第1回 で学習した単語・表現を復習し、第2回から始まる小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第2回	身の回りに起きた出来事の「いつ・どこで」を説明する ・前置詞の基本的な用法を整理して、身の回りの出来事について英語で説明できるように練習します。 ・一日の起こった出来事について英語日記を作成します。	第2回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第3回	身の回りに起きた出来事を順序だてて描写する ・接続詞の基本的な用法を整理して、身の回りに起きた出来事を順序立てて英語で説明できるように練習します。 ・適切な接続詞を用いて、取扱説明書の手順を英語で作成します。	第3回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第4回	今やること、習慣的にやっていることを説明する ・現在時制の基本的な用法を整理して、今まさに進行中の動作と習慣的行動について英語で説明できるように練習します。 ・頻度を表す副詞を用いて、自分自身の一週間のスケジュールを英語で作成します。	第4回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第5回	自分のこれまでの振り返り、パーソナルヒストリーを説明する ・過去時制と完了時制の基本的な用法を整理して、過去の出来事について英語で説明できるように練習します。 ・過去時制と完了時制を使い分けて、自分のこれまでの振り返り、パーソナルヒストリーを英語で作成します。	第5回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第6回	未来の予定について話し合う ・未来時制の基本的な用法を整理して、これから起こることについて英語で説明できるように練習します。 ・第4回、5回、6回の学習内容を振り返り、英語の時制について他人に説明するためのグループワークを行います。	第6回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。学外活動の事前準備をしておきます。	2時間
第7回	【小括】これまでの学習成果を発表する ・学外活動として、こみち幼稚園の園児や先生らに対して、第1～6回での学習成果を発表します。 ・発表に対するフィードバックをもらい、自分の発表を見直し、報告書を作成します。	学外活動の報告書（レポート課題）をまとめます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第8回	他人に依頼する、他人からの依頼を受ける ・可能性を表す助動詞の基本的な用法を整理して、英語で他人に依頼したり、依頼を受けたりできるように練習します。 ・丁寧な依頼文となるように留意して、購入した商品についての問い合わせメールを英語で作成します。	第8回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第9回	規則として守らなければならないことを説明する ・義務や必要性を表す助動詞の基本的な用法を整理して、規則として守らなければならないことを英語で説明できるように練習します。 ・適切な助動詞を用いて、授業中に守らなければならないルールを英語で説明する文章を作成します。	第9回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第10回	受動態を用いて様々な状況を描写する ・受動態の基本的な用法を整理して、様々な状況を英語で描写できるように練習します。 ・TOEIC試験のPart 1「情景描写問題」を用いて、受動態がどのような場面で用いられているかを分析します。	第10回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第11回	物事の用途、行動の目的を説明する ・物事の用途、行動の目的を説明する文章を作成します。	第11回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間

	<ul style="list-style-type: none"> 不定詞の基本的な用法を整理して、物事の用途や行動の目的を英語で説明できるように練習します。 不定詞を用いて、自分が取り組んでいること、取り組んでみたいことについて、その目的と共に説明する文章を作成します。 		
第12回	2つ以上のものを比較して物事を説明する <ul style="list-style-type: none"> 比較級、最上級、同格の基本的な用法を整理して、2つ以上のものを比較して物事を英語で説明できるように練習します。 比較に関する表現を用いて、自分の好きなものについて説明する文章を作成します。 	第12回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第13回	関係詞を用いて様々な事柄について詳細な情報を加える <ul style="list-style-type: none"> 関係詞の基本的な用法を整理して、様々な事柄について詳細な情報を英語で加えられるように練習します。 関係詞を用いて、自分の尊敬する偉人について説明する文章を作成します。 	第13回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	2時間
第14回	仮定の話として物事を説明する <ul style="list-style-type: none"> 仮定法の基本的な用法を整理して、仮定の話として物事を英語で説明できるように練習します。 仮定法を用いて、「世界のどこにでも行けるとしたらどこに行きたいか」という内容の英語エッセイを作成します。 	これまで学習してきた内容を復習し、Review Quizの対策をしておきます。	2時間
第15回	【総括】これまで学習してきた内容を振り返る <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習内容を振り返り、ポイントを整理します。 Review quizを通じて、自分の理解が足りないところを把握し、今後の学習課題を掲げます。 	既習範囲を振り返り、小テストの間違いや提出課題の内容を添削して、知識の定着を図ります。	2時間

721

授業科目名	Oral Communication II				
担当教員名	工藤 律子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	幼・小・中・高において、グラマー指導やコミュニケーションに必要な英語の指導を20年行ってきました。また、カリキュラムの作成や12年間一貫教育の内容にも携わってきました。(全15回)				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

学生には馴染みのあるシチュエーションで使われる語彙や表現を学ぶとともに、コミュニケーションツールとしての英語の機能性を理解することを目的とします。また、グローバル社会において英語の必要性を実感し、自分の言葉で意見や考えを伝えることをめざします。授業では英語のやりとりを中心とするため、毎回の授業では辞書が必要となります。ペアワークやグループワークを主とし、発表の機会（発表に必要な素材を用意します）も多くあります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

汎用的な力

1. DP8. 意思疎通

具体的内容：

様々なシチュエーションでの英会話能力、自分の意見を伝える力、思考力

目標：

英語で会話することができる。英語で自分の意見や考えを伝えることができる。

各授業内でのペアワーク、グループワークを通じて、英語で自分の意見や考えを伝え、理解してもらうことができる。

学外連携学修

有り（連携先：こみち幼稚園）

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 実験、実技、実習
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価をすることはできません。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

小テスト（単語・ディクテーション）	10%	既習単元の単語テストやディクテーションテストを実施します。10点満点の小テストの平均を評価の20%とします。
Review Quiz	20%	授業で、既習単元の理解度を確認するまとめReview Quizを実施します。
プレゼンテーション（表現力）	30%	英語でプレゼンテーションします。表現力とプレゼンテーションに臨む姿勢と用いた素材について評価します。
毎回の授業での取り組む姿勢	10%	ペアワークやグループワークに取り組む姿勢やその都度求める意見や意見に対するコメントなどを評価します。
期末レポート	30%	第15回の授業後に日英両方のレポートを課します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Chunk Sandy・Curtis Kelly	Book 2 ACTIVE Skills for Communication	Cengage Learning	2010年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
実習として、学外実習が1回含まれる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業後・授業前
場所： その授業の場所

授業計画		授業外学修課題にかかると見込める目安の時間
第1回	オリエンテーション/Class room Facebook ・授業の進め方や評価方法について確認します。 ・挨拶、自分のことを相手に伝え、情報を共有する。	単語・内容の復習(過去形) 2時間
第2回	Personal Motto/Tall Tales ・意見を伝えたり、物事が何を意味しているかを伝えます。 ・ストーリーを考え、それが真実かどうかを見破るゲームを行います。	単語・内容の復習 (that節) 2時間
第3回	プレゼンテーション/復習1 ・1から2回までの内容を復習し、理解を深めます。 ・写真を用いてプレゼンテーションを行います。	プレゼンテーションでのフィードバックを基に振り返りを行う 2時間
第4回	Keepsakes/Team spirit ・個人の持ち物を紹介し、それが特別である理由を説明します。 ・よい人間関係を作るための方法を考えます。	単語・内容の復習 (不定詞・時制) 2時間
第5回	Hot Spots / Review Quiz ・4回までのReview Quizを実施。 ・広告を作成する。	単語・内容の復習 (不定詞・動名詞) 2時間
第6回	プレゼンテーション・レビュー ・4回～5回の復習 ・イベントを紹介する。	プレゼンテーションでのフィードバックを基に振り返りをする。 2時間
第7回	Class Cookbook/Business Venture ・料理のレシピを紹介する。 ・新しいビジネスアイデアを考える。	単語・内容の復習 (冠詞) 2時間
第8回	Job Interview/復習2 ・5回～7回までの内容を復習する。 ・就職面接の練習をする。	単語・内容の復習 (助動詞) 2時間
第9回	プレゼンテーション/テスト ・6回～8回までのまとめテストを行う。 ・仕事の案内広告を作成する。	プレゼンテーションでのフィードバックを基に振り返りを行う。 2時間
第10回	TV Preview ドラマや映画のワンシーンを作成し、紹介する。	単語・内容の復習 (形容詞) 2時間
第11回	Public Opinion ・クラスや社会で起きている問題について考え、どうすれば解決できるかを考える。	単語・内容の復習 (仮定法) 2時間
第12回	Mini Debate ・この回のみ、ディベートとは何かを日本語で考える。 ・ディベート体験を行う。	ディベートに必要な資料を用意する。 2時間
第13回	Mini Debate ・12回で理解したことを基に、英語でのミニディベートを体験する。	1 2回と1 3回を通しての振り返りを行う。 2時間
第14回	プレゼンテーション/Review Quiz ・自分の今後について発表する。 ・1 0回～1 3回までのReview Quizを行う。	プレゼンテーションでのフィードバックを基に振り返りを行う 2時間
第15回	学外実習 授業で得た英語のスキルを学外実習(英語活動)を通して実践する。 実施内容や時間については1 5回までに伝える。	振り返り・まとめ 4時間

721

授業科目名	文章表現法				
担当教員名	白瀬浩司				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

「文は人なり」という言葉があるように、文章には書き手の人柄や息づかいのようなものが現れてきます。本講座では、文章執筆（作文）の演習を重ねながら、表現内容はもとより、それを音声化する場合の表情や所作まで含め、的確に想いや主張を伝える技術と、曖昧であった自身の想いに形を与えていく楽しさを味わってほしいと考えています。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

様々な形式の文章の実作を通して、書くことに対する苦手意識をなくし、表現する楽しさを味わえること。

目標：

様々な形式の文章について理解し、実際に作文することができる。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP8. 意思疎通

対象となる事物について理解し、課題を見つけることができる。

自身の想いや意見を的確に相手へ伝えられるよう表現することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

作文課題

評価の基準

: 10回程度の作文課題を課し、3段階で評価します（小課題5点、中課題15点）。評価基準については、講義時に提示。

75%

受講態度

: 授業時の発言や班活動への参加態度、課題に取り組む姿勢などを評価します。

15%

最終課題（期末レポート）

: 規定時間内（60分間）に資料を読んで仕上げた最終課題（レポート）の内容により3段階で評価します。評価基準については、講義時に提示。

10%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜・第3限

場所： 西館4階 91研究室

授業計画		授業外学修課題にかかると見られる目安の時間
第1回	<p>《身だしなみ》としての文章表現</p> <p>なぜ「文は人なり」と言われるのか、文章構成のポイント、文章表現のコツなどについて確認し、共通理解を持ちます。</p>	<p>講義時の作文課題（名前作文）が仕上がっていない場合は、完成させる。</p> <p>4時間</p>
第2回	<p>基本的なルールを再確認する—小論文の書き方—</p> <p>原稿用紙の使い方、パソコン文書の注意事項、句読点の付け方、文末表現などについて理解し、小論文の構成について学修します。</p>	<p>小論文課題を執筆し、次時の開始時に提出する。</p> <p>4時間</p>
第3回	<p>《わたし》を発信する術を知る</p> <p>自己発信ツールとしての《第一印象》、被服行動と印象形成過程、表情やしぐさによる印象形成過程について学修します。</p>	<p>講義時の作文課題（印象形成実験の問題点）が仕上がっていない場合は、完成させる。</p> <p>4時間</p>
第4回	<p>好印象写真・悪印象写真に挑戦する</p> <p>前時の学習内容を活かして、グループで好印象写真・悪印象写真の撮影に取り組みます。（グループ活動） 次時の講義開始の際、課題提出用シートに写真貼付・報告文執筆のうえで提出します。</p>	<p>課題提出用シートに好印象写真・悪印象写真をそれぞれ1枚ずつ貼付し、シートの指示に従い、コメントを記述する。</p> <p>4時間</p>
第5回	<p>自己プレゼンテーションとしての就活—エントリーシートの書き方—</p> <p>履歴書・エントリーシートにおける自己PRのポイントについて理解し、実際に作成演習に取り組みます。</p>	<p>講義時の作文課題（履歴書自己PR）が仕上がっていない場合は、完成させる。</p> <p>4時間</p>
第6回	<p>昔話のパロディに挑戦する</p> <p>昔話『桃太郎』の構成や物語の要素について理解した上で、同じ枠組を用いて昔話のパロディ創作に取り組みます。</p>	<p>講義時の作文課題（パロディ版桃太郎）が仕上がっていない場合は、完成させる。</p> <p>4時間</p>
第7回	<p>言葉を選び、心をこめて—手紙の書き方—</p> <p>手紙文の常識や形式について理解した上で、《身近なあの人》に少し改まった形式で手紙（あるいはハガキ）を書き、実際に投函します。</p>	<p>講義時の作文課題（ハガキ）が仕上がっていない場合は、完成させる。</p> <p>4時間</p>
第8回	<p>未来日記・10年後の《私》</p> <p>自身の人生を企画・設計するために10年後までの未来年表を作成し、10年後のあなたがどうなっているかについて想像力をフル動員して記述します。</p>	<p>講義時の作文課題（未来日記）が仕上がっていない場合は、完成させる。</p> <p>4時間</p>
第9回	<p>レポート・論文の書き方</p> <p>短大における単位レポートの基本的な形式や書き方について確認するとともに、文献収集の方法から収集した情報の整理の仕方まで学修します。</p>	<p>講義時の配付資料で、レポート・論文作法について振り返る。</p> <p>4時間</p>
第10回	<p>物語の技法</p> <p>同話・小説における物語の基本を理解し、短編小説・童話を創作するための準備作業について理解します。</p>	<p>次時に取り組む物語創作に向けて、個人で収集できる資料探しやアイデアのまとめをおこなっておく。</p> <p>4時間</p>
第11回	<p>物語（童話・短編小説）の創作</p> <p>与えられた課題に対して、収集した資料や整理した自身のアイデアに基づき、物語原稿の作成に取り組みます。（グループ活動または個人活動）</p>	<p>講義時の作文課題（短編小説創作）が仕上がっていない場合は、完成させる。</p> <p>4時間</p>
第12回	<p>プレゼンテーション演習（1）</p> <p>グループごとに用意したプレゼンテーションを行います。聞き手役は、評価票にプレゼン態度や内容の適否、一言コメントを記入して提出します。</p>	<p>次時のプレゼンテーション担当のグループは、プレゼンの打ち合わせやリハーサルを繰り返し行う。</p> <p>4時間</p>
第13回	<p>プレゼンテーション演習（2）</p> <p>グループごとに用意したプレゼンテーションを行います。聞き手役は、評価票にプレゼン態度や内容の適否、一言コメントを記入して提出します。</p>	<p>配布されたインタビュー記事に目を通し、自分がインタビューする相手を選定する。</p> <p>4時間</p>
第14回	<p>自分以外の誰かの語り部となる—インタビュー記事を書く—</p> <p>インタビュー記事の事例を確認しつつ、その構成の仕方や発信の仕方、文体などについて理解します。</p>	<p>実際にインタビューをおこない、インタビュー記事を執筆し、次時の講義開始時に提出する。</p> <p>4時間</p>
第15回	<p>全体のまとめと最終課題（期末レポート）の提示</p> <p>これまで取り組んできた演習課題の総評を示し、私たちにとって文章表現とは何か捉え返していきます。また、最終課題（期末レポート）に必要な参考資料などを配布し、読み合わせをおこなった上で、論題や分量および評価項目について指示します。</p>	<p>半期の取り組みについて振り返る。最終課題（期末レポート）を完成させ、指定された期日までに提出する。</p> <p>4時間</p>

721

授業科目名	音声表現法				
担当教員名	白瀬浩司				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

私たちのコミュニケーションは言語的要素と非言語的要素によって成り立ちますが、前者を支える柱のひとつが〈音声表現〉にほかなりません。音声表現をしっかりと操作できれば、自身の様々な感情をより豊かに伝えることもできるはずです。本講座では、発声法や間の取り方から始めて、様々な文章（文字情報も言語的要素）や様々な場面における音声表現に取り組んでいきます。身近なところでは、電話対応や接客、文字情報を介しての音読・朗読、台詞読み、群読など、感情を巧みに操りつつ表現を楽しむことが目標です。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

対象をしっかり読み取る（理解すること）、聞き手に合わせて的確な表現の仕方を選定すること。

目標：

提示する事柄・内容を正確に理解した上で、適切な表現方法を選んで伝えることができる。

汎用的な力

- DP8. 意思疎通

自身の伝えるべき事柄を明確に認識し、適切な方法で表現・伝達することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り（振り返りシート、チャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

音声表現にかかわる課題の実演	30%	： 絵本の読み聞かせ実演（第8回＝10点）と、漫才・落語実演（第14回＝20点）について、5段階で評価を行う。評価規準については、講義時に提示。
音声表現にかかわる課題の実演	30%	： 上記以外の回については、1～5点の範囲で個人・班・全体による短い実演を行う。ただし、評価対象の実演なしの回もある。
振り返りシート	30%	： 各回に提出する振り返りシートの記述により、よく理解できている＝2点、概ね理解できている＝1点とします。
最終課題（期末レポート）	10%	： 与えられた論題に関する理解度と記述内容により評価します。なお、基本的な文章スキルにかかわる減点項目については、講義時に提示。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜・第3限
場所： 西館4階 91研究室

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかるときの目安の時間
第1回	<p>音声表現とは何か</p> <p>〈音声表現〉についての共通認識を持つことから始めます。第1回は、様々な文章を身体的には無表情な状態を保ったまま、音声的に様々な感情を表現することに取り組みます。無表情のまま声だけは大喜びしているとか、無表情なのに激しく怒っているとか、無表情のまま号泣しているとか、無表情で大爆笑しているとか、感情をリアルに表現しようとする、顔の表情や体の動きが連動していることに気づく作業でもあります。</p>	<p>次時の音読演習に備え、配布された昔話のプリントの音読練習を繰り返す。</p> <p>4時間</p>
第2回	<p>音読①／昔話一声に出して読んでみるー</p> <p>まずは、ただ声を出して読んでみるという段階です。ひとつの物語を、大きな一小さな声で、高いー低い声で、速いー遅いテンポで、あるいは喜怒哀楽いずれかの一本調子で、通読に取り組みます。</p>	<p>次時の音読演習に備え、配布された詩のプリントの音読練習を繰り返す。</p> <p>4時間</p>
第3回	<p>音読②／詩のことは一声に出して読んでみるー</p> <p>今回はいくつかの詩を選んで、前回と同様の演習に取り組みます。</p>	<p>次時の音読演習に備え、配布された日本古典文学のプリントの音読練習を繰り返す。</p> <p>4時間</p>
第4回	<p>音読③／古典のことは一声に出して読んでみるー</p> <p>今回はいくつかの日本古典文学の文章を選んで、前回と同様の演習に取り組みます。</p>	<p>次時の音読演習に備え、配布された新聞記事のプリントの音読練習を繰り返す。</p> <p>4時間</p>
第5回	<p>音読④／ニュースのことは一声に出して読んでみるー</p> <p>標準語と方言の差異について踏まえた上で、アナウンサーになったつもりでニュース（新聞記事・マンガの台詞・舞台劇の台詞）を読む演習を行います。</p>	<p>次時の読み聞かせ演習に備え、配布された絵本本文のプリントの音読練習を繰り返す。</p> <p>4時間</p>
第6回	<p>読み聞かせ①／擬音語・擬態語のみの絵本</p> <p>次は、誰かに読んで聞かせるという段階です。読み聞かせの基本的な技術について理解した上で、擬音語・擬態語（オノマトペと呼びます）のみで展開する絵本を、最初は淡々と読み、続いて様々な感情をつけながら読み聞かせる作業に取り組みます。</p>	<p>次時の読み聞かせ演習に備え、配布された絵本の本文プリントの音読練習を繰り返す。</p> <p>4時間</p>
第7回	<p>読み聞かせ②／物語絵本</p> <p>物語絵本を、前回と同様、最初は淡々と読み、続いて様々な感情をつけながら読み聞かせる作業に取り組みます。</p>	<p>次時の読み聞かせ演習に備え、自身で1冊の絵本を選定し、読み聞かせ練習を繰り返す。</p> <p>4時間</p>
第8回	<p>読み聞かせ③／各自の選書による絵本（1）</p> <p>各自が選書した絵本を用いて、自身が最適であると判断したやり方で読み聞かせを実演します。</p>	<p>次時の読み聞かせ演習に備え、自身で1冊の絵本を選定し、読み聞かせ練習を繰り返す。</p> <p>4時間</p>
第9回	<p>読み聞かせ④／各自の選書による絵本（2）</p> <p>各自が選書した絵本を用いて、自身が最適であると判断したやり方で読み聞かせを実演します。</p>	<p>次時の朗読演習に備え、配布された詩のプリントの音読練習を繰り返す。</p> <p>4時間</p>
第10回	<p>朗読・群読／詩のことは</p> <p>音読と朗読の違いや群読について理解します。その上で、いくつかの詩について内容理解の討議を行い、朗読・群読に取り組みます。</p>	<p>次時の発話演習に備え、自己紹介と友人とのエピソードを作文した上でしっかりと覚え、3分間の音読練習を繰り返す。</p> <p>4時間</p>
第11回	<p>発話①／自己紹介、スピーチ</p> <p>結婚披露宴に招待された友人代表という設定で、自己紹介および結婚する友人とのエピソードを含む3分間スピーチに取り組みます。（ペア演習）</p>	<p>次時の発話演習に備え、配布された脚本をしっかりと覚え、どの役でも演じられるように音読練習を繰り返す。</p> <p>4時間</p>
第12回	<p>発話②／演劇のことはー対話劇</p> <p>日常のことはと演劇のことはの違いについて理解した上で、身体所作はつけず音声表現のみで対話劇を実演します。（グループ演習）</p>	<p>次時の発話演習に備え、配布された脚本をしっかりと覚え、自身で所作や言い回しを工夫しながら音読練習を繰り返す。</p> <p>4時間</p>
第13回	<p>発話③／演芸のことはー落語・漫才（1）</p> <p>対話相手不在という条件のもと、あたかも相手と対話しているかのように、適宜、身体所作を交えながら一人語りの実演（3分間）に取り組みます。</p>	<p>次時の発話演習に備え、自身あるいはペアで1つの落語・漫才の演目を選定し、所作や言い回しを工夫しながら練習を繰り返す。</p> <p>4時間</p>
第14回	<p>発話④／演芸のことはー落語・漫才（2）</p> <p>各自で選択した3分程度の落語・漫才の演目を、身体所作も含めて完全コピーする形で実演に取り組みます。</p>	<p>次時の討議および最終課題（レポート）に向けて、これまでの演習の振り返りを行う。</p> <p>4時間</p>

第15回	よりよきコミュニケーション技術としての音声表現 これまでの演習を踏まえ、〈音声表現〉の意義や日常生活における有効活用について、全員で総括（問題点の整理と方向性の確認）の討議を行います。	提示された論題にしたがい、最終課題（期末レポート）を執筆する。	4時間
------	--	---------------------------------	-----

721

授業科目名	基礎発声法 I				
担当教員名	葛城七穂				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	宝塚歌劇団出身。 その後、声優として映画・海外ドラマ・アニメ・ナレーション等の出演。 併せて女優として舞台公演の企画制作・振付・出演を行う。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

日常生活においてあたり前のように使用している日本語。その日本語を美しく、はっきりと聞き取りやすいものと意識することによって、よりよいコミュニケーションが可能となります。実際に声を出して体感しながら、声に意識を向けることを身につけていきます。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

音声表現の為の発声、滑舌の知識と技術。

目標：

発声の基礎知識を身につけることができる。

汎用的な力

- 1 . DP6. 行動・実践

他者へどのように伝わっているのか、自分を客観的にみる事ができるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 実験、実技、実習
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

授業内課題の実演	40%	： 課題に対し、どれだけ積極的に取り組んでいるか。課題への理解度、表現力で評価します。
授業態度	30%	： 授業に対し、どれだけ真摯な態度で取り組んでいるか。挨拶・遅刻・忘れ物・受講態度等、マナーも含め評価します。
試験(実技)	30%	： 授業で学んだ事をどれだけ理解し、身につけているか評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 授業の教室

授業計画

第1回 **オリエンテーション<言葉を意識する>**

普段の自分の声・話し方・表情を意識してみ
る。

授業外学修課題に
かかる目安の時間

4時間

	<p>授業概要の説明。 言葉を発することによるコミュニケーションを考える。</p>		
第2回	<p>五十音・腹式発声</p> <p>五十音、及び北原白秋の『五十音歌』を使用し、発声をしてみる。 自身の姿勢・歩き方を確認する。</p>	五十音歌の練習。普段の姿勢・歩き方を意識する。	4時間
第3回	<p>調音 『ア・カ』行</p> <p>『ア・カ』行の発声。 テキストを使用し発声・滑舌を確認する。</p>	今回の復習。テキスト以外の『ア・カ』行も考えてみる。次回テキストに目を通す。	4時間
第4回	<p>調音 濁音・鼻濁音</p> <p>濁音・鼻濁音の発声。 テキストを使用し発声・滑舌を確認する。</p>	今回の復習。テキスト以外の濁音・鼻濁音も考えてみる。次回テキストに目を通す。	4時間
第5回	<p>調音 『サ・ザ』行</p> <p>『サ・ザ』行の発声。 テキストを使用し発声・滑舌を確認する。</p>	今回の復習。テキスト以外の『サ・ザ』行も考えてみる。次回テキストに目を通す。	4時間
第6回	<p>調音 『タ・ダ・ナ』行</p> <p>『タ・ダ・ナ』行の発声。 テキストを使用し発声・滑舌を確認する。</p>	今回の復習。テキスト以外の『タ・ダ・ナ』行も考えてみる。次回テキストに目を通す。	4時間
第7回	<p>調音 『ハ・バ・パ』行</p> <p>『ハ・バ・パ』行の発声。 テキストを使用し発声・滑舌を確認する。</p>	今回の復習。テキスト以外の『ハ・バ・パ』行も考えてみる。次回テキストに目を通す。	4時間
第8回	<p>調音 『マ・ヤ』行</p> <p>『マ・ヤ』行の発声。 テキストを使用し発声・滑舌を確認する。</p>	今回の復習。テキスト以外の『マ・ヤ』行も考えてみる。次回テキストに目を通す。	4時間
第9回	<p>調音 『ラ・ワ』行</p> <p>『ラ・ワ』行の発声。 テキストを使用し発声・滑舌を確認する。</p>	今回の復習。テキスト以外の『ラ・ワ』行も考えてみる。次回テキストに目を通す。	4時間
第10回	<p>母音の無声化</p> <p>母音が無声化する例を確認する。</p>	普段の自分の生活で使用している言葉の中で、無声化するべき言葉を意識してみる。	4時間
第11回	<p>撥音・拗音・促音・長音</p> <p>撥音・拗音・促音・長音の例を確認する。</p>	今回の復習。生活の中で撥音・拗音・促音・長音を意識してみる。次回テキストに目を通す。	4時間
第12回	<p>子音</p> <p>子音の練習。 テキストを使用し発声・滑舌を確認する。</p>	今回の復習。生活の中で子音を意識してみる。次回テキストに目を通す。	4時間
第13回	<p>アクセント</p> <p>標準語のアクセントを意識する。 テキストを使用し発声・滑舌を確認する。</p>	今回の復習。標準語のアクセントを意識した会話の時間を作ってみる。次回テキストに目を通す。	4時間
第14回	<p>リズム</p> <p>言葉のリズム・テンポを意識する。 テキストを使用し発声・滑舌を確認する。</p>	今回の復習。リズム・テンポをコントロールする練習をする。	4時間
第15回	<p>まとめ</p> <p>これまでの復習、確認。 自身の、またお互いのコミュニケーション方法の変化等の再確認。</p>	授業内で習得した成果を踏まえ、自身のコミュニケーション方法に反映出来ているか確認する。	4時間

721

授業科目名	コンピュータ基礎				
担当教員名	田中哲平				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

社会で求められるコンピュータの扱いを身に付けるとともに、インターネットリテラシーやインターネットを用いた検索手法などについて学ぶ。特にWindowsの基本的操作に加え、Office系ソフトであるWordを用いた文書作成、Excelを用いたデータ管理とその表現、PowerPointを用いた発表資料作成を中心に学ぶ。さらに、SNSを含めたインターネットリテラシーや、インターネットを用いた学術的検索手法、メールのやり取り、タッチタイピングなどについても学ぶ。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

コンピュータに関連するスキル

目標：

ワードプロセッサ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本的操作ができる。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通
- 2 . DP4. 課題発見

分かりやすい文書や発表資料が作成できる。
データ管理のために、表やグラフを作成できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

授業への取り組み状況	30%	： 授業中に指示する作業を提出する（2点×15回=30点）
演習課題	30%	： Word, Excel, PowerPoint を用いた演習課題を完成する（10点×3回=30点）
最終課題（期末レポート）	40%	： WordおよびExcelを用いて修学旅行のしおりを作成し、総合的なレポートを完成する（40点）

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で配布する資料

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日1限
場所： 研究室

授業計画		授業外学修課題にかかると見込まれる時間
第1回	インターネットリテラシーと学内PCの操作 授業の目的、内容、評価について確認を行い、学内PCの基本的操作方法について学ぶ。インターネットリテラシーを身につける。	ポータルシステムにログインし、履修状況を確認する。 4時間
第2回	インターネット検索とタッチタイピング インターネットを用いた検索方法について学びながら、著作権への意識を高める。また文字入力（タッチタイピング）の練習を行う。	eメールの送信、タッチタイピングの練習 4時間
第3回	Word入門 Wordに関する基礎知識を学び、文字入力や変換、様々なショートカットについて学ぶ。	Wordでの文書作成 4時間
第4回	Wordを用いた文章作成 Wordの文書作成機能、校正機能や表について学ぶ。	Wordでの文書作成 4時間
第5回	Wordを用いた画像処理 Wordを用いたレポート作成方法、画像などの挿入方法を学ぶ。	Wordの練習や例題に取り組む 4時間
第6回	PowerPoint入門 PowerPointの基礎知識を学ぶ。	PowerPointの練習や例題に取り組む。 4時間
第7回	プレゼンテーション入門 PowerPointを用いたプレゼンテーションについて学ぶ。	PowerPointの練習や例題に取り組み、プレゼンテーションの準備を行う。 4時間
第8回	プレゼンテーション実習 (1) PowerPointで作成したスライドを用いて実際にプレゼンテーション発表を行い、他者の発表の評価をする。	プレゼンテーションの準備 4時間
第9回	プレゼンテーション実習 (2) PowerPointで作成したスライドを用いて実際にプレゼンテーション発表を行い、他者の発表の評価をする。	プレゼンテーションの準備 4時間
第10回	プレゼンテーション実習 (3) PowerPointで作成したスライドを用いて実際にプレゼンテーション発表を行い、他者の発表の評価をする。	プレゼンテーションの準備 4時間
第11回	Excel入門 Excelの基礎知識を学び、データ入力の方法を身に付ける。	Excelの練習や例題に取り組む。 4時間
第12回	Excelを用いた関数と表作成 Excelを用いた簡単な関数を理解し、表の作成方法を学ぶ。	Excelの練習や例題に取り組む。 4時間
第13回	Excelを用いたグラフ作成 Excelを用いたグラフの作成方法を学ぶ。	Excelの練習や例題に取り組む。 4時間
第14回	まとめ これまでのWord, Excel, PowerPoint の振り返りを行い、最終課題（修学旅行のしおり）に関する説明を行う。	講義資料の復習。 4時間
第15回	課題演習 最終課題（修学旅行のしおり）を実際に作成する作業を行う。	課題の完成。 4時間

721

授業科目名	基礎発声法Ⅱ				
担当教員名	葛城七穂				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	宝塚歌劇団出身。 その後、声優として映画・海外ドラマ・アニメ・ナレーション等の出演。 併せて女優として舞台公演の企画制作・振付・出演を行う。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

日常生活においてあたり前のように使用している日本語。その日本語を美しく、はっきりと聞き取りやすいものと意識することによって、よりよいコミュニケーションが可能となります。
身体全体を使って発声・表現をしていくことにより、更に豊かな表現力を身につけていきます。
表現する向こう側にいる聞き手を意識し、聞き手を楽しませる為にまず自分達が楽しんで取り組めるようにしていきます。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

音声表現の為の滑舌・発声。身体も使った表現が音声での表現にも繋がる
と考え、様々なパフォーマンスからアプローチする。

目標：

音声表現の為に、自在に操れる柔軟性を目指す。

汎用的な力

- 1 . DP6. 行動・実践

他者へ向けての表現力がより豊かになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

授業内課題の実演	40%	： 課題に対し、どれだけ積極的に取り組んでいるか。課題への理解度、表現力で評価します。
授業態度	30%	： 授業に対し、どれだけ真摯な態度で取り組んでいるか。挨拶・遅刻・忘れ物・受講態度等、マナーも含め評価します。
試験(実技)	30%	： 授業で学んだ事をどれだけ理解し、身につけているか評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 授業の教室

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	会話劇① 滑舌 会話劇を用いて言葉の聞き取りやすさ・滑舌を確認する。	今回の復習。セリフを覚える。 4時間
第2回	会話劇② 距離感 会話劇を用いて、言葉の距離感を身につける。	今回の復習。 4時間
第3回	動作エチュード 動作ひとつで他人にどう伝わるのか、伝える為には何を意識するのか考える。	今回の復習。他人から見た自分を意識する。 4時間
第4回	一言エチュード 決められた一言で様々な背景を考え、表現力を膨らませる。	今回の復習。同じ言葉でも背景によって意味が広がることを意識する。 4時間
第5回	モノログ① 『喜』 モノログで『喜怒哀楽』の『喜』を重点におき表現してみる。	今回の復習。喜びの表現のバリエーションを考えてみる。 4時間
第6回	モノログ② 『怒』 モノログで『喜怒哀楽』の『怒』に重点をおき表現してみる。	今回の復習。怒りの表現のバリエーションを考えてみる。 4時間
第7回	モノログ③ 『哀』 モノログで『喜怒哀楽』の『哀』に重点をおき表現してみる。	今回の復習。哀しみの表現のバリエーションを考えてみる。 4時間
第8回	モノログ④ 『楽』 モノログで『喜怒哀楽』の『楽』に重点をおき表現してみる。	今回の復習。楽しさの表現のバリエーションを考えてみる。 4時間
第9回	創作エチュード【一人】 与えられたテーマで表現してみる。	今回の復習。客に伝えるという事を意識する。 4時間
第10回	創作エチュード【二人】 与えられたテーマでペアになって表現してみる。	今回の復習。ペアの相手との意思疎通を意識する。 4時間
第11回	創作エチュード【総合】 これまでのエチュードを振り返りながら、与えられたテーマで複数名で表現してみる。	今回の復習。複数名での意思と状況の共有を意識する。 4時間
第12回	戯曲① 本読み 戯曲の小作品に取り組む。 本読み、滑舌、アクセント等の確認。	今回の復習。セリフを覚える。 4時間
第13回	戯曲② 立ち稽古 軽いミザンスをつけ、立ち稽古をする。	今回の復習。背景を考える。 4時間
第14回	戯曲③ 立体化 作品をふくらませ更に立体化させる。	今回の復習。自分が伝えたいものが何なのか、より伝わる為にすべきことを考える。 4時間
第15回	まとめ 作品の発表。 授業を通し得たもの、自身を振り返る。	言葉をコントロールすることが出来ているか、確認する。 4時間

721

授業科目名	朗読演習				
担当教員名	葛城七穂				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	宝塚歌劇団出身。 その後、声優として映画・海外ドラマ・アニメ・ナレーション等の出演。 併せて女優として舞台公演の企画制作・振付・出演を行う。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

様々な作品をテキストに用い、その世界観を伝えることを目標に、読解力、発声、創造力、表現力を磨いていきます。作品を語る向こう側にいる聞き手を意識し、聞き手を楽しませる為にまず自分達が楽しんで取り組めるようにします。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

朗読の表現法

目標：

安定した声での表現。豊かな表現力を身につける。

汎用的な力

- DP5. 計画・立案力

他者に伝える力を培う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

授業内課題の実演	40%	： 課題に対し、どれだけ積極的に取り組んでいるか。課題への理解度、表現力で評価します。
授業態度	30%	： 授業に対し、どれだけ真摯な態度で取り組んでいるか。挨拶・遅刻・忘れ物・受講態度等、マナーも含め評価します。
試験(実技)	30%	： 授業で学んだ事をどれだけ理解し、身につけているか評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 授業の教室

授業計画

第1回

オリエンテーション<朗読に向けて>

滑舌・発声の練習。

授業外学修課題にかか
る目安の時間

2時間

	授業の進め方の説明。 滑舌・発声の基礎説明。		
第2回	小文① 音読 小文を用い、音読する。 声の大きさを意識し、一定の大きさを保つ。	滑舌練習。テキストの読み込み。	2時間
第3回	小文② リズム 音読する上でのリズム・テンポを意識する。	リズムコントロールを確認する。	2時間
第4回	絵本 幼い子供に向けての表現。 難しい言葉は使わず、豊かな表現を求める。	テンションの維持、聞き手への思いを確認する。	2時間
第5回	日本文学① 感情 読み手の感情を入れてみる。	作品を読み込む。	2時間
第6回	日本文学② フレージング フレージングを意識して豊かな表現を目指す。	感情を意識する。	2時間
第7回	翻訳作品① 読解力 作品の裏にある意図を読み解き伝える。	作品を読み込む。	2時間
第8回	翻訳作品② 距離感 言葉を投げる方向を意識する。	どこに向かって発しているのかを確認する。	2時間
第9回	現代日本文学① 声の色 作品にあった声の色とは。	作品を読み込む。	2時間
第10回	現代日本文学② 喜怒哀楽 作品内の喜怒哀楽を丁寧に分析し、表現する。	一文の中にも様々な感情が含まれる。それぞれの解釈があってもよい。	2時間
第11回	朗読劇① 会話 言葉のキャッチボールをする。	作品を読み込む。相手の言葉を聞いて、受け止める。	2時間
第12回	朗読劇② キャラクター キャラクターを創造する。	本に書かれている情報を元に、人物像を膨らませてみる。その表現方法を模索する。	2時間
第13回	朗読劇③ レセプション 会話の中のレセプション点を探る。	言葉のキャッチボールの為に、レセプションを丁寧に見つけていく。	2時間
第14回	朗読劇④ 群読 他人と声を合わせる。言葉を受け渡す。 世界観を共有し、ひとつの作品を創り上げる。	自分ひとりで完結するのではなく、仲間と作品を創る。	2時間
第15回	まとめ 創り上げた作品を発表。 授業内で得た、表現することへの向き合い方を確認する。	様々なものに興味を持ち、自分の引き出しを増やす。	2時間

721

授業科目名	音楽パフォーマンス				
担当教員名	楠井淳子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	以下の実務経験を有する。高等学校教員、民間および音楽大学付属音楽教室、音楽院の講師として勤務。(全15回)				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

ノンバーバルコミュニケーションである音楽を使って感性を養います。声・からだを使ったアンサンブルや合唱、各種楽器を用いたアンサンブルなどのグループワークを通して“共に音楽する”ことの意味や効果を探ります。そして、即興やわらべうたを素材とした音楽作りでは、音楽の持つ規則的なテンポ、リズム、音列の枠内、また枠におさまらないものも含んだ創作体験により、非言語で自己表現したり、他者の表現を感受することで音楽表現や創造力を身に付けます。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

音やリズムが持つ機能をよく理解し意図的に使える知識。
声や各種楽器などを意図する表現に向けて演奏する技能。自己の発想を具現化する技能。

目標：

リズムや音符の高さを理解して演奏する事ができる。
グループワークの中で自己表現ができる。簡単な音楽パフォーマンスを創作することができる。

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践
2. DP9. 役割理解・連携行動

自主的な練習を継続することにより、自己の表現力を高める事ができる。
アンサンブルや合唱などのグループワークを通して、協同する力を育むと共に自己の役割を果たす事ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

期末レポート	20%	: 期末レポート課題を考察力、記述力の観点から20点満点で評価する。提出は定期試験時にて行い、評価する。
授業内課題1（発表）	30%	: 合奏や合唱などのグループワークを基礎力・表現力の観点から各5段階で評価する。発表時のコメントシートの記述内容についても5段階で評価する。
授業内課題2（提出課題）	10%	: 授業内容の理解度をワークシートなどをもとに5段階で評価する。
受講態度（積極的参加）	40%	: 演習への積極的な参加や取り組みの状況およびコメントシートの内容について総合的に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日3限

場所： 第9研究室

備考・注意事項： その他の時間も第9研究室（西館6階）で受け付けます。

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかると自安の時間
第1回	授業の概要と音楽パフォーマンス入門 <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・音、音楽の起源 ・記譜：音符と休符について ・様々な音階 	音符と休符、音階についての練習問題を復習する。様々なジャンルの音楽を意識的に聴く。 4時間
第2回	基礎リズムとボディパーカッション <ul style="list-style-type: none"> ・基礎リズム ・ボディパーカッション ・リズムアンサンブル 	音価とリズムについての練習問題を復習する。様々なジャンルの音楽を意識的に聴く。 4時間
第3回	合奏① <ul style="list-style-type: none"> ・各種楽器を用いた合奏曲を演奏する。 ・グループ毎に選曲する。 ・楽器編成と役割を決定する。 ・楽器の奏法 	合奏曲の自己練習する。様々なジャンルの音楽を意識的に聴く。 4時間
第4回	合奏② グループ活動：パート別に練習する。 グループ全体での練習。	合奏曲の自己練習する。様々なジャンルの音楽を意識的に聴く。 4時間
第5回	合奏③ <ul style="list-style-type: none"> ・グループ練習を行う ・合奏作品の発表 ・他のグループの演奏を聴き、批評と感想をまとめ意見交換や討議を行なう。 	意見交換や討議を通して考えたことをまとめる。様々なジャンルの音楽を意識的に聴く。 4時間
第6回	トーンチャイムとハンドベルを使った音楽① <ul style="list-style-type: none"> ・トーンチャイムとハンドベル ・楽器の奏法 ・オブリガート奏とハーモニー奏 ・グループ毎に選曲する。 	課題曲のメロディーの歌唱練習。鍵盤楽器があれば視奏練習も行う。 4時間
第7回	トーンチャイムとハンドベルを使った音楽② <ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎に音の配分を考察し、役割分担する。 ・パート別に練習する。 ・全体練習も行う。 	自己パートの練習として音読と歌唱を行なう。鍵盤楽器があれば視奏練習も行う。 4時間
第8回	トーンチャイムとハンドベルを使った音楽③ <ul style="list-style-type: none"> ・グループ練習 ・トーンチャイム、ハンドベルアンサンブルの発表。 ・他のグループの演奏を聴き、批評と感想をまとめ意見交換や討議を行なう。 	意見交換や討議を通して考えたことをまとめる。様々なジャンルの音楽を意識的に聴く。 4時間
第9回	わらべうた創作① <ul style="list-style-type: none"> ・わらべうたを素材として、五音音階など民族的な音楽についての理解を深める。 ・各種わらべうたを身体表現を伴いながら歌う。 ・わらべうたの音階を使って、各自わらべうたを創作する。 	わらべうた創作の推敲。 4時間
第10回	わらべうた創作② <ul style="list-style-type: none"> ・わらべうた創作を完成させる。 ・創作したメロディーを演奏する。 ・可能であれば、リズム楽器を加えたアンサンブルを考察する。 	創作したわらべうたの練習。自分が知っているわらべうたを確認し、歌ったり動作をつけたりして表現練習する。 4時間
第11回	わらべうた創作③ <ul style="list-style-type: none"> ・創作わらべうたの練習 ・発表 ・他者の演奏を聴き、批評と感想をまとめ意見交換や討議を行なう。 	意見交換や討議を通して考えたことをまとめる。わらべうたを歌う。 4時間
第12回	声や各種楽器による音楽パフォーマンス① <ul style="list-style-type: none"> ・発声法と発声練習 ・合唱曲（2部合唱）を歌う。 ・各自のパートを決定する。 ・パート練習と全体練習 ・グループに分けて、選曲する。 ・各種楽器のアンサンブルを選択したグループは選曲した楽曲の場合に応じてアレンジする。 	発声練習を行う。パフォーマンス作品の各自のパート練習。 4時間
第13回	声や各種楽器による音楽パフォーマンス② <ul style="list-style-type: none"> ・音楽パフォーマンス作品の練習 ・作品の表現練習と工夫 ・グループ練習 	発声練習を行う。パフォーマンス作品の各自のパート練習。表現にも配慮して練習する。 4時間

第14回	声や各種楽器による音楽パフォーマンス③ <ul style="list-style-type: none">・音楽パフォーマンス作品の練習では完成度を高める。・演奏会リハーサル	各自の完成度を高める練習を行う。可能であれば練習グループも課外時間に実施する。	4時間
第15回	声や各種楽器による音楽パフォーマンス発表会 <ul style="list-style-type: none">・音楽パフォーマンス作品の発表。・グループ別と全体曲。・他のグループの演奏を聴き、批評と感想、自己評価をまとめ意見交換や討議を行なう。	授業内容を振り返り、自己の課題を明確にする。	4時間

721

授業科目名	児童英語指導法 I				
担当教員名	工藤 律子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	私立幼稚園・小学校でのカリキュラム作成および英語指導。J-SHINEトレーナー。mpi小中英語指導者資格（上級英語指導者）（全15回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

英語を取り巻く環境が大きく変わり、早期英語教育が注目されていますが、指導者を必要としているのは言うまでもありません。児童の英語指導は自身が英語を学ぶ上でも、必要なことが多くあります。この講義では、実践的な指導法を学ぶため、自身の子供や教室で英語を教える際のヒントをたくさん学ぶことができます。指導案は複雑なものではなく、モデル案にそって行います。この講義はあくまでも楽しく英語を子供に教えたいということが基本となります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	英語教育の現状・言語習得・英語指導法について学ぶ。	児童英語指導において必要な知識を理解する。
2．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	指導案作成し模擬授業を行う。	講義でえた理解を指導実践にいかす。
汎用的な力		
1．DP4.課題発見		模擬授業を通して課題を発見し、改善を行う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 実験、実技、実習
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業への取り組み状況	10% : 講義に関するグループディスカッションへの積極的姿勢を評価する。
小レポート	10% : 英語指導法に必要な知識をまとめる。
小テスト	20% : 英語指導に関する知識をテストする。
模擬授業・発表・フィードバック	30% : 模擬授業・発表の内容を評価する。フィードバックのコメントを評価する。
期末レポート	30% : 第15回の授業後に小学校の学習指導要領・フォニックス・レッスンプラン・言語習得の基礎に関するレポート提出する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・ Let's Try 1・2	・ 東京書籍	・ 2018年
小川隆夫・東仁美	・ 小学校英語はじめる教科書	・ mpi	・ 2017年

参考文献等

「小学校学習指導要領 外国語活動・外国語編」「英語教員のための応用言語学」
その他の参考文献は授業中に指示を出す。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

授業計画

		授業外学修課題にかかる目安の時間	
第1回	J-SHINEの制度と理念の理解／小学校教育の理念と現状の理解／小学校英語（活動型・教科型）の学習指導要領の理解 児童を取り巻く教育環境の変化を理解し、英語教育の必要性や指導者について考える。外国語（英語）活動と教科としての外国語（英語）の違いを理解する。	テキストを読み、理解してこること・学習指導要領に目を通すこと・フォニックスルール（フォニックスアルファベット）	4時間
第2回	中学校・高校の学習指導要領との関連／小・中・高等学校の英語教育における連携と校種ごとに期待される役割／多様な学校・児童のニーズへの対応の在り方を理解する 各各種ごとに設定された学習指導要領を理解し、学びの接続について理解し、校種ごとに何ができるのかを考える。実例を元に、インクルーシブ教育について学び、教員として多様な生徒への対応を理解する。	テキストを読み、理解してこること・学習指導要領に目を通すこと・フォニックスルール（子音）	4時間
第3回	異文化理解（異文化・多様性とは何か）① 今までに行った異文化交流を振り返り、そこで得たものについて考える。また、新しい異文化交流の企画を考える。多様な学校・児童のニーズへの対応の在り方で学びを活かし、多様性について考える。	テキストを読み、理解すること	4時間
第4回	第二言語習得の理論の基礎（言語習得のプロセス）①／発達心理学の基礎（児童の発達段階）①／音声・語彙・文法の基礎知識（語彙）① 第二言語習得の理論について理解する。各児童の発達の特質について考える。コミュニケーションとして文法や日本語の音声との違いについて学ぶ。	テキストを読み、理解すること・フォニックスルール（短母音）	4時間
第5回	第二言語習得の理論の基礎（さまざまな理論）②／発達心理学の基礎（児童の発達の支援）②／音声・語彙・文法の基礎知識（文構造・文法）② 第二言語習得理論から示唆を得て、小学校教育の授業について考える。各児童の発達に合わせた指導の工夫について考える。発音と綴りの関係について学ぶ。	テキストを読み、理解すること・フォニックスルール（eのついた母音）	4時間
第6回	英語活動の狙いとあり方（活動のねらい）①／学級担任と外部指導者とのTTについての考察（TTとは）①／児童の認知力や発達に即した指導法（児童の認知発達）① 「小学校 学習指導要領」から活動の狙いについて理解する。外部指導者とTTの授業を行う効果について考える。社会発達論、認知発達論について理解する。	テキストを読み理解すること・フォニックスルール（礼儀正しい母音）	4時間
第7回	英語活動の狙いとあり方（活動のあり方）②／学級担任と外部指導者とのTTについての考察（JTEとは・具体例）②／児童の認知力や発達に即した指導法（ヴィゴツキーの社会文化理論）② 「外国語活動 活動例案」を基に各学年にふさわしい活動の進め方について考える。TTの具体的事例を学ぶ。児童の認知・情緒に合わせた指導法を考案する必要性について考える。	テキストを読み、理解すること・フォニックスルール（第1回～7回までの復習）	4時間
第8回	英語によるコミュニケーションの方法とその指導法 演習（授業案について）① 主体的・対話的で深い学びができるコミュニケーションの目的や場面、状況を設定し、他者に配慮しながら意味のあるやりとりを行う授業案を作成する。	指導案を作成すること・フォニックスルール（2文字子音）	4時間
第9回	英語によるコミュニケーションの方法とその指導法 演習（模擬授業）② 8回で作成した授業案を基に、模擬授業を行い、互いにフィードバックを行う。	指導案を再構成すること・フォニックスルール（2文字母音）	4時間
第10回	英語によるコミュニケーションの方法とその指導法 演習（TPR指導法）③ 「聞く」必然性のある活動としてのTPR指導法を学び、実際の授業を体験する。	テキストを読み、理解すること・フォニックスルール（第9回～10回の復習）	4時間
第11回	児童の認知・情緒発達に即した指導法 演習（学校事例）①／異文化理解（学校事例）② 様々な生徒を受け入れている学校の事例を学ぶ。低学年に適した指導法の作成し、模擬授業を行い、互いにフィードバックを行う。	指導案を作成し、再構成すること・フォニックスルール（連続子音）	4時間
第12回	児童の認知・情緒発達に即した指導法 演習（指導法の作成）② 中学年に適した指導法の作成、模擬授業を行い、互いにフィードバックを行う。	指導案を作成し、再構成すること・フォニックスルール（rのついた母音）	4時間
第13回	児童の認知・情緒発達に即した指導法 演習（模擬授業）③ 高学年に適した指導法の作成、模擬授業を行い、互いにフィードバックを行う。	指導案を作成し、再構成すること・フォニックスルール（第13回～14回の復習）	4時間

第14回	言葉への気づきをもたらす指導法 演習（指導法の作成）① 言葉の違いに「気づく」という体験をし、「気づき」をもたらす活動を作成する。	指導案を作成すること・フォニックスルールを理解するための指導について	4時間
第15回	言葉への気づきをもたらす指導法 演習（模擬授業）② 14回で作成した活動の模擬授業を行い、互いにフィードバックを行う。	指導案を再構成すること	4時間

721

授業科目名	児童英語指導法Ⅱ				
担当教員名	工藤 律子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	私立幼稚園・小学校でのカリキュラム作成および英語指導。J-SHINEトレーナー。mpi小中英語指導者資格（上級英語指導者）（全15回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

英語を取り巻く環境が大きく変わり、早期英語教育が注目されていますが、指導者を必要としているのは言うまでもありません。児童の英語指導は自身が英語を学ぶ上でも、必要なことが多くあります。この講義では、実践的な指導法（歌・絵本・チャンツを利用した指導法）を学びます。また、小学生への4技能指導について、模擬授業を通して実践力を身につけます。指導案は複雑なものではなく、モデル案にそって行います。この講座はあくまでも楽しく英語を子供に教えたいということが基本となります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	様々な英語指導法について学ぶ。	児童英語指導において必要な知識を理解する。
2．DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	歌や絵本などを通じた指導法を学ぶ。	多くの歌や絵本にふれ、指導実践を行う。
汎用的な力		
1．DP4.課題発見		模擬授業を通して課題を発見し、改善を行う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 実験、実技、実習
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業への取り組み状況 10%	: 講義に関するグループディスカッションへの積極的姿勢を評価する。
小レポート 20%	: 英語指導法に必要な知識をまとめる。
小テスト 10%	: 英語指導に関する知識をテストする。
模擬授業・発表・フィードバック 30%	: 模擬授業・発表の内容を評価する。フィードバックのコメントを評価する。
期末レポート 30%	: 第15回の授業後に歌・絵本・チャンツなどを利用した授業、レッスンプラン、フォニックスルールについてのレポートを行います。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
小川隆夫・東仁美	・ 小学校英語 はじめる教科書	・ mpi	・ 2017年
文部科学省	・ We Can 1・2	・ 東京書籍	・ 2018年

参考文献等

「Songs and Chants」「Brown Bear, Brown Bear, What do you see?」「英語で自己表現ワーク」
そのほかの参考文献は授業中に指示を出す。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	小学生に適したリスニング・スピーキング・ライティング・リーディングの指導／4技能統合型活動の理解（具体的活動例）① 「小学校 学習指導要領」を基に、児童が求められる力を理解し、指導者として必要な力を考える。CLILLについて理解する。	テキストを読み、理解すること 4時間
第2回	4技能統合型活動の理解（担任の指導力）②／児童の発話の引き出し方・児童とのやりとりの進め方／英語の基本的な語彙や表現に慣れ親しませる方法の指導 5領域統合型の授業について考える。動画や絵を用いて、英語の語彙や表現に慣れ親しむ方法を具体的に学ぶ。	テキストを読み、理解すること・具体的な指導法をまとめること 4時間
第3回	児童の発話の引き出し方・児童とのやりとりの進め方／英語の基本的な語彙や表現に慣れ親しませる方法の指導 歌やチャンツやマザーグースを用いて、英語の語彙や表現に慣れ親しむ方法を具体的に学ぶ。	歌・チャンツ・マザーグースを練習する 4時間
第4回	小学生に適したリスニング・スピーキング指導 演習（指導案作成）① 指導案を作成する。	指導案を作成する 4時間
第5回	小学生に適したリスニング・スピーキングの指導 演習（模擬授業）② 3回で作成した指導案を基に模擬授業を行い、互いにフィードバックを行う。	指導案を再構成する 4時間
第6回	小学生に適したライティング・リーディングの指導 演習（指導案作成）③ 指導案を作成する。	指導案を作成する 4時間
第7回	小学生に適したライティング・リーディングの指導 演習（模擬授業）③ 5回で作成した指導案を基に模擬授業を行い、互いにフィードバックを行う。	指導案を再構成する 4時間
第8回	4技能統合型活動 演習（指導案作成）①／Classroom English 演習（指示英語）① 指導案作成。教室英語の表現を練習する。	指導案を作成する・教室英語の練習 4時間
第9回	4技能統合型活動 演習（模擬授業）②／Classroom English 演習（やり取りの英語）② 7回で作成した指導案を基に模擬授業を行い、互いにフィードバックを得る。 教室英語の表現を練習する。	指導案を再構成する・教室英語の練習 4時間
第10回	歌の指導 演習（相手に理解してもらおう英語）① 授業の場面に応じた歌の選び方を理解し、指導を体験する。児童に対して指示や説明する際に、わかりやすい英語表現を考え、指導練習を行う。	歌および歌の指導の練習 4時間
第11回	マザーグースの指導 英語特有のリズムやライムを体感し、指導を体験する。	たくさんのマザーグースについて触れ、理解する 4時間
第12回	チャンツの指導 チャンツを用いることによる語彙や表現のインプットを体感し、指導を体験する。	チャンツの指導 4時間
第13回	絵本指導、読み聞かせ指導 演習（低学年向け）①／Teacher Talk 演習（やり取りの英語）② 低学年を対象とした絵本指導の体験をする。絵本を1冊選び、その内容を理解させる指導の体験をする。児童に対して指示や説明する際に、わかりやすい英語表現を考え、指導演習を行う。	絵本の指導案を作成する 4時間
第14回	絵本指導、読み聞かせ指導 演習（高学年向け）② 高学年を対象とした絵本指導の体験をする。絵本を1冊選び、児童との対話を取り入れながら、ストーリーの中へ引き込む指導の体験をする。	絵本の指導案を作成する 4時間
第15回	絵本指導、読み聞かせ指導 演習（模擬授業）③ 絵本指導、読み聞かせ指導を行い、互いにフィードバックを得る。	指導内容を再構成する 4時間

721

授業科目名	漢文学入門				
担当教員名	佐伯暁子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、①漢文を読む上で必要となる句法や重要な文字などに関する知識を着実に習得するとともに、②漢文の読解力を養成することを目指す。漢文の重要事項への理解を深め、読解力を高めることで、中学校教育の現場で漢文や漢詩について分かりやすく説明することができる知識を習得することを本授業の目的とする。また、中学校国語の教科書で故事や漢詩がどのように導入されているか理解し、教育実習の授業実習につなげることができるようにする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	漢文の句法の理解	漢文を読む上で必要となる句法や重要な文字を理解し、説明することができる。
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	漢文の読解力	句法や重要な文字の理解を踏まえ、漢文や漢詩を読解することができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		現代の国語教育（故事や漢詩）について、自分なりの問題意識を持つことができる。
2．DP10. 忠恕の心		建学の精神である「桃李不言下自成蹊」、行動指針である「忠恕」の意味を理解することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

確認テスト	65%	： 授業内容の理解度について各回5点で評価し、合計65点とする。
期末テスト	35%	： 漢文の句法や漢詩に関する問題を出題し、35点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・ 畠山利子『徹底20日間マスター 漢文（基礎編）』（日栄社、2012年）
- ・ 高橋健一・寺田るり子・藤堂光順『ステップアップノート10 漢文 句形ドリルと演習』（河合出版、2015年）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	月曜日3限（13:00-14:30）
場所：	西館5階研究室
備考・注意事項：	その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：saiki@osaka-seikei.ac.jp）。Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス—漢文とは— 一般的な漢文や故事に触れ、漢文とは何か学ぶ。	授業で取り上げた漢文や故事についての重要事項を復習する。	4時間
第2回	訓読の決まり（１）漢文の構造、送りがなを教育実践から考える 漢文の構造、送りがなについて学び、訓読の方法を習得するとともに、教育実践の視点から「訓読の決まり」を捉え直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：歴史のかなづかい	4時間
第3回	訓読の決まり（２）返り点、書き下し文を教育実践から考える 返り点、書き下し文について学び、訓読の方法を習得するとともに、教育実践の視点から「訓読の決まり」を捉え直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：レ点、一・二点、上・下点、仮名書き、置き字	4時間
第4回	句形（１）使役を教育実践から考える 教育実践の視点から使役形について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：使、命	4時間
第5回	句形（２）受身を教育実践から考える 教育実践の視点から受身形について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：被、見	4時間
第6回	句形（３）否定を教育実践から考える 教育実践の視点から単純な否定と禁止を表す句形である否定形について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：不、非、無、勿	4時間
第7回	句形（４）疑問形・反語形を教育実践から考える 教育実践の視点から疑問形、および反語形のうち、文末の助字を用いる形、疑問詞を用いる形について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：文末の助字を用いる形、疑問詞を用いる形	4時間
第8回	句形（５）比較形・最上形を教育実践から考える 教育実践の視点から比較形と最上形について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：如、於、莫	4時間
第9回	句形（６）限定形・累加形を教育実践から考える 教育実践の視点から限定形と累加形について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：唯、耳	4時間
第10回	句形（７）仮定形を教育実践から考える 教育実践の視点から仮定形について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：若、雖	4時間
第11回	中学国語の故事・漢詩（１）中学１年、中学２年 中学国語の１年および２年の教科書で取り上げられている故事や漢詩の教材研究を行う。	教材研究に取り組む。	4時間
第12回	中学国語の漢文（２）中学３年 中学国語の３年の教科書で取り上げられている漢文の教材研究を行う。	教材研究の内容をプリントにまとめる。	4時間
第13回	漢詩を教育実践から考える 教育実践の視点から漢詩の形式、押韻、対句などに関するルールについて学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。復習のキーワード：絶句、律詩、押韻、対句	4時間
第14回	漢詩の歴史を考える 教育実践の視点から漢詩の歴史について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。復習のキーワード：李白、杜甫、王維	4時間
第15回	句法と漢詩のまとめ 本授業で取り上げた訓読の決まり、句法（１）～（７）、および漢詩について、もう一度教育実践の視点から確認する。	身につけていないものは、ノートに戻り要点を確認する。	4時間

721

授業科目名	英語スピーキング ベーシック				
担当教員名	麻島徳子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では、基礎レベルの英会話力を身につけることを目的とします。基礎レベルとは、限られた語彙を用いて自分の身近な話題について英語で話すことのできるレベルを指します。各授業では、豊富なスピーキング・エクササイズを活用して、自発的に英語を使ってコミュニケーションをとる会話練習をします。英会話力の正確さに囚われず、まずは自信を持って英語を発する姿勢を身につけることを目的とします。なお、授業は基本的に英語で行いますが、必要に応じて日本語も用います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

英会話能力、英語聴解能力

目標：

自信を持って英語でコミュニケーションをとることができる。足りない語彙力は、質問を反復したり、言い方を変えることによって補うことができる。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

各授業内でのペアワーク、グループワークを通じて、英語で自分のことを説明し理解してもらうことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ 見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回の小テスト（文法問題・ディクテーション）	20%	： 毎回、授業の初めに既習単元の小テストを実施します。20点満点の小テストの平均を評価の20%とします。
Review Quiz	30%	： 第7, 14回の授業で、既習単元の理解度を確認するReview Quizを実施します。その結果の平均を評価の30%とします。
発表課題	30%	： 複数回にわたって発表課題を課します。語彙力、表現力、独創性および課題に取り組む姿勢を基準に、5段階で評価します。発表評価点の平均を評価の30%とします。
定期試験	20%	： 試験期間中に既習単元に基づいた実力テストを実施し、その結果を評価の20%とします。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Chuck Sandy, Curtis Kelly	Active Skills for Communication Book 1	Cengage Learning	2009年

参考文献等

適宜授業内で紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜1限、
場所： 研究室（西館5階）
備考・注意事項： メールアドレス： asahata@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかると自安の時間
第1回	オリエンテーション、Unit 1. Class Album ・授業の進め方や評価方法について確認します。 ・Classroom English の表現を学び、授業内では英語で会話する姿勢を身につけます。	第1回 で学習した単語・表現を復習し、第2回から始まる小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 4時間
第2回	Unit 2. Favorite Photos ・一枚の写真をもとに、人や場所、物について英語で説明できるように練習します。 ・人や場所、物について描写するための語彙を拡充します。	第2回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 4時間
第3回	Unit 3. Personal Goals、発表① ・将来の目標を設定し、未来時制を用いてそれを説明できるように練習します。 ・時間や場所を表すために必要な前置詞の知識を身につけます。 ・授業内容を踏まえて、将来の目標を掲げ、そのために今からしなければならぬことをポスターにして、クラスメイトに発表します。	第3回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 4時間
第4回	Unit 4. Believe It or Not ・過去時制と完了時制を用いて、過去のニュースや出来事について英語で説明できるように練習します。 ・実際のニュース記事を元に、英語で要約する文章を作成します。	第4回で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 4時間
第5回	Unit 5 Where I Grew Up ・過去時制とwhen節を用いて、自分のこれまでの人生を振り返って英語で思い出を語れるように練習します。 ・自分の幼少期から現在までを説明する英文を作成します。	第5回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 4時間
第6回	Unit 6. Bargain Shopper ・買い物に行った場合に必要とされる表現を学び、英語で店員とやりとりできるように練習します。 ・ロールプレイを通じて、海外での買い物のやり方、応対を学びます。	第1～5回 で学習した単語・表現を復習し、Review Quizに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 4時間
第7回	【小括】Unit 1～6 振り返り、発表② ・既習単元の理解度を測るReview Quizを実施します。 ・第6回の学習内容を踏まえ、フリーマーケットで商品を売るためのタグを英文で作成し、クラスメイトに売り込むという趣旨の発表課題を実施します。	発表課題の反省点をまとめます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 4時間
第8回	Unit 7. The Perfect Gift ・贈り物を選ぶ、贈り物に感謝する表現を学び、英語で伝えられるように練習します。 ・誰かのための贈り物を考案し、その内容を説明する英文を作成します。	第8回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 4時間
第9回	Unit 8. Party Planner ・イベントを企画して、それに招待する表現を学び、英語で説明できるように練習します。 ・イベントを企画するための手順を、順序立てて考案する計画表を英語で作成します。	第9回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 4時間
第10回	Unit 9. Music Profile、発表③ ・好きな音楽や趣味について、英語で説明できるように練習します。 ・間接話法を用いて、他人の趣味について伝聞できるように練習します。 ・DJになったつもりで、好きな音楽を紹介するトークを英語で作成し、クラスで発表します。	第10回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。 4時間

第11回	Unit 10. Style Makeover <ul style="list-style-type: none"> ・身につけるものを選び、ファッション・スタイルについて英語で描写できるように練習します。 ・他人のファッション・スタイルについて描写し、適切な表現でコメントを英語で加えられるように練習します。 	第11回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第12回	Unit 11. Honesty <ul style="list-style-type: none"> ・正直に伝えるのが難しい状況におかれた場合の、適切な表現を英語で使えるように練習します。 ・これまでの経験を振り返って、難しい状況におかれた場合、どのように振る舞ったのかをまとめた英文を作成します。 	第12回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第13回	Unit 12. Making Things Better <ul style="list-style-type: none"> ・ある提案に対して、より良くするために助言を英語で加えるための練習をします。 ・状況を分析して、どのような解決策が考えられるかを英語で説明する文章を作成します。 	第13回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第14回	【小括】Unit 7～12振り返り、発表④ <ul style="list-style-type: none"> ・Review Quizを通じて、自分の理解が足りないところを把握し、今後の学習課題を掲げます。 ・第13回の学習内容に基づき、問題のある状況の分析した改善案をクラスに提案する発表を行います。 	これまで学習してきた内容を復習し、Review Quizの対策をしておきます。	4時間
第15回	【総括】これまで学習してきた内容を振り返る、Self-evaluation <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習内容を振り返り、ポイントを整理します。 ・Can-doリストを作成し、自分の学習成果を可視化して自己評価を行います。 	既習範囲を振り返り、小テストの間違いや提出課題の内容を添削して、知識の定着を図ります。	4時間

721

授業科目名	英語スピーキング スタンダード				
担当教員名	麻島徳子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では、標準レベルの英会話力を身につけることを目的とします。標準レベルとは、自然な速度やイントネーション、リズムの英語を理解し、英語的な表現を運用できるレベルを指します。各授業では、ナショナルジオグラフィックの映像教材を活用して、自然な速度の英語を理解し、学習した英語表現を定着させる会話練習をします。最終的には英語の正確さと共に流暢さも意識して英語を運用できるようになることを目的とします。なお、授業は基本的に英語で行いますが、必要に応じて日本語も用います。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

英会話能力、英語聴解能力

目標：

自信を持って英語でコミュニケーションをとることができる。場面に応じた適切な表現を使い分けることができる。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

各授業内でのペアワーク、グループワークを通じて、英語で自分のことを説明し理解してもらうことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求め
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

毎回の小テスト（語彙・ディクテーション）	20%	： 毎回、授業の初めに既習単元の小テストを実施します。20点満点の小テストの平均を評価の20%とします。
Review Quiz	30%	： 第7, 14回の授業で、既習単元の理解度を確認するReview Quizを実施します。その結果の平均を評価の30%とします。
発表課題	30%	： 複数回にわたって発表課題を課します。正確さ、流暢さおよび課題に取り組む姿勢を基準に、5段階で評価します。発表評価点の平均を評価の30%とします。
定期試験	20%	： 試験期間中に既習単元に基づいた実力テストを実施し、その結果を評価の20%とします。

使用教科書

指定する

著者

Sarah Morikawa, Luke Harrington・ Global Connections

出版社

・ Cengage Learning

出版年

・ 2015年

参考文献等

適宜授業内で紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜1限、
場所： 研究室（西館5階）
備考・注意事項： メールアドレス：asahata@osaka-seikei.ac.jp

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	オリエンテーション、 Unit 1. Adventure Activities ・授業の進め方や評価方法について確認します。 ・Unit 1 のDVDを視聴して、英語表現を学習し、ペアワークでスピーキング練習をします。 ・頻度を表す副詞を用いた表現を学びます。	4時間
第2回	Unit 2. Fun Festivals ・Unit 2 のDVDを視聴して、英語表現を学習し、ペアワークでスピーキング練習をします。 ・5W2Hを用いた疑問文を使った英会話のやりとりを学びます。	4時間
第3回	Unit 3. Sounds Good! ・Unit 3 のDVDを視聴して、英語表現を学習し、ペアワークでスピーキング練習をします。 ・自分の意見を相手に伝える表現を学びます。	4時間
第4回	Unit 4. The Big Screen ・Unit 4 のDVDを視聴して、英語表現を学習し、ペアワークでスピーキング練習をします。 ・出来事を順序だてて説明する表現を学びます。	4時間
第5回	Unit 5. Now and Then ・Unit 5 のDVDを視聴して、英語表現を学習し、ペアワークでスピーキング練習をします。 ・物事の変化、推移を表現する英会話のやりとりを学びます。	4時間
第6回	Unit 6. Out of the City ・Unit 6 のDVDを視聴して、英語表現を学習し、ペアワークでスピーキング練習をします。 ・比較を用いた表現を学びます。	4時間
第7回	【小括】Unit1-6 を振り返る、課題発表① ・これまでの学習内容を振り返り、ポイントを整理します。 ・Review Quizを通じて、自分の理解が足りないところを把握し、今後の学習課題を掲げます。 ・Unit 1～6 の学習内容を踏まえた発表課題を実施します。	4時間
第8回	Unit 7. Traveling Around ・Unit 7 のDVDを視聴して、英語表現を学習し、ペアワークでスピーキング練習をします。 ・予定を表す表現を学びます。	4時間
第9回	Unit 8. Ecotourism ・Unit 8 のDVDを視聴して、英語表現を学習し、ペアワークでスピーキング練習をします。 ・理由を説明する表現を学びます。	4時間
第10回	Unit 9. Markets ・Unit 9 のDVDを視聴して、英語表現を学習し、ペアワークでスピーキング練習をします。 ・買い物のやり取りをする表現を学びます。	4時間
第11回	Unit 10. Trash ・Unit 10 のDVDを視聴して、英語表現を学習し、ペアワークでスピーキング練習をします。 ・問題とその解決策を説明する表現を学びます。	4時間

第12回	Unit 11. Disappearing Species <ul style="list-style-type: none"> Unit 11 のDVDを視聴して、英語表現を学習し、ペアワークでスピーキング練習をします。 仮定法を用いた表現を学びます。 	第12回 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。次の単元 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第13回	Unit 12. Green Living <ul style="list-style-type: none"> Unit 12 のDVDを視聴して、英語表現を学習し、ペアワークでスピーキング練習をします。 仮定法を用いた表現をさらに拡充して学びます。 	第8～13回 で学習した単語・表現を復習し、Review Quizに備えます。発表課題の練習をしておきます。	4時間
第14回	【小括】Unit7-12を振り返る、Unit 13. Living Abroad <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習内容を振り返り、ポイントを整理します。 Review Quizを通じて、自分の理解が足りないところを把握し、今後の学習課題を掲げます。 Unit 7～12の学習内容を踏まえた発表課題を実施します。 Unit 13 のDVDを視聴して、英語表現を学習し、ペアワークでスピーキング練習をします。 将来の希望を述べる表現を学びます。 	これまで学習してきた内容を復習し、Review Quizの対策をしておきます。	4時間
第15回	Unit 14. Older and Older <ul style="list-style-type: none"> Unit 14 のDVDを視聴して、英語表現を学習し、ペアワークでスピーキング練習をします。 統計データを説明する表現を学びます。 これまでの総括をして、最終試験のポイントを整理します。 	既習範囲を振り返り、小テストの間違いや提出課題の内容を添削して、知識の定着を図ります。	4時間

721

授業科目名	日本語文法 1				
担当教員名	佐伯暁子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、①中学校教育の現場で、日本語の文法事項について、分かりやすく説明することができる知識を習得するとともに、②中学生に対する読解や作文、および発表の指導、外国人に対する日本語の説明といった、言語活動全般に日本語の文法体系を役立てられるようになることを目指す。文法の知識を習得することで考えるための土台を構築しながら、学校文法では説明しにくい現象を日本語文法論の視点から検討し直すことを本授業の目的とする。

養うべき力と到達目標

<p>確かな専門性</p> <p>1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解</p> <p>2 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解</p> <p>汎用的な力</p> <p>1 . DP4. 課題発見</p> <p>2 . DP5. 計画・立案力</p>	<p>具体的内容：</p> <p>文法の理解</p> <p>学校文法の矛盾点の理解</p>	<p>目標：</p> <p>日本語の文法事項を理解し、説明することができる。</p> <p>学校文法では説明しにくい現象を日本語文法論の視点から検討し直すことができる。</p> <p>学校文法について、自分なりの問題意識を持つことができる。</p> <p>文法教育とはどのようなものかを実践的に考えることができる。</p>
--	--	--

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

<p>確認テスト</p> <p>期末テスト</p>	<p>評価の基準</p> <p>65%</p> <p>35%</p>	<p>： 授業内容の理解度について各回5点で評価し、合計65点とする。</p> <p>： 日本語文法に関する問題を出題し、35点で評価する。</p>
---------------------------	---	--

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

山田敏弘『国語教師が知っておきたい日本語文法』（くろしお出版、2005年）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	水曜日3限（13:00-14:30）
場所：	西館5階研究室
備考・注意事項：	その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：saiki@osaka-seikei.ac.jp）。Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画

⋮

⋮

⋮

⋮ 授業外学修課題に
かかる目安の時間

第1回	ガイダンス —「学校文法」とは— 「日本語文法1」の目的と全体的な計画を学ぶ。また、学校文法の概要について学ぶ。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：学校文法、橋本進吉	4時間
第2回	品詞（1） 品詞分類の基本を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「品詞」について、品詞分類の基本に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、品詞分類について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：品詞分類	4時間
第3回	品詞（2） 自立語の分類、付属語の分類を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「品詞」について、自立語の分類、付属語の分類に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、自立語の分類、付属語の分類について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：自立語、付属語	4時間
第4回	活用（1） 動詞の活用、音便を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「活用」について、動詞の活用、音便に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、動詞の活用、音便について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：動詞の活用、音便	4時間
第5回	活用（2） 形容詞・形容動詞の活用を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「活用」について、形容詞・形容動詞の活用に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、形容詞・形容動詞の活用について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：形容詞の活用、形容動詞の活用	4時間
第6回	文の組み立て（1） 文節、主語を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「文の組み立て」について、文節、主語に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、文節、主語について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：文節、主語、「が」、「は」	4時間
第7回	文の組み立て（2） 基本文型、語順を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「文の組み立て」について、基本文型、語順に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、基本文型、語順について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：動詞の文型、形容詞・形容動詞の文型、語順	4時間
第8回	格助詞（1） 用法を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「格助詞」について、用法に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、格助詞の用法について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：格助詞	4時間
第9回	格助詞（2） 格助詞の使い分けを学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「格助詞」について、似た意味を持つ格助詞の使い分けに注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、格助詞の使い分けについて日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：似た意味を持つ格助詞の使い分け	4時間
第10回	副助詞（1） 用法を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「副助詞」について、用法に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、副助詞の用法について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：副助詞	4時間
第11回	副助詞（2） 主題と対比を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「副助詞」について、主題と対比に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、主題と対比について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：「は」、主題、対比	4時間
第12回	接続助詞（1） 用法を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「接続助詞」について、用法に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、接続助詞の用法について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：接続助詞	4時間
第13回	接続助詞（2） 意味を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「接続助詞」について、意味に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、接続助詞の意味について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。復習のキーワード：同時、仮定の順接、仮定の逆接、確定の順接、確定の逆接、目的、対立・対比	4時間
第14回	連用修飾・連体修飾—副詞・連体詞を学校文法と日本語文法論から考える— 学校で教えられる文法の「連用修飾・連体修飾」について、副詞と連体詞に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、副詞と連体詞について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。復習のキーワード：様態副詞、程度副詞、陳述副詞、連体詞	4時間
第15回	「日本語文法1」のまとめ 本授業で扱った文法事項について確認する。	身についていないものは、ノートに戻り要点を確認する。	4時間

721

授業科目名	日本語文法 2				
担当教員名	佐伯暁子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、「日本語文法1」では扱わなかった文法項目を新たに取り上げる。「日本語文法1」と本授業を併せて、①中学校教育の現場で、日本語の文法事項について、分かりやすく説明することができる知識を習得するとともに、②読解や作文、および発表の指導、外国人への日本語の説明といった、言語活動全般に日本語の文法体系を役立てられるようになることを目指す。学校文法では説明しにくい現象や矛盾点を問題点として提示し、その問題点について日本語文法論の視点から検討し直す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	文法の理解	日本語の文法事項を理解し、説明することができる。
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	学校文法の矛盾点の理解	学校文法では説明しにくい現象を日本語文法論の視点から検討し直すことができる。
汎用的な力		
1．DP4. 課題発見		学校文法について、自分なりの問題意識を持つことができる。
2．DP5. 計画・立案力		文法教育とはどのようなものかを実践的に考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

確認テスト	評価の基準
65%	: 授業内容の理解度について各回5点で評価し、合計65点とする。
期末テスト	: 日本語文法に関する問題を出題し、35点で評価する。
35%	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

山田敏弘『国語教師が知っておきたい日本語文法』（くろしお出版、2005年）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	月曜日3限（13:00-14:30）
場所：	西館5階研究室
備考・注意事項：	その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：saiki@osaka-seikei.ac.jp）。Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画

∴ 授業外学修課題にかかるとの目安時間

第1回	ガイダンスと「日本語文法1」の復習 「日本語文法2」の目的と全体的な計画を学ぶ。また、「日本語文法1」の期末試験を踏まえて、重要な文法項目について確認する。	「日本語文法1」の期末試験の内容について、身につけていないものはノートに戻り、関連部分をよく読む。	4時間
第2回	「日本語文法1」の復習 「日本語文法1」で学んだ文法の重要項目について確認する。	「日本語文法1」の内容について、身につけていないものはノートに戻り、関連部分をよく読む。	4時間
第3回	助動詞(1) 受身を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「助動詞」について、受身に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、受身について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：受身、「れる／られる」	4時間
第4回	助動詞(2) 可能を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「助動詞」について、可能に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、可能について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：可能、「れる／られる」	4時間
第5回	助動詞(3) 使役を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「助動詞」について、使役に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、使役について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：使役、「せる／させる」	4時間
第6回	助動詞(4) 否定を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「助動詞」について、否定に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、否定について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：否定、「ない」	4時間
第7回	助動詞(5) 時間を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「助動詞」について、時間に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、時間について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：時間、「た」	4時間
第8回	助動詞(6) 断定、推量、推定を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「助動詞」について、断定、推量、推定に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、断定、推量、推定について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：断定、「だ」、推量、「う／よう」、推定、「ようだ」、「らしい」	4時間
第9回	助動詞(7) 様態、伝聞を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「助動詞」について、様態、伝聞に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、様態、伝聞について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：様態、伝聞、「そうだ」	4時間
第10回	助動詞(8) 比況、例示、希望を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「助動詞」について、比況、例示、希望に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、比況、例示、希望について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：比況、例示、「ようだ」、希望、「たい」	4時間
第11回	文章・談話(1) 終助詞を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「文章・談話」について、終助詞に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、終助詞について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：終助詞	4時間
第12回	文章・談話(2) 接続詞を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「文章・談話」について、接続詞に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、接続詞について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。キーワード：接続詞	4時間
第13回	敬語(1) 敬語の種類を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「敬語」について、敬語の種類に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、敬語について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。復習のキーワード：尊敬語、謙譲語、丁寧語、美化語	4時間
第14回	敬語(2) 間違えやすい敬語表現を学校文法と日本語文法論から考える 学校で教えられる文法の「敬語」について、間違えやすい敬語表現に注目して学ぶ。また、学校文法の問題点を提示し、間違えやすい敬語表現について日本語文法論の視点から検討し直す。	授業内容についてプリントにまとめる。復習のキーワード：二重敬語、尊敬語と謙譲語の混同、語彙、相対敬語、持ち主の敬語	4時間
第15回	「日本語文法2」のまとめ 本授業で扱った文法事項についてもう一度確認する。	身につけていないものは、ノートに戻り要点を確認する。	4時間

721

授業科目名	グローバルコミュニケーション基礎演習 I				
担当教員名	浅野法子・佐伯暁子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

学生生活において、研究を行い、それをレポートにまとめるということは必要不可欠である。本演習では、レポートの表現を学ぶために、文章要約や意見を述べるといった基本的なポイントから始める。また学術的な表やグラフの書き方を学び、インターネットを用いた文献検索手法を学び、実際の論文を講読する。研究テーマを決めて簡単な調査を行うが、その際に大阪をテーマにした質問紙調査を行い、研究発表でまとめる。表現手法の学習の一環として文楽鑑賞も行う。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

汎用的な力

- 1 . DP5. 計画・立案力

具体的内容：

レポートの書き方や表現技法を学ぶ。

目標：

講義内で扱う内容を深く理解し実践する。

大阪をテーマにした質問紙調査を行う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

振り返りシート	20%	： 振り返りシートにより授業参加姿勢について評価する。
研究発表	20%	： 自分たちで行った研究についてプレゼン発表を行い、評価する。
小レポート	30%	： 自分たちで行った研究についてまとめた小レポートを評価する。
レポート	30%	： 最終レポートについて、レポートの基礎を踏まえて書かれているかという観点から評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で配布する資料

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前夜

場所： 授業の教室

授業計画

授業計画			授業外学修課題に かかる目安の時間
第1回	用字・用語の基礎(1)ー表記・言葉づかいー 授業の目的、内容、評価について確認を行う。適切な表記や言葉づかいの基礎を学ぶ。	授業内に取り組んだ適切な表記や言葉づかいについて復習する。	2時間
第2回	用字・用語の基礎(1)ーかたい文章とはー かたい文章と話しことばで書かれた文章の違いを学ぶ。	授業内に取り組んだかたい文章と話しことばで書かれた文章について復習する。	2時間
第3回	主題と根拠(1)ー主題とはー 主題とは何か、学問的問いの立て方を学ぶ。	授業内に取り組んだ主題について復習する。	2時間
第4回	主題と根拠(2)ー根拠とはー 「根拠のないことは書かない」ことを学ぶ。	授業内に取り組んだ根拠について復習する。	2時間
第5回	事実と意見 事実と意見の書き方を学ぶ。	授業内に取り組んだ事実と意見について復習する。	2時間
第6回	文章の役割 論理的な文章の各部分がどのような役割を果たしているかを学ぶ。	授業内に取り組んだ文章の役割について復習する。	2時間
第7回	読みやすい文章を書く 読みにくくなってしまいう理由を知り、読みやすい文章の書き方を学ぶ。	授業内に取り組んだ読みやすい文章について復習する。	2時間
第8回	事前学習(1)ー文献検索ー インターネットを使用し、文献の検索方法を身に付ける。文楽に関する文献を探す。	文楽に関する文献を探す。	2時間
第9回	事前学習(2)ー文献購読ー 文楽に関する文献を購読し、内容をまとめる。	文献購読した内容を小レポートにまとめる。	2時間
第10回	文楽鑑賞 表現技法の学習の一環として、文楽を鑑賞する。	文楽鑑賞の感想を小レポートにまとめる。	2時間
第11回	事後学習(1)ー小レポート作成ー 文楽を鑑賞を踏まえ、小レポートを作成する。	文献購読、文楽鑑賞を踏まえた内容を小レポートにまとめる。	2時間
第12回	事後学習(2)ー発表ー 小レポートの内容を発表する。	質問紙の準備を行う。	2時間
第13回	レポートとは何かを知る(1)ー構成ー レポートの基礎として、構成について学ぶ。	授業内に取り組んだレポートの構成について復習する。	2時間
第14回	レポートとは何かを知る(2)ー練習ー レポートの構成を踏まえ、練習問題に取り組む。	練習問題を仕上げる。	2時間
第15回	レポートとは何かを知る(3)ー実践ー 各自でテーマを決定し、レポートの構成を考える。構成にしたがって、レポートを作成する。	レポートを完成させる。	2時間

721

授業科目名	グローバルコミュニケーション基礎演習Ⅱ				
担当教員名	白瀬浩司				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

英語を学んでいれば、《いま》という時系列でそれを話す誰かとコミュニケーションする機会に巡り逢う可能性はあります。日本の古典（古文）を学んでいても、その話者に出会うことはありませんが、私たちの文化的ルーツと向き合うことにはなります。本講座では、多文化状況の中でビジネスや文化交流を行う際のひとつの拠り所として、わが国の伝統的な文化や言葉への理解を深めるべく、古語による作文やスピーチに取り組んでいきます。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP8. 意思疎通

具体的内容：

日本の古典文化について知ることや、古典の文章表現を味わい、それをコミュニケーションに活かすこと。

目標：

時代的（当代的）な要素や普遍的な要素を踏まえ、日本古典の表現を用いて書いたり、話したりすることができる。

古典の表現や文化的背景を通し、現代の文化や事象の捉え返しと課題を見出すことができる。

現代語・現代の表現とは異なる古典語・古典の表現を理解した上で、それを用いて自身の思いを伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・ 発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

基礎古語・基本例文の修得	30%	: 10回の小テストを実施し、その素点の合計点を30%に換算します。
古文暗誦	30%	: 3回の暗誦テストを実施し、5段階で評価します（10点×3回）。評価規準については、講義時に提示。
文例に基づくスピーチ	10%	: 1回のスピーチを実施し、5段階で評価します（10点）。評価規準については、講義時に提示。
最終課題（期末レポート）	15%	: 現代語で書かれた文章を古典の文章に翻訳します。論題に対する理解と、記述内容により評価します。なお、評価規準および基本的な文章スキルにかかわる減点項目については、講義時に提示。
受講態度	15%	: 講義時の音読演習への参加姿勢や発言、暗誦やスピーチの聴取態度などによって評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜・第3限
場所： 西館4階 91研究室

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかると見られる目安の時間
第1回	<p>素養としての古典文学</p> <p>細かい文法にこだわらず、日本古典文学の世界を楽しみつつ、文化的・言語的な理解を深めていきます。仮名表記とともに、かつての日本語の発音や、読みぐせ（音便など）の基本的な知識を確認します。また、実際にいくつかの古典文章の音読を実施します。</p>	<p>配付資料（基礎古語・基本例文）の指定範囲に目を通し、しっかり記憶する。</p> <p>4時間</p>
第2回	<p>エッセイを読むこと（1）—枕草子</p> <p>中等教育で出会った『枕草子』を再読・講読するとともに、古代（中古）文学の特質の一端について学修します。</p> <p>※基礎古語・基本例文小テスト①</p>	<p>配付資料（基礎古語・基本例文）の指定範囲に目を通し、しっかり記憶する。『枕草子』の暗誦課題を繰り返し声に出して読む。</p> <p>4時間</p>
第3回	<p>エッセイを読むこと（2）—徒然草</p> <p>中等教育で出会った『徒然草』を再読・講読するとともに、中世文学の特質の一端について学修します。</p> <p>※基礎古語・基本例文小テスト②</p>	<p>配付資料（基礎古語・基本例文）の指定範囲に目を通し、しっかり記憶する。『徒然草』の暗誦課題を繰り返し声に出して読む。</p> <p>4時間</p>
第4回	<p>ファンタジーを読むこと（1）—竹取物語・冒頭部と結末部</p> <p>中等教育で出会った『竹取物語』を再読・講読するとともに、古代（上古）文学の特質の一端について学修します。</p> <p>※基礎古語・基本例文小テスト③</p>	<p>配付資料（基礎古語・基本例文）の指定範囲に目を通し、しっかり記憶する。『竹取物語』冒頭部の暗誦課題を繰り返し声に出して読む。</p> <p>4時間</p>
第5回	<p>ファンタジーを読むこと（2）—竹取物語・貴公子たちの求婚</p> <p>中等教育の教科書には掲載されないことのない『竹取物語』のある貴公子のエピソードを読み進めます。</p> <p>※基礎古語・基本例文小テスト④</p>	<p>配付資料（基礎古語・基本例文）の指定範囲に目を通し、しっかり記憶する。『竹取物語』求婚譚の暗誦課題を繰り返し声に出して読む。</p> <p>4時間</p>
第6回	<p>暗誦課題の実演（1）</p> <p>1人ずつ教壇に立ち、複数課題のいずれかの文章（当日指定）を暗誦します。</p> <p>※基礎古語・基本例文小テスト⑤</p>	<p>配付資料（基礎古語・基本例文）の指定範囲に目を通し、しっかり記憶する。これまでの暗誦課題を繰り返し声に出して読む。</p> <p>4時間</p>
第7回	<p>トラベルガイドを読むこと—奥の細道</p> <p>中等教育で出会った『奥の細道』を再読・講読するとともに、近世文学の特質の一端について学修します。</p> <p>※基礎古語・基本例文小テスト⑥</p>	<p>配付資料（基礎古語・基本例文）の指定範囲に目を通し、しっかり記憶する。『奥の細道』の暗誦課題を繰り返し声に出して読む。</p> <p>4時間</p>
第8回	<p>暗誦課題の実演（2）</p> <p>1人ずつ教壇に立ち、複数課題のいずれかの文章（当日指定）を暗誦します。</p> <p>※基礎古語・基本例文小テスト⑦</p>	<p>配付資料（基礎古語・基本例文）の指定範囲に目を通し、しっかり記憶する。これまでの暗誦課題を繰り返し声に出して読む。</p> <p>4時間</p>
第9回	<p>シナリオを読むこと（1）—狂言</p> <p>狂言の一演目を講読し、役割分担をして実際に演じてみます。（グループ活動）</p> <p>※基礎古語・基本例文小テスト⑧</p>	<p>配付資料（基礎古語・基本例文）の指定範囲に目を通し、しっかり記憶する。狂言の暗誦課題を繰り返し声に出して読む。</p> <p>4時間</p>
第10回	<p>シナリオを読むこと（2）—歌舞伎・浄瑠璃</p> <p>歌舞伎・浄瑠璃の一演目を講読し、実際に演じてみます。（グループ活動）</p> <p>※基礎古語・基本例文小テスト⑨</p>	<p>配付資料（基礎古語・基本例文）の指定範囲に目を通し、しっかり記憶する。浄瑠璃の暗誦課題を繰り返し声に出して読む。</p> <p>4時間</p>
第11回	<p>暗誦課題の実演（3）</p> <p>1人ずつ教壇に立ち、複数課題のいずれかの文章（当日指定）を暗誦します。</p> <p>※基礎古語・基本例文小テスト⑩</p>	<p>第14回の授業で実施するスピーチ課題を提示するので、実演に向けて原稿を作成し、スピーチ練習を繰り返し行う。</p> <p>4時間</p>

第12回	言文一致体の文章（明治期）を読むこと 明治期の言文一致体の作品を講読し、近代文学の特質の一端について学修します。	第14回の授業のスピーチ実演に向けて、原稿を作成し、スピーチ練習を繰り返す。	4時間
第13回	シナリオを読むこと（3）—翻訳劇 シェークスピアの翻訳台本（明治期）を講読し、近代における西洋文化受容の一端について学修します。	次時に実施するスピーチ実演に向けて、スピーチ練習の仕上げに取り組む。	4時間
第14回	古典文によるスピーチ実演 1人ずつ教壇に立ち、各自で準備したスピーチ（暗誦）を実施します。	各自でスピーチの振り返りを行い、ワークシートに記入する。	4時間
第15回	古典作文—現代と過去の精神文化的往還【おうかん】のために 古典の言語的素養をグローバルコミュニケーションにおいて、どのように活かしていけるのか全員で討議します。また、現代文を古文に翻訳する古典作文の最終課題（期末レポート）の課題資料を配布して読み合わせをおこない、書式・分量・評価項目などについて説明します。	講座全体の振り返りを各自で行う。最終課題（期末レポート）を執筆する。	4時間

721

授業科目名	グローバルコミュニケーション基礎演習Ⅱ				
担当教員名	田中哲平				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では心理学をテーマに、大学生活で広く求められるレポートの書き方を最初に学ぶ。その上で、これからの社会において必須のスキルである科学的リテラシーを身につける。いわゆる不思議現象として扱われる「占い」や「予言」などに着目し、科学的、心理学的に考えるとどのような側面が見えてくるかを学ぶ。また人間の錯視（例えば色や形や運動に関する錯視）や、記憶の仕組みなどにも着目し、不思議な現象に対するリテラシーをしっかりと身につけていく。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

具体的内容：

実験研究の基礎を学び、実際に実験を行う。

目標：

講義内で扱う内容を深く理解し実践する。

身の回りにある不思議現象について科学的な思考を身につける

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 実験、実技、実習
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業への取り組み状況

50%

評価の基準

： 講義に積極的に参加姿勢や、実験への協力姿勢を評価する。

レポート課題

50%

： 授業内容に関するレポートを提出し、その内容を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で配布する資料

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

授業計画

： 授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	科学的リテラシーとは 科学的リテラシーの重要性やレポートの書き方を学び、授業の目的や評価方法について伝えます。	心理学についてのイメージをまとめてきてください	2時間
第2回	文章の要約 心理学を題材とした短い文章を題材に、文章の要約スキルを身に着けます	科学的であるということについて筆者の意見をまとめてください	2時間
第3回	自分の意見を表現する 心理学を題材とした短い文章を題材に、自分の意見の表現方法を学びます	筆者の意見と自分の意見の区別の方法をまとめてきてください	2時間
第4回	占いは科学か 世の中の占いが当たってしまう仕組みを学び、科学的な思考を身につけます	占いについて自分なりのイメージをまとめてきてください	2時間
第5回	予言は科学か 世の中にはびこる予言の仕組みを学び、科学的な思考を身につけます	自分なりに予言を作ってみましょう	2時間
第6回	名前をつけるということ 科学において、現象を命名することの重要性を学びます	世の中の不思議な現象に名前をつけてみましょう	2時間
第7回	都市伝説は科学か 映像を見ながら、巷で噂される都市伝説が本当なのかを考え、科学的な思考を身につけます	月に関する噂を集めましょう	2時間
第8回	データを集めるということ 心理学実験におけるデータの重要性を理解し、基本的なデータ収集方法について学びます	質問紙の実施手法について事前学習を行ってください	2時間
第9回	記憶と科学 人間の記憶の基本的な仕組みを理解し、簡単な記憶実験を体験します	短期記憶と長期記憶について事前学習を行ってください	2時間
第10回	曖昧な記憶 人間の記憶がいかにあやふやであるかを簡単な実験を通じて学びます	エリザベス・ロフタスについて事前学習を行ってください	2時間
第11回	誘導される記憶 人間の記憶がいかに簡単に誘導されてしまうかを、記憶実験を通じて学びます	これまでの記憶についての復習を行ってください	2時間
第12回	色の知覚の不思議 人間の視覚の仕組みを学び、色彩に関する様々な錯視を体験します	色の知覚について事前学習を行ってください	2時間
第13回	形の知覚の不思議 人間の視覚の仕組みを学び、形に関する様々な錯視を体験します	形の恒常性について事前学習を行ってください	2時間
第14回	運動の知覚の不思議 人間の視覚の仕組みを学び、運動に関する様々な錯視を体験します	仮現運動について事前学習を行ってください	2時間
第15回	まとめ 授業で学んだことをまとめ、科学的リテラシーの振り返りを行います。	これまでの学習をまとめてください	2時間

721

授業科目名	舞台パフォーマンス				
担当教員名	美月亜優				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	宝塚音楽学校卒業後、宝塚歌劇団入団数々の舞台に出演。様々な役柄を演じると共に、歌、ダンス、日舞取得。退団後、舞台、映画、TV、ラジオでの出演。ダンスインストラクターとして講師も務める。日舞は花柳君乃安の名取取得。(全15回)				

開放科目「不可」

授業概要

五感と身体全体を使っていきながら、自分自身を見つめ、自己表現を身につけていきます。体全体を使って、音楽とリズムを体感します。メロディーに感情をのせて歌唱します。感情の台詞を使って心と身体の一体化を体感し、感性豊かな人間力を目指します。様々なキャラクターを演じていくことで、体験したことのない境遇や性質について体感し、人間の深みや広さや優しさについて考え、自分自身を大切に出来る、魅力溢れる人間作りを目指します。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

歌唱、ダンス、芝居

目標：

リズム感、音感、感性を向上することができる。

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践
2. DP9. 役割理解・連携行動

シナリオを使って役を表現したり、感情をのせてダンスしたり歌唱することができる。

台詞の持つ意味を考えたり、相手との距離感を測りながら芝居をすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・その他(以下に概要を記述)

他の人の実演も見学し、自分を見つめ直します。

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

授業内課題	50%	: 毎回の課題をどれだけ理解し演じているか。
授業態度	30%	: 挨拶、マナーが守られているか。他の人の実演も見学し、マナー良く見ているか。積極的に参加しているか。
試験(発表)	20%	: どれだけ読解力が身につき、挑んでいるか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
 場所： 授業の教室
 備考・注意事項： 授業の前後に質問に応じます。

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 発声、歌稽古、立ち稽古：感情の表現について 様々な作品を通して、舞台での所作事や、せりふや動作の意味を考えながら、感情を表現していく。音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	台詞、動きについて考え稽古する。	4時間
第2回 発声、歌稽古、立ち稽古：キャラクターについて 演じるキャラクターや、相手との距離感、間について考える。音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	台詞と動きが一体化するように、芝居の反復練習をする。	4時間
第3回 発声、歌稽古、立ち稽古：大きく動作する 稽古場を大きく使って、大きく動作出来るように考え、思いきり演じる。	自然な動きと大きく動作するというのをもう一度考える。次回のプリントに目を通す。	4時間
第4回 発声、歌稽古、ダンス振り付け：それぞれの部位の動かし方を考え、身体全体で表現することを体感する。 体を使って感情を表現する。手、足、胴、頭などそれぞれの部位の動かし方を体験し、ダンスの型を覚える。音楽に合わせて踊ってみる。音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	スムーズに体が動くように、ダンスの反復練習をする。	4時間
第5回 発声、歌稽古、ダンス振り付け：音楽、リズム、感情表現について体感する。 ダンスの振りを覚える。音楽、リズム、感情の強弱が一体化するようお稽古する。音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	振りの反復練習をする。	4時間
第6回 発声、歌稽古、ダンス振り付け：感情をのせてダンスをする。音楽と身体表現の一体化について考える。 スムーズに感情を乗せて、ダンスする。見られている意識、見える意識について考える。	鏡の前で振りを思い出し、自分の動き方やポーズの形、リズム感について確認する。次回のプリントに目を通す。	4時間
第7回 発声、歌稽古、立ち稽古：和物の芝居について 和物の芝居を体感する。和の所作事、それぞれの人物の歩き方、所作について考える。お客さんがいると設定して、演じている側とみている側とのギャップについて考え、常に自分を客観視出来る力を身につけていく。音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	台詞と動きが一体化するように、芝居の反復練習をする。	4時間
第8回 発声、歌稽古、立ち稽古：芝居の型について 喜怒哀楽の強弱をはっきりつけて、大きく芝居をする。普段と舞台の違いを考える。普段と台詞が決まった芝居の空間との違いを考える。音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	台詞と動きが一体化するように、芝居の反復練習をする。	4時間
第9回 発声、歌稽古、立ち稽古：役柄について 台詞と動きの一体化、感情移入して役柄を演じる。音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	舞台での立ち振る舞い方、間隔をもう一度頭で確認する。見せる側、見ている側双方から自分を客観視して考えてみる。次回のプリントに目を通す。	4時間
第10回 発声、歌稽古、立ち稽古：悲恋物の芝居 悲恋物の芝居を体感する。それぞれの役の生い立ちや、関係、様々な出来事で、状況、感情について考え、普通の生活ではありえないようなことを、お芝居を通してヴァーチャル体験をし、登場人物の生きる様子を体感する。音階、感情を意識しながら歌唱する。	それぞれの人物について、深く掘り下げて考える。	4時間
第11回 発声、歌稽古、立ち稽古：思いの伝え方 それぞれの場面での台詞の掛け合いでその人物に成り切って、思いを伝える。音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	台詞に感情移入しての反復練習をする。	4時間
第12回 発声、歌稽古、立ち稽古：演じ分けについて考える 様々な役を演じ分け、どういう風に演じれば、相手がやり易いか、どういう風に演じてもらえれば、自分がやり易いか、様々な角度から台詞を考える。音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	登場人物のキャラクター、役割について、掘り下げて考える。	4時間
第13回 発声、歌稽古、立ち稽古の総仕上げ 総仕上げ。感情移入して、それぞれの役を演じきる。音階、歌詞、リズムを意識しながら歌唱する。	自分の日常生活における感情、感覚、他人を観たり感じる感覚と、台本の中の登場人物の、感情の起伏の中に、似たような感覚を、見出す作業を試みる。次回のプリントに目を通す。	4時間
第14回 発声、立ち稽古：歌舞伎について 歌舞伎の口上を体験する。日本人の伝統芸能である歌舞伎の台詞回しを体験し、日本物の芝居の型、所作事について体感する。	着物を着た時の所作事をもう一度確認する。オーバーな台詞回しをもう一度練習してみる。次回のプリントに目を通す。	4時間
第15回 まとめ：舞台芝居と普段との違い、感情表現について考える セリフの課題を感情、キャラクターを考え演じる。心と体と感情を一体化して演じてみる。	授業内容を振り返る。普段の日常生活においても、感性、感覚の向上に努め、センスの良い品格と、マナーの良い態度、周囲にも自分にも優しい人間性を心掛けて、心豊かな人間に成長していった欲しいです。	4時間

721

授業科目名	舞台パフォーマンス基礎				
担当教員名	美月亜優				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	宝塚音楽学校卒業後、宝塚歌劇団入団数々の舞台に出演。様々な役柄を演じると共に、歌、ダンス、日舞取得。退団後、舞台、映画、TV、ラジオでの出演。ダンスインストラクターとして講師も務める。日舞は花柳君乃安の名取取得。(全15回)				

授業概要

普段の日常生活においても、人はそれぞれの場面で色々な顔、表情、言葉づかいを使い分けています。それは演劇と通ずるものがあります。自分が普段、どういう思いでどのように表現しているのか。自分自身を知り、自分自身の一番の理解者になることが、他人のことも理解できるきっかけになるのだと思います。台詞を通して様々なキャラクター、性質を知るとともに、社会に出る前に、今一度、自分自身を見つめ直し、人間力、表現力、そして心の豊かな魅力溢れる人になるお手伝いが出来ればと考えています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

発声練習、音階練習、音声表現、読解力。

目標：

五感を使って、様々なキャラクターを表現することができる。

汎用的な力

- 1 . DP6. 行動・実践
- 2 . DP9. 役割理解・連携行動

様々なキャラクターを演じていくことで、普段の自分自身と対比することができ、自分自身を見つめ直すことができる。

会話する台詞から、相手との距離感について考える。相手が演じやすい受け方、出し方をするすることで、相手への配慮、思いやりについても考える力を養うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 実験、実技、実習
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・ その他(以下に概要を記述)

他の人の実演も見学し、自分を省みる作業をする。

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として、毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業内課題

評価の基準

: 毎回の課題をどれだけ理解し演じようとしているのか。

授業態度

50%

: 挨拶、マナー等守られているか。他の人の実演もマナー良く聞いているのか。

試験（発表）

30%

: 最終課題への読解力と挑み方。

20%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学習が求められる。「授業外学習」に取り組むことに加え、その回の授業内容を復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
 場所： 授業の教室
 備考・注意事項： 授業の前後に質問に応じます。

授業計画		授業外学修課題にかかるとかかる目安の時間
第1回	<p>発声法と呼吸法</p> <p>腹式呼吸と滑舌の練習と音階練習。まず、大きな声を出すところから始め、様々な声の出し方、聴覚との連携で、音階を考えながら、腹式で声を出していきます。</p>	<p>腹式で声を出して、何度かプリントの発声練習を繰り返し、自分の一番声を出し易い響く場所を探る。台詞のプリントに目を通し、ゆっくりと大きな声で朗読する。</p> <p>4時間</p>
第2回	<p>発声練習と朗読</p> <p>早口言葉と音階練習。台詞を朗読する。まず感情を入れず、大きな声で台詞を読む練習をする。</p>	<p>台詞の人物設定を考え、台詞の内容を理解しながら朗読する。聞いている人達に、自分の気持ちが伝えられているかも、客観視しながら朗読する。</p> <p>4時間</p>
第3回	<p>発声練習と喜怒哀楽</p> <p>早口言葉と音階練習。喜怒哀楽についてと動作について考える。日常生活でどのように感情が動き、声にのせて表現しているのかを考えながら、台詞に感情を入れて話してみる。</p>	<p>日常生活において、どんな動作をし、何を考えながら日々過ごしているのかを振り返ってみる。意識をもちながら、動作や会話を行って、自分を客観視しながら、日々の生活をしてみる。</p> <p>4時間</p>
第4回	<p>発声練習と朗読と動作</p> <p>滑舌の練習と音階練習。動作をしながら台詞を言う。童話を朗読する。小さな子供達に読み聞かせるように、子供達の心を動かせる読み方を考えながら、朗読してみる。単純で良い、少しオーバー気味に感情表現する。耳障りの良いメロディーとリズムがあるような感じで読んでいく。</p>	<p>子供達の前で童話を読み聞かせる時のことを想像し、いかに楽しませ、惹きつけて、飽きさせない朗読について考え練習する。</p> <p>4時間</p>
第5回	<p>発声練習と朗読と発想</p> <p>滑舌の練習と音階練習。ゲーム感覚で発想する。連想ゲームから頭の中で発想、アイデアについて考える。童話を朗読する。前回より一回りオーバーに表現してみる。聞き手側のことも考えて朗読する。</p>	<p>聞き手が理解し易い伝え方について考え練習する。</p> <p>4時間</p>
第6回	<p>発声練習と会話：間の取り方について</p> <p>滑舌の練習と音階練習。日常会話の台詞を言ってみる。二人芝居の台詞を言う。相手との距離感、間について考える。音階を気にしながら大きな声で歌唱する。</p>	<p>同じ言葉や会話でも、人それぞれ感じ方や出し方、間の相違点について考える。相手が受け易い、やり易い方法を考えながら練習する。</p> <p>4時間</p>
第7回	<p>発声練習と会話：キャラクターについて</p> <p>滑舌の練習と音階練習。日常会話の台詞を言ってみる。三人芝居のセリフを言う。キャラクターについて考える。音階と歌詞、リズムを感じながら歌唱する。</p>	<p>台詞から想像できるキャラクターについて考える。声、テンポ等で、イメージしたキャラクターを作り上げながら練習する</p> <p>4時間</p>
第8回	<p>発声練習と会話：声色について</p> <p>滑舌の練習と音階練習。日常会話の台詞を言ってみる。三人芝居のセリフを言う。キャラクターと声色について考える。音階、歌詞、リズムを感じながら歌唱する。</p>	<p>鮮明なイメージを持ちながら、相方も演じやすく、観ている側にも伝わりやすい演じ方を探りながら練習する。</p> <p>4時間</p>
第9回	<p>アニメーション：ものまねについて</p> <p>アニメのキャラクターを演じてみる。ものまねについて考える。音階、歌詞、リズムを感じながら歌唱する。</p>	<p>耳から伝わる音を頼りに台詞を自分の声で真似る練習をする。</p> <p>4時間</p>
第10回	<p>アニメーション：声色について</p> <p>アニメのキャラクターを演じてみる。声色を考えながら、キャラクターに近づけていく。音階、歌詞、リズムを感じながら歌唱する。</p>	<p>色々な音についても考え、擬音を使って表現したり、耳に集中して入ってくる音の再現を工夫しながら表現する。耳の役割を再確認する。</p> <p>4時間</p>
第11回	<p>舞台芝居：動作について考える</p> <p>舞台芝居を体感してみる。キャラクターを考えながら、動作も入れながら芝居をする。音階、歌詞、リズムを感じながら歌唱する。</p>	<p>現実ではありえないキャラクターを計算して作ってみて、演じる練習をする。</p> <p>4時間</p>
第12回	<p>舞台芝居：キャラクターについて考える</p> <p>舞台芝居を体感してみる。それぞれのキャラクターを演じ分ける。感情移入しながら芝居をする。音階、歌詞、リズムを感じながら歌唱する。</p>	<p>台詞も事細かに分析して間を作り上げ、観ている側の反応も感じ描きながら、演じる練習をする。</p> <p>4時間</p>
第13回	<p>舞台芝居：自然な演技を目指す</p>	<p>どう動けば観ている側に、自分の演じているキャラクターが伝わりやすいのかを考える。自然に見える動きを考えながら、台詞を練習する。</p> <p>4時間</p>

	舞台芝居を体感してみる。キャラクターをはっきり演じ分け、感情移入しながら動作も不自然にならないように芝居をする。音階、歌詞、リズムを感じながら歌唱する。	
第14回	<p>情景と司会進行</p> <p>台詞で情景を表現する。情景を思い浮かべながら、朗々と朗読する。結婚式の司会の台詞を体験する。自ら大勢の人達を引っ張りながら盛り上げる体感する。音階、歌詞、リズムを感じながら歌唱する。</p>	<p>風景画を想像し、滑舌よく話す練習をする。パーティー会場をイメージし、中心となつて進行していく場面を想像しながら、大勢の人前でも伝えられるように練習をする。</p> <p>4時間</p>
第15回	<p>まとめ：思いを伝えるということ。心と身体と感情の一体化</p> <p>台詞の課題を感情、キャラクターを考えながら演じる。心と身体と感情を一体化して演じてみる。</p>	<p>授業内容を振り返り、伝えることの大切さ、相手を思いやる、自分を大切にする意味について、考えを深めてもらえたらなと思います。</p> <p>4時間</p>

721

授業科目名	日本の文学				
担当教員名	浅野法子				
学年・コース等	1	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、日本の近代文学を中心に、作品の講読を通して作者を理解し、作品の背景を学びます。また、近代文学の特徴をあらわすいくつかのキーワード（主に「アジア」、「女性」、「子ども」等）に基づき、作品を読み解くことを試みます。基本的には講義形式で進めますが、作者と作品の背景については、毎回のテーマごとに分担し、発表形式も取り入れます。毎回ひとつの作品を読み込み、意見交換をすることで、さまざまな解釈に気づくことも目的としています。近代という時代の特徴についても考えていきましょう。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

日本の近代文学研究

目標：

文学作品を分析することができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP7. 完遂

文学作品をクリティカルに分析できる。

自ら課題を発見し、情報収集・分析し、発表することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

プレゼンテーション	20%	： 内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
期末レポート	30%	： 内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
提出物（メモ）	30%	： 毎回の授業で振り返りメモの提出を課します。授業内容を理解し、自分で考えられていれば、2ポイント（加点あり）、理解不足は1ポイント。
受講態度	20%	： 授業に積極的に参加し、課題に取り組む態度を評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

プリントを配布します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜3限
場所： 研究室（西館5階）

備考・注意事項：授業前後にも受け付けます。

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	授業ガイダンス・近代という時代について <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方 ・発表の分担 ・情報の収集方法、文献の調べ方について 	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。 4時間
第2回	国語教科書掲載の近代文学作品について <ul style="list-style-type: none"> ・作家について ・作品講読 ・教科書というメディアについて考える 	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。 4時間
第3回	児童文学というジャンル <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの「発見」について ・作品講読 ・子どもの文学の特徴について考える 	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。 4時間
第4回	森鷗外：「舞姫」の背景 <ul style="list-style-type: none"> ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える 	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。 4時間
第5回	樋口一葉：日本近代文学にみるジェンダー <ul style="list-style-type: none"> ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える 	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。 4時間
第6回	夏目漱石：「青年」というイメージ <ul style="list-style-type: none"> ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える 	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。 4時間
第7回	鈴木三重吉：児童雑誌「赤い鳥」 <ul style="list-style-type: none"> ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える ・大正期の雑誌媒体について 	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。 4時間
第8回	芥川龍之介：児童向けの作品にみるエゴイズム <ul style="list-style-type: none"> ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える 	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。 4時間
第9回	宮澤賢治：「童話」という形式 <ul style="list-style-type: none"> ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える 	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。 4時間
第10回	安部公房：「変身」の意味 <ul style="list-style-type: none"> ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える 	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。 4時間
第11回	中島敦と漢籍 <ul style="list-style-type: none"> ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える 	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。 4時間
第12回	新美南吉：中国関連の作品や中国で発表された作品について <ul style="list-style-type: none"> ・作家について ・作品講読 ・文学史での位置づけについて考える 	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。 4時間
第13回	日本近代文学と東アジア <ul style="list-style-type: none"> ・近代の作家と東アジアについて考える ・作品講読 	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。 4時間
第14回	日本近代文学にみる中国 <ul style="list-style-type: none"> ・近代の作家と中国について考える ・作品講読 	振り返りシートの作成、および次回に該当する課題プリントを通読。各自発表準備をする。 4時間
第15回	中国近代文学にみる日本	振り返りシートの作成、およびこれまでのまとめをしておく 4時間

・授業のまとめをし、印象に残った作品について話し合う

⋮

⋮

721

授業科目名	海外文化演習				
担当教員名	工藤 律子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

この授業は海外語学留学に行く学生のために、留学生生活をスムーズに開始し、現地での大学生活に適応して、積極的かつ有意義に留学期間を過ごすことができるよう事前に学ぶことで、成果をもって日本に帰国することができるようにすることが目標です。留学先の国について、生活習慣、食事、マナー、言語、気候などあらゆる角度から学び、現地での生活、学習などについて、学生自ら情報を収集することができるように指導します。なお、本科目は語学留学と事前・事後学修を含めて単位を修得するものです。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

語学の基礎知識：留学を円滑に行うことができるよう、必要となる知識を身に付けることができる。

目標：

留学の基礎知識：出発前、留学中、帰国後それぞれ、必要な知識、情報、心構えなどについて理解を深め、学生自ら積極的に行動することができる。

汎用的な力

- 1 . DP6. 行動・実践
- 2 . DP7. 完遂

主体性：異文化理解の知識を養い、海外生活における判断力・思考力を主体性をもって高めることができる。

積極性：海外の生活習慣を学び、英会話の基礎知識を養い、観察力・適応力をもって、自主的かつ積極的に留学生活を送ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

事前授業における参加状況	30%	： 授業内での積極的な発言および取り組み状況。ワークへの積極的参加と課題シート記入の適切性について3段階で評価する。
留学中の生活・学習状況	40%	： 現地大学のクラス・グレードおよび学生の研修報告シート。
事後授業における到達状況	30%	： レポート課題とプレゼンテーションにおいて、文書表現の正確性、データ整理の適切性、プレゼン資料の表現力、明確性、伝達力により評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

教科書は使用せずプリントを配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
 授業では、プレゼンテーション、グループワーク等、授業担当者の言葉だけでなく、他の学生の発表、意見に積極的に耳を傾けてください。
 海外語学研修に参加する学生のみが履修可能。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業後・授業前

場所： 授業の場所

授業計画			授業外学修課題にかかると目安の時間
第1回	海外留学について学ぶ 留学の意義、目的などについて説明。	各自、留学の意味、目的について考える	2時間
第2回	英語の基礎的な学力を確認する 現在の英語力の確認。英語で自己紹介してみよう。	英語による自己紹介の復習、不明点のチェック	2時間
第3回	英語の会話文例を学ぶ 会話文例を学び、暗誦練習。 参加者同士、英語で自己紹介練習など行う。	会話文例の復習、不明点のチェック	2時間
第4回	海外の生活習慣・文化について理解する 海外の生活習慣と文化の特徴について学び、理解する。 質問、疑問点を積極的に出して、日本とどのように異なるのか考え、異文化理解を図る。	海外生活に関する復習、不明点のチェック	2時間
第5回	海外語学留学（9日間） 留学先の大学・語学学校における研修。	留学先の大学・語学学校の課題	2時間
第6回	語学留学で習得したことを整理する 語学留学を終えて、さまざまな体験を整理し、語学力において習得できたこと、また実際の生活を通して感じ得たことを、異文化理解の観点からまとめる。	語学研修全体に対する復習、まとめ	2時間

721

授業科目名	漢字の世界				
担当教員名	佐伯暁子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、高校までに身につけた漢字の知識を土台として、大学・一般程度の漢字を学ぶ。単に漢字を「読む」「書く」という知識を習得するだけでなく、漢字の意味を理解し、適切に運用できる能力を身に付けるために、日本語教育能力検定試験の出題範囲のうち出題頻度の最も高い分野である「言語一般」の「文字と表記」についても学ぶ。出題頻度の高い分野のポイントをつかむことで、日本語教育能力検定試験で確実に得点することを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	漢字についての深い理解と専門知識	漢字の意味と使い方を理解し、適切に運用することができる。
2．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	文字・表記についての深い理解と専門知識	文字・表記に関する重要用語とその内容を理解することができる。
汎用的な力		
1．DP8. 意思疎通		漢字を適切に運用することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

確認テスト	60%	： 授業内容の理解度について各回5点で評価し、合計60点とする。
課題	16%	： 確認テストで身に付いていない漢字に関する課題を各2点で評価し、合計16点とする。
期末テスト	24%	： 漢字、重要用語に関する問題を出題し、24点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

日本語教育能力検定試験に興味がある場合は、ヒューマンアカデミー『日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド』（翔泳社、2014年）が参考になる。その他の参考文献は授業中に指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の授業であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。確認テストや期末テストに備え、各回の内容を復習しておくこと。また、授業内マナーを守り、積極的に授業に参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	月曜日3限（13:00-14:30）
場所：	西館5階研究室
備考・注意事項：	その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：saiki@osaka-seikei.ac.jp）。Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画

： 授業外学修課題にかかるとかかる目安の時間

第1回	ガイダンス—日本語教育能力検定試験とは— 「漢字の世界」の目的と全体的な計画を学ぶ。また、日本語教育能力検定試験の概要について学ぶ。	日本語教育能力検定試験受験に向け学習の進め方を考える。	4時間
第2回	文字と表記(1) 漢字の歴史、部首、音と訓を考える 日本語教育能力検定試験で出題頻度が最も高い分野である「言語一般」の「文字と表記」のうち「漢字の歴史」「部首」「音と訓」について学ぶ。	漢字の歴史、部首、音と訓についてレジュメをよく読み、復習する。	4時間
第3回	文字と表記(2) 漢字表、仮名遣い、片仮名と外来語の表記を考える 日本語教育能力検定試験で出題頻度が最も高い分野である「言語一般」の「文字と表記」のうち「漢字表」「仮名遣い」「片仮名と外来語の表記」について学ぶ。	漢字表、仮名遣い、片仮名と外来語の表記についてレジュメをよく読み、復習する。	4時間
第4回	文字と表記(3) 送り仮名、ローマ字、文字の分類を考える 日本語教育能力検定試験で出題頻度が最も高い分野である「言語一般」の「文字と表記」のうち「送りがな」「ローマ字」「文字の分類」について学ぶ。	送り仮名、ローマ字、文字の分類についてレジュメをよく読み、復習する。	4時間
第5回	文字と表記のまとめ 日本語教育能力検定試験の出題範囲「文字と表記」の確認問題に取り組み、重要用語とその内容について理解しているか確認する。	身につけていないものはレジュメに戻り、関連部分をよく読む。	4時間
第6回	漢字の読み(1) 音読み、訓読みを学ぶ 大学・一般程度に含まれる漢字の「音読み」「訓読み」について学ぶ。	身につけていない漢字に関する課題を完成させる。	4時間
第7回	漢字の読み(2) 特別な読み、同字の音訓を学ぶ 大学・一般程度に含まれる漢字の「特別な読み」「同字の音訓」について学ぶ。	身につけていない漢字に関する課題を完成させる。	4時間
第8回	漢字の部首を学ぶ 大学・一般程度に含まれる漢字の「漢字の部首」について学ぶ。	「漢字の部首」の練習問題に取り組む。	4時間
第9回	熟語の理解を学ぶ 大学・一般程度に含まれる漢字の「熟語の理解」について学ぶ。	身につけていない漢字に関する課題を完成させる。	4時間
第10回	対義語・類義語を学ぶ 大学・一般程度に含まれる漢字の「対義語・類義語」について学ぶ。	身につけていない漢字に関する課題を完成させる。	4時間
第11回	四字熟語を学ぶ 大学・一般程度に含まれる漢字の「四字熟語」について学ぶ。	身につけていない漢字に関する課題を完成させる。	4時間
第12回	送りがなを学ぶ 大学・一般程度に含まれる漢字の「送りがな」について学ぶ。	身につけていない漢字に関する課題を完成させる。	4時間
第13回	同音・同訓異字を学ぶ 大学・一般程度に含まれる漢字の「同音・同訓異字」について学ぶ。	身につけていない漢字に関する課題を完成させる。	4時間
第14回	書き取りを学ぶ 大学・一般程度に含まれる漢字の「書き取り」について学ぶ。	身につけていない漢字に関する課題を完成させる。	4時間
第15回	「漢字の世界」のまとめ 文字と表記、学んだ漢字の内容や意味について、理解し身に付いているか確認する。	確認テストで間違った問題に再度取り組む。	4時間

721

授業科目名	インターンシップ				
担当教員名	田中哲平・工藤律子				
学年・コース等	1	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

この授業では、国際交流機関や一般企業において夏休みに原則1週間を基本とした研修・実習を体験します。現場はさまざまですが、現地での研修を通して、就職活動の際の企業研究や社会体験として活かすことを目的としています。

事前の説明会で希望者を募り、本人の希望、面接によってインターンシップ先を決定します。決定後は現地での実習、実習後のインターンシップ先からの評価、レポートの提出、事後指導などがあります。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

実際に企業の業務を知ることによって職業理解、社会で求められる事項を理解する。

目標：

決められた期間、条件を守りインターンシップを完遂すること

汎用的な力

1. DP7. 完遂

自身の目標を立て、企業の業務内容の把握、実行し、指導、評価を受けながら実習を完遂すること

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします

インターンシップ終了後、1回生に対して、経験を話していただくことがあります。インターンシップ期間中の交通費は自己負担となります。

成績評価**成績評価の方法・評価の割合**

現地での研修

70%

評価の基準

： インターンシップ先での実習の評価

事前・事後学習

30%

： インターンシップ前の学習と事後のレポートを評価

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・教室での事前学習2回、企業でのビジネスインターンシップ40時間～70時間、教室での事後学習2時間を授業として行います。
- ・企業から個別に留意事項がありますので、それに従ってください。
- ・最初に履修登録を行わないでください。修了し、評価を得た方に単位が付与されます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：

場所：

備考・注意事項： 上記のみならず、各アドバイザーが企業を担当しますので、適宜相談してください。

授業計画

第1回

インターンシップ先の研究

インターンシップ先を研究しておくこと

授業外学修課題にか
かる目安の時間

2時間

	事前学習：インターンシップ先の理解を進めます。 インターンシップ先は国際交流機関や一般企業などです。		
第2回	身だしなみのチェックリストの作成・業務の学習・目標設定 事前学習 ・基本的な身だしなみや言葉遣いの習得 身だしなみ、挨拶、言葉遣い等の講義とロールプレイを実施し、ビジネスシーンにおけるマナーを習得します。 ・業務の確認をします。 ・目標を設定し、日誌のつけ方を確認します。	授業内容の確認	2時間
第3回	インターンシップ開始 現地研究1日目	日誌をつける	2時間
第4回	インターンシップ 現地研究2日目	日誌をつける	2時間
第5回	インターンシップ 現地研究3日目	日誌をつける	2時間
第6回	インターンシップ 現地研究4日目	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	2時間
第7回	インターンシップ 現地研究5日目	日誌をつける	2時間
第8回	事後まとめ 事後学習、研修報告書を作成し、提出する。 これまでの体験をレポートにまとめる準備をする。	これまでの内容をまとめる	2時間

722

授業科目名	グローバルコミュニケーション入門				
担当教員名	浅野法子				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では、コミュニケーションとは何かを知り、現代のグローバル社会に必要なコミュニケーション能力について考えることを目的とします。まず、コミュニケーションをとる上で必要な言語と、身振り手振り等の非言語の役割について学びます。次に、異文化に対するさまざまな考え方を知り、多文化共生社会を生きる上で必要な知識と態度を身につけます。ここではそれぞれが関心をもったテーマを調査し、発表することを取り入れます。また、ケーススタディーとして中国語に着目し、東アジア文化へも目を向けます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

異文化やコミュニケーションに関する知識

目標：

異文化やコミュニケーションについて、学術的な定義づけや多数の事例をもとに、正しく理解することができる。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

グローバル社会のなかで異文化理解をすることの意義や起こりうる問題点について、インターネットや書籍の情報をもとに検討することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

プレゼンテーション	20%	： プレゼンテーションについて、講義内容の理解と調査結果の充実、そして考察の独自性をもとに採点します。それぞれ20点満点とし、全部で評価の20%とします。
期末レポート	30%	： 講義内容の理解と知識の定着を基準に採点します。30点満点とし、評価の30%とします。
意見文	30%	： 意見文（毎回授業後に提出）について、講義内容の理解と考察の独自性をもとに評価で採点します。2ポイント×15回分で評価し、全体評価の30%とします。
小テスト	20%	： 第6回目と第12回目に理解度ををはかる小テストを実施します。1回分を10点満点とし、評価の20%とします。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 浅野：水曜3限

場所： 西館5階研究室

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかるとかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション：コミュニケーションについて ・授業の進め方、評価方法について。 ・人間関係にかかわるコミュニケーションについて ・中国語という言語について	・配布資料の予習 4時間
第2回	コミュニケーションとは：相手の情報を受け止めるために ・聴き手に求められる力について ・相手の気持ちを理解するには ・ほめ言葉について 中国語①：繁体字文化と簡体字文化	・配布資料の予習 4時間
第3回	コミュニケーションとは：自分の情報を伝えるために①言語 ・話を効果的に伝える方法 ・言語コミュニケーションについて ・相手の立場になって情報を伝えるには 中国語②：発音について	・配布資料の予習 4時間
第4回	コミュニケーションとは：自分の情報を伝えるために②非言語 ・相手の立場になって情報を伝えるには ・非言語コミュニケーションの種類（身体動作と空間行動） 中国語③：母音と子音について	・配布資料の予習 4時間
第5回	コミュニケーションとは：問題を発見し、論理的に考えて提案する①問題分析 ・問題を発見する ・問題を分析する 中国語④：声調と軽声について	・発表を聞いて自分が感じたことを、ノートに300字程度でまとめます。 ・配付資料（言語コミュニケーションについての文章）を予習しておきます。 4時間
第6回	コミュニケーションとは：問題を発見し、論理的に考えて提案する②目的分析 ・解決策を提案する ・判断に必要な力について 中国語⑤：あいさつのいろいろ	・配布資料の予習 4時間
第7回	日本人のコミュニケーション ・高コンテクスト・コミュニケーションについて ・低コンテクスト・コミュニケーションについて 中国語⑥：自己紹介	・配布資料の予習 4時間
第8回	異文化間コミュニケーション ・異文化とは ・異文化間コミュニケーションの本質 ・コミュニケーションのずれ 中国語⑦：自己紹介のいろいろ	・配布資料の予習 4時間
第9回	グローバルとは ・グローバル社会について ・国際化、グローバル化とは何か 中国語⑧：名詞について	・配布資料の予習 4時間
第10回	異文化を理解する：調査 ・各自、関心のある異文化について調べる ・テーマの発表 中国語⑨：肯定文と否定文	・配布資料の予習 ・調査のまとめ 4時間
第11回	異文化を理解する：調査とまとめ ・各自、関心のある異文化について調査し、まとめる 中国語⑩：疑問文	・配布資料の予習 ・調査のまとめ 4時間
第12回	異文化を理解する：発表準備 ・各自、関心のある異文化について調査したものをまとめる。 ・発表の準備をする。 中国語⑪：能願動詞	・配布資料の予習 ・発表準備 4時間
第13回	異文化を理解する：発表 ・各自、発表する。 ・他の人の発表を聞いて、ルーブリックをつける。 中国語⑫：数の表現	・配布資料の予習 4時間
第14回	異文化を理解する：発表のまとめ ・それぞれの発表についてコメントする。 ・それぞれ振り返りをする。 中国語⑬：曜日と時刻の表現	・配布資料の予習 4時間
第15回	まとめ： ・講義内容の振り返り ・多文化共生社会を生きる上で必要な力について考える	・授業の振り返り ・レポートの提出準備 4時間

722

授業科目名	広告表現				
担当教員名	田中哲平				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

広告物である紙や画像、映像、Webページ上の表現について、その特性やスキルについて学びます。情報伝播活動である広告を収集し、分析することで、昨今の広告について考えます。ことばと視覚的な効果を学びながら、広告表現の基礎的な学習と実習を経てより高度な能力を身につけます。課題制作を通して広告デザインの表現力を高め、企画力やスキルを身につけながら、広告デザインを企画する知識と技術を学びます。身のまわりの広告表現について、分析する目を養います。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践
2. DP5. 計画・立案力

具体的内容：

広告表現を学ぶ。

目標：

広告表現に関する知識やスキルを身につけることができる。

積極的に制作に関わることができる。

自ら課題を発見し、情報収集・分析し、発表することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**成績評価の方法・評価の割合**

制作課題

評価の基準

40% : 企画調査、構成力、オリジナリティー等の観点から、独自のルーブリックに基づいて評価します。

プレゼンテーション

30% : 内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。

授業態度

30% : 授業に積極的に参加し、課題に取り組む態度を評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日1限

場所： 研究室

授業計画

第1回

広告表現とはなにか

お気に入りの広告を探してください

授業外学修課題にか
かかる目安の時間

4時間

	広告についての概要をオリエンテーションで学びながら、授業の目的や評価方法について伝えます。		
第2回	広告と学習 広告がなぜ成立するのかについて、観察学習の観点から学びます	観察学習について事前学習を行ってください	4時間
第3回	広告と心理 広告における単純接触効果やサブリミナル効果の真偽について学びます	単純接触効果について事前学習を行ってください	4時間
第4回	世界のCM 世界のCMについて動画を見ながら学びます	お気に入りのCMを探してください	4時間
第5回	日本のCM 日本のCMについて動画を見ながら学びます	お気に入りのCMを探してください	4時間
第6回	お気に入りのCM発表1 皆さんが収集したCMの面白さをプレゼンテーションによって発表します	お気に入りの広告を探してください	4時間
第7回	お気に入りのCM発表2 皆さんが収集したCMの面白さをプレゼンテーションによって発表します	お気に入りの広告を探してください	4時間
第8回	動画広告と静画広告の違い 動画と静画のCMの違いを学びます	広告の素材を探してください	4時間
第9回	広告素材の収集1 大阪などをテーマにした広告作成のために素材を集めます	広告の素材を探してください	4時間
第10回	広告素材の収集2 大阪などをテーマにした広告作成のために素材を集めます	広告の素材を探してください	4時間
第11回	広告素材の編集1 編集ソフトなどを使用し、画像加工の技術を学びます	広告を作成します	4時間
第12回	広告素材の編集2 編集ソフトなどを使用し、画像加工の技術を学びます	広告を作成します	4時間
第13回	広告素材の編集3 編集ソフトなどを使用し、画像加工の技術を学びます	広告を作成し発表の準備を行います	4時間
第14回	作成した広告発表1 皆さんが作成した広告をプレゼンテーションによって発表します	広告を作成し発表の準備を行います	4時間
第15回	作成した広告発表2 皆さんが作成した広告をプレゼンテーションによって発表します	広告を作成し発表の準備を行います	4時間

授業科目名	書道				
担当教員名	高橋文香				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	地方自治体のコミュニティセンターや国際交流協会等で書道講師を経験。日本やハワイの文化交流イベントで書道のワークショップやパフォーマンスを実施。(全15回)				

開放科目の指示：「可」

授業概要

書や文字の歴史に触れながら、毛筆・硬筆の書写技術の習得、表現方法の向上を目指します。初学者（中学生レベル）への指導の心構えを学び、楷書体及び正確に速く書く為の行書体、これらに調和する仮名の習得が可能です。目的や必要に応じた効果的な書き方に加え、豊かな文字文化を知ることで書の芸術性を再確認し、思いを伝える書や日常生活に生かす多様な書の表現方法を学びます。必要に応じて課題を出題し個別添削を行い書き癖を修正しながら技能向上を目指します。授業中は問答や意見交換を行い授業の理解度を高めます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP2. 専門的知識・技能、職業理解	書道初学者指導の心構えと要領	自分の表現だけではなく初学者（中学生レベル）指導の心構えを学び、「正確に速く」を書写目標とした行書技術習得ができる。
2．DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	書の歴史と書写基本技能・表現力	書や文字の歴史を踏まえ、硬筆・毛筆の基本書写技能習得を目指しながら、思いを伝える多様な書表現を学ぶことができる。
汎用的な力		
1．DP8. 意思疎通		思いを伝える書を学ぶことでコミュニケーション力が向上する。また、情報をわかりやすく、多数の人に伝える発信力を身につけることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
第6回授業時に硬筆課題作品提出 25%	第1回～第5回硬筆授業を踏まえた硬筆課題作品を提出。授業の理解度及び、字形、筆脈、全体のバランス等の観点で評価する。
第15回授業時に毛筆課題作品提出 25%	第7回～第14回毛筆授業を踏まえた毛筆課題作品と自由創作作品を提出。課題作品は授業の理解度を評価し、自由作品は、授業で学んだ知識を利用し、豊かな表現ができているかという観点で評価する。
授業態度 30%	授業や課題作品制作への集中度や、授業中の受け答えや取り組み姿勢の積極性及び理解度を評価する。
宿題提出 20%	授業内容の理解度と取り組みの集中度の観点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・『中学校学習指導要領解説国語編』（平成29年6月告示 文部科学省）
- ・『新しい書写 一年用、二・三年用（中学校教科書）』（平成25・26年 東京書籍）
- ・『唐拓 九成宮醜泉銘』（昭和52年 清雅堂）
- ・『王羲之 蘭亭序 張金界奴本』（昭和57年 清雅堂）
- ・『世界の文字の物語』（平成28年 大阪府立弥生博物館特別展図録）
- ・『角川書道字典』（昭和52年 伏見冲敬著 角川書店）
- ・『中国法書選シリーズ』（昭和63年 二玄社）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

<持ち物>

硬筆授業：黒のボールペン、2B鉛筆、消しゴム等

毛筆授業：筆・墨・硯・半紙・下敷き・文鎮など書写用具（今まで使用の品でよい）

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業教室

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	ガイダンス—書とは— 書く事の意味、文字や書の歴史、授業目標と計画、用具等の説明を行います。	書く事の意味、文字や書の歴史について復習する。 4時間
第2回	硬筆：整った文字の条件・漢字（楷書体） 姿勢、ペン（鉛筆）の持ち方、楷書体の特徴を知るとともに、整った文字の条件を学びます。	ペンを使い、名前や大学名等を楷書体で書いて復習する。 4時間
第3回	硬筆：漢字（楷書体）と仮名の調和 平仮名・片仮名の成り立ちや特徴を学びます。 漢字（楷書体）と調和する仮名を学びます。	ペンを使い、漢字・平仮名混じりの文を楷書体で書いて復習する。 4時間
第4回	硬筆：漢字（行書体）をペンで書く 漢字（行書体）の特徴を学びます。 ペンをういた書き方を学びます。 葉書の書き方を練習します。	ペンを使い、名前や大学名等を行書体で書いて復習する。 4時間
第5回	硬筆：漢字（行書体）と調和する仮名 漢字（行書体）と調和する仮名の特徴を学びます。 手紙の書き方を練習します。	ペンを使い、漢字・平仮名混じりの文を行書体で書いて復習する。 4時間
第6回	硬筆：作品指導と課題提出 第1回～第5回の硬筆授業内容を踏まえ、課題を完成させ提出します。	硬筆授業の総復習する。 4時間
第7回	毛筆：用筆法 姿勢、筆の持ち方、使い方の基本を学びます。 基本の点画を練習します。	大筆を使い、基本の用筆法・点画を復習する。 4時間
第8回	毛筆：漢字（楷書体）を書く 大筆を使い、漢字（楷書体）及び、調和する仮名の特徴を学びます。 古典『九成宮醜泉銘』から楷書の用筆法を再確認します。	大筆を使い、名前を漢字（楷書体）と調和する仮名で練習する。 4時間
第9回	毛筆：漢字（行書体）を書く 大筆を使い、漢字（行書体）及び、調和する仮名の特徴を学びます。 古典『蘭亭序』から行書の用筆法を再確認します。	大筆を使い、名前を漢字（行書体）と調和する仮名で練習する。 4時間
第10回	毛筆：小筆を生活に生かす 小筆の使い方を学びます。 小筆で名前や大学名等を練習し、のし紙やのし袋の書き方を学びます。	小筆を使い、名前を漢字と平仮名で練習する。 4時間
第11回	毛筆・硬筆：毛筆体験を硬筆や板書に生かす 大筆・小筆・ペン・鉛筆を使い、硬筆や板書は毛筆の書き方と一体のものであることを学びます。	ペン字に筆の筆圧を取り入れ、名前を漢字と平仮名で練習する。 4時間
第12回	毛筆：文字の歩みを体験する 古典作品の鑑賞ポイントや臨書を学びます。 書の歴史の流れを、実際に大筆や小筆で書く事で確かめます。	古典作品の臨書をする。 4時間
第13回	毛筆：特大筆で書く 大きな筆で大きい紙に大字を書き、体全体で文字を書くことの大切さと面白さを確認します。	半紙に大きく一字書きをして復習する。 4時間
第14回	毛筆：創作の試み 第15回の作品提出に向け、自分の書きたい言葉を選び、自分のイメージに合わせ、字典や古典作品等も参考にしながら、色々な表現方法を学びます。	第15回に提出する自由創作作品の練習をする。 4時間
第15回	毛筆：創作指導と作品提出 第7回～第14回の毛筆授業内容を踏まえ、課題作品と自由創作作品を完成させ提出します。	全授業のプリントを読み、実技を復習する。 4時間

授業科目名	デジタル画像処理				
担当教員名	たては遼				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	イラストレーターとしての案件制作。イラスト講師としての非常勤講師勤務。（全15回）				

開放科目の指示：「可」

授業概要

マンガ・イラスト制作におけるキャラクターデザインの基幹となるデフォルメ表現を目的とした画法を学び、それを生かしたオリジナルイラストを作成する。Photoshopなどデジタルツールの使用方法を学び、デジタルコンテンツに対応したイラスト制作技術の基礎を習得することを目指す。イラストを学ぶことで、豊かな表現力やクリエイティブな発想力の育成を目指すとともに、コミュニケーションツールの一つとして役立てられるようにすることを目的とする。

養うべき力と到達目標

<p>確かな専門性</p> <ol style="list-style-type: none"> DP2. 専門的知識・技能、職業理解 DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力 <p>汎用的な力</p> <ol style="list-style-type: none"> DP7. 完遂 	<p>具体的内容：</p> <p>アニメ・マンガ・デザインの専門知識</p> <p>アニメ・マンガ・デザインによる表現力</p>	<p>目標：</p> <p>アニメーション・マンガ・デザインを通じた視覚表現についての深く理解できる。</p> <p>素描力・演出力・独創性・デジタル技法を通じて自分が思い描いたものを視覚的に表現することができる。</p> <p>授業で学んだ技術を活用し、作品を完成させることができる。</p>
---	---	--

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- 提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

試験（作品提出）

60%

制作姿勢

40%

評価の基準

： 授業で学んだ技術を作品に活用できているかどうか。画力ではなく、完成度を基準とする。

： 各回授業で技術を学ぶ姿勢があるかどうか、積極的に制作を進めているかどうかを総合的に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

宮川千春、木俣カイ著『これからはじめるPhotoshopの本』（技術評論社、2012）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： Eメール(ryouyuuki@hotmail.com)でも受け付ける。メールの件名は『デジタル画像処理について』とする。氏名と学籍番号を必ず記載すること。

授業計画

第1回

ペンタブレットの使い方

ペンタブレットの使い方を復習し、練習しておく。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

	ペンタブレットに触れ、設定などの仕方を覚える。ペンタブレットでの作業の練習をする。		
第2回	SDキャラクターの描き方① ー等身の低いキャラクター SD手法で等身の低いキャラクターを作る。	SDキャラクターの描き方を復習しておく。	4時間
第3回	SDキャラクターの描き方② ーラフ画、下書き作成ー テーマと構図を決め、ラフ画を描く。ラフ画を元に、下書きを作成する。	下書きまで自身の作品制作を進めておく。	4時間
第4回	SDキャラクターの描き方③ ーペン入れー 下書きを元に、ペン入れをする。	ペン入れまで自身の作品制作を進めておく。	4時間
第5回	SDキャラクターの描き方④ ー色塗りー 配色を決め、色塗りをする。	色塗りまで自身の作品制作を進めておく。	4時間
第6回	SDキャラクターの描き方⑤ ー仕上げー ハイライトなど細かい部分を塗り込む。加工をして完成させる。	作品を完成させ、提出する。	4時間
第7回	ポストカード制作① ーラフ画作成ー カードのテーマを決め、ラフ画を描く。	ラフ画まで自身の作品制作を進めておく。	4時間
第8回	ポストカード制作② ー作品作成ー ラフ画を元に、制作を進める。	各自作品制作を進めておく。	4時間
第9回	ポストカード制作③ ー作品作成ー 前回は引き続き、作品を制作する。	各自作品制作を進めておく。	4時間
第10回	ポストカード制作④ ー作品作成ー 前回は引き続き、作品を制作する。	作品を完成させ、提出する。	4時間
第11回	スマートフォン待ち受け画像制作① ーラフ画作成ー デザインを考え、ラフ画を描く。	各自作品制作を進めておく。	4時間
第12回	スマートフォン待ち受け画像制作② ー作品作成ー 前回は引き続き、作品を制作する。	各自作品制作を進めておく。	4時間
第13回	スマートフォン待ち受け画像制作③ ー作品作成ー 前回は引き続き、作品を制作する。	各自作品制作を進めておく。	4時間
第14回	スマートフォン待ち受け画像制作④ ー作品作成ー 前回は引き続き、作品を制作する。	作品を完成させ、提出する。	4時間
第15回	合評 作品を発表し、評価し合う。	評価を受け、自身の作品を見直す。	4時間

授業科目名	アニメキャラクター演習				
担当教員名	たては遼				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	イラストレーターとしての案件制作。イラスト講師としての非常勤講師勤務。（全15回）				

授業概要

「デジタル画像処理」の授業を踏まえ、マンガ・イラスト制作におけるキャラクターデザインの基幹となるデフォルメ表現をより洗練するため、人体の描き分けを学び、それを生かしたオリジナルイラストを制作する。Photoshopなどデジタルツールの使用方法の定着を図り、デジタルコンテンツに対応したイラスト制作技術の習得を目指す。イラストを学ぶことで表現の幅を広げ、コミュニケーションツールの一つとして役立てられるようにする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

- アニメ・マンガ・デザインの専門知識
アニメ・マンガ・デザインによる表現力

目標：

アニメーション・マンガ・デザインを通じた視覚表現について深く理解できる。
素描力・演出力・独創性・デジタル技法を通じて自分が思い描いたものを視覚的に表現することができる。

汎用的な力

1. DP7. 完遂

授業で学んだ技術を活用し、作品を完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

試験（作品提出）

60%

制作姿勢

40%

評価の基準

： 授業で学んだ技術を作品に活用できているかどうか。画力ではなく、完成度を基準とする。

： 各回授業で技術を学ぶ姿勢があるかどうか、積極的に制作を進めているかどうかを総合的に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

宮川千春、木俣カイ著『これからはじめるPhotoshopの本』（技術評論社、2012）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： Eメール(ryoyuuki@hotmail.com)でも受け付ける。メールの件名は『アニメキャラクター演習について』とする。氏名と学籍番号を必ず記載すること。

授業計画

第1回

ペンタブレットの使い方

ペンタブレットの使い方を復習し、練習しておく。

授業外学修課題にかかる目安の時間

4時間

	ペンタブレットに触れ、設定などの仕方を覚える。ペンタブレットでの作業の練習をする。		
第2回	キャラクターの描き分け①—顔の描き分け— 男女のキャラクターの顔の描き分けを学ぶ。	男女の顔の描き方を復習しておく。	4時間
第3回	キャラクターの描き分け②—全身の描き分け— 男女のキャラクターの全身の描き分けを学ぶ。	男女の全身の描き方を復習しておく。	4時間
第4回	キャラクターの描き分け③—下書き— 男女キャラクターのラフを描き、下書きを作成する。	下書きまで自身の作品制作を進めておく。	4時間
第5回	キャラクターの描き分け④—ペン入れ— 下書きを元に、ペン入れをする。	ペン入れまで自身の作品制作を進めておく。	4時間
第6回	キャラクターの描き分け⑤—下塗り— 配色を決め、下塗りをする。	下塗りまで自身の作品制作を進めておく。	4時間
第7回	キャラクターの描き分け⑥—影付け— 下塗りした作品に影付けをする。	影付けまで自身の作品制作を進めておく。	4時間
第8回	キャラクターの描き分け⑦—ラフ画完成— ハイライトや加工の処理をし、完成させる。	作品を完成させ、提出する。	4時間
第9回	自分のマスコットキャラクターの制作①—下書き— デザインを決め、ラフを描く。ラフ画を元に下書きをする。	下書きまで自身の作品制作を進めておく。	4時間
第10回	自分のマスコットキャラクターの制作②—ペン入れ— 下書きを元に、ペン入れをする。	ペン入れまで自身の作品制作を進めておく。	4時間
第11回	自分のマスコットキャラクターの制作③—下塗り— 配色を決め、下塗りをする。	下塗りまで自身の作品制作を進めておく。	4時間
第12回	自分のマスコットキャラクターの制作④—影付け— 下塗りした作品に影付けをする。	影付けまで自身の作品制作を進めておく。	4時間
第13回	自分のマスコットキャラクターの制作⑤—仕上げ— ハイライトや加工の処理をし、完成させる。	作品を完成させ、提出する。	4時間
第14回	自分のマスコットキャラクターの制作⑥—ネームカード作成— キャラクターを使用したネームカードを作成する。	作品を完成させ、提出する。	4時間
第15回	合評 作品を発表し、評価し合う。	評価を受け、自身の作品を見直す。	4時間

授業科目名	放送メディアコミュニケーション				
担当教員名	久米村直子				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	ラジオ番組、テレビ番組でのアナウンス、パーソナリティー実務経験が30年以上あり現在も継続中です。				

開放科目の指示：「可」

授業概要

まずは、腹式呼吸での挨拶をマスターします。そして、週に一回の授業である点を活かし、7日間の出来事で印象に残った出来事を時間内に話すことで話すことに慣れ、日々の生活を少し注意深く観察できるようにします。更に、授業では、ドキュメント映像・映画、ミュージッククリップ、雑誌や新聞のニュースなど、さまざまな素材を通してその内容を第三者に伝えられるよう理解を深めます。第三者に内容を伝えるにはどのようにすればよいのか、素材に何を加え、何を省けばよいのかなどを考えます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

第三者に何かを伝える際の注意点を学び、言葉の選び方や文章の構成を学びます。

目標：

自分自身が感じた日常の喜怒哀楽を相手にも同じように伝えることができる。

汎用的な力

1. DP8. 意思疎通

相手に興味を持ってもらうために話を構成することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業態度	25%	： 各回授業への積極的参加や受講マナーを総合的に評価します。
課題発表	25%	： 授業で出した課題発表での注意点や課題の意図を理解しているかなどを評価します。
レポート提出	25%	： 発表に連動して必ず原稿を用意してもらいます。文章をチェックすることで理解している点、していない点をより明確に採点評価します。
期末レポートと発表	25%	： 授業の集大成として期末レポートの提出と発表により本授業内容を理解度合いを確認します。15回授業終了後（定期試験期間）に実施（提出）する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

実際にラジオ番組で使用した、ニュース原稿やパブリシティ原稿を使用します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： レポート提出や授業参加（出席）が滞りがちな学生には、その都度声掛けします。また、メールでの質問にも対応します。

授業計画		授業外学修課題にかかると見られる目安の時間
第1回	挨拶の仕方・授業の狙いを解説 腹式呼吸での挨拶の仕方を練習します。 授業の進行方法や成績評価などを説明します。 自己分析を兼ねた自己紹介アンケートに記入してもらい授業内で活用してもらいます。	腹式呼吸をマスターする 4時間
第2回	滑舌 滑舌練習。文章を使い、正しい滑舌で言葉話すことを学びます。	滑舌プリントを復習する 4時間
第3回	レポート提出と発表 文章力のチェックも兼ねてレポートを出してもらい、起承転結、文章の構成の仕方を学びます。	出来た原稿を声を出し読む練習をする 4時間
第4回	伝える 映像の短編ものを見てもらい、理解力と伝える能力をチェックします。	物語を思い出し、要点を書き出して伝える内容を組み立てる 4時間
第5回	レポート提出と発表 文章力のチェックも兼ねてレポートを出してもらい、起承転結、文章の構成の仕方を復習します。	原稿を元に腹式と滑舌に注意しながら読む練習をする 4時間
第6回	伝える方法 好きな映画やアニメなどの面白さを正しい滑舌の標準語で伝える練習をします。	好きな映画やアニメの面白さを書き出す 4時間
第7回	ニュースなど紙媒体から学ぶ 雑誌など身近な記事から聞き手が興味を持ってくれるような伝え方を学びます。	ニュース番組や新聞をチェックする 4時間
第8回	ラジオ番組構成 実際に進行表を作ってみます。 時間配分やコーナーの順番などを構成してもらいます。	ラジオのトークを意識して聞いてみる 4時間
第9回	ラジオ番組進行表作りーオープニングトークとエンディングトークー 番組の始まりになるオープニングとエンディングトークに必要な旬な話題を取り入れ、つかみトークとなる原稿を作ります。	ラジオ番組を意識して聞いてみる 4時間
第10回	ラジオ番組進行表作りー紹介原稿ー 番組で紹介する曲をより魅力的に聞こえるような紹介原稿を考えます。	ラジオ番組の構成を考えてみる 4時間
第11回	ラジオ番組進行表作りー原稿作成ー それぞれがラジオを聴いてる人に知ってほしいことをパブリシティとして原稿作成してもらいます。	人に興味を持ってもらうための番組作りを考える 4時間
第12回	ラジオ番組進行表作りー問題点の確認ー ラジオ番組進行表作りでわからない点、不明な点を確認します。	構成した番組を自分で話す練習をする 4時間
第13回	決められた枠内での企画構成 起承転結と流れを考えて構成する。	企画構成の準備をする 4時間
第14回	ラジオ番組作り 構成した内容の要点をまとめる	各局のラジオ番組を参考に聞く 4時間
第15回	ラジオ番組作り完成 客観的に自分の番組を聞いてみる	評価を受け、発表内容を見直す 4時間

722

授業科目名	社会心理学				
担当教員名	田中哲平				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

人間は社会の中で暮らし、社会の中で他者とかわりながら生活している。本講義では社会心理学の基本的な研究法を紹介しながら、様々なレベルにおける心理を学ぶ。自己レベルでは個々人の心理を扱い、対人レベルでは対人関係の心理を扱う。集団レベルでは集団としての心理を扱い、社会・文化レベルでは広く社会の心理を扱う。自分と他者との関係性を、多種多様な観点から考察し、社会における自分のあり方を考えるきっかけとする。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

具体的内容：

社会心理学に関する知識を身に付ける。

目標：

講義内で扱う内容を深く理解し、議論する。

社会における心のあり方に関する課題を発見する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業への取り組み状況

30%

小テスト

20%

期末試験

50%

評価の基準

： 授業内容に関する質問、コメント、感想などを記入するコメントカードを用いて評価する。(2点×15回=30点)

： 講義で学んだ知識を正しく理解しているかについて評価する。(10点×2=20点)

： 講義で学んだ知識を正しく理解しているかについて評価する。(50点)

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で配布する資料

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜日3限

場所： 研究室

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	社会心理学とはなにか 社会心理学の概要をオリエンテーションで学びながら、授業の目的や評価方法について伝えます。	配布資料を確認し、疑問点などを整理しておく。 4時間
第2回	社会心理学のはじまり ホーソン実験をテーマに、集団における心理の重要性を学びます	ホーソン実験について事前学習を行ってください 4時間
第3回	動機づけについて 人間の持つ様々な動機づけ、をいくつかの実験を通じて学びます	内発的動機づけと外発的動機づけについて事前学習を行ってください 4時間
第4回	社会的動機づけと欲求について 人間がどのような社会的動機づけや欲求を持ち、それを満たしていくのかを学びます	マレーの社会的動機づけについて事前学習を行ってください 4時間
第5回	集団における意思決定1 人間が集団の中でどのように意思決定を行うかを、映画を通じて学びます	斉一性の原理について事前学習を行ってください 4時間
第6回	集団における意思決定2 人間が集団の中でどのように意思決定を行うかを、映画を通じて学びます	斉一性の原理について学んだことをまとめてください 4時間
第7回	集団における意思決定3 人間が集団の中でどのように意思決定を行うかを、スタンフォード監獄実験などの紹介を通じて学びます	スタンフォード監獄実験について事前学習を行ってください 4時間
第8回	原因帰属について 人間がなにかの原因を求める時、どのような心理が働いているのかを学びます	原因帰属について事前学習を行ってください 4時間
第9回	思考について1 人間の思考について、ヒューリスティクスの観点から学びます	ヒューリスティクスについて、事前学習を行ってください 4時間
第10回	思考について2 人間の思考について、推論の観点から学びます	推論について、事前学習を行ってください 4時間
第11回	対人関係について 人間の対人関係について、様々な理論やモデルを通じて学びます	バランス理論について事前学習を行ってください 4時間
第12回	印象形成について 人間の印象がどのように形成されるか、様々な理論やモデルを通じて学びます	中心特性について事前学習を行ってください 4時間
第13回	人間の性格1 人間の性格について、類型論の観点から学びます	代表的な類型論について事前学習を行ってください 4時間
第14回	人間の性格2 人間の性格について、特性論の観点から学びます	代表的な特性論について事前学習を行ってください 4時間
第15回	まとめ 授業で学んだことをまとめ、疑問点を整理し、質問などに回答します。	これまでの学習をまとめてください 4時間

722

授業科目名	臨床心理学				
担当教員名	田中哲平				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

授業概要

臨床心理学は、広く心理的問題の解決を図るための学問です。講義では、まず臨床心理学の基礎理論を学んだ上で、臨床心理学で扱う心の諸問題、および問題を軽減し当事者を支援するための方法について具体的に学んでいきます。正しい知識を身につけることを通して、人間（自己を含む）への深い理解を形成していきます。基本的には講義形式ですが、より深く実際に理解することを目的として、アクティブラーニングの一環として一部演習を取り入れます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

臨床心理学の基礎理論と応用についての理解

目標：

臨床心理学の基礎理論に関する知識を習得し、その応用について考えることができる。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

現代社会における心理的課題を見出し、その改善方法について考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規程回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業への取り組み状況	30%	: 授業内容に関する質問、コメント、感想などを記入するコメントカードを用いて評価する。 (2点×15回=30点)
小テスト	20%	: 講義で学んだ知識を正しく理解しているかについて評価する。(10点×2=20点)
期末試験	50%	: 講義で学んだ知識を正しく理解しているかについて評価する。(50点)

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で配布する資料

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修がもとめられる。「授業外学修課題」にとりくむことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日1限
場所： 研究室

授業計画

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	臨床心理学とはなにか 臨床心理学の概要をオリエンテーションで学びながら、授業の目的や評価方法について伝えます。	臨床心理学に抱くイメージをまとめてきてください	4時間
第2回	心の不調と要因 心の不調に関する要因にどのようなものがあるかを学びます	心に不調を感じる時の要因について自分なりにまとめてきてください	4時間
第3回	性格について 人間の性格についてどのような考え方があるかを歴史的に学びます	類型論と特性論について事前学習を行ってください	4時間
第4回	心の不調1 心の不調、特にうつ病・抑うつについて学びます	うつ病・抑うつについて事前学習を行ってください	4時間
第5回	心の不調2 心の不調、特に様々な不安症について学びます	不安症について事前学習を行ってください	4時間
第6回	心の不調3 心の不調、特にPTSDについて学びます	PTSDについて事前学習を行ってください	4時間
第7回	心理療法1 心理療法の基本的な考え方の一つである、来談者中心療法について学びます	来談者中心療法について事前学習を行ってください	4時間
第8回	心理療法2 様々な心理療法について学びます	箱庭療法について事前学習を行ってください	4時間
第9回	心理アセスメント1 心理アセスメントを、様々な質問紙法の紹介を通じて学びます	質問紙法の特徴について事前学習を行ってください	4時間
第10回	心理アセスメント2 心理アセスメントを、様々な作業検査法・投影法を通じて学びます	投影法について事前学習を行ってください	4時間
第11回	発達障害について1 代表的な発達障害（LD・ADHD）について学びます	LD・ADHDについて事前学習を行ってください	4時間
第12回	発達障害について2 代表的な発達障害（ASD）について映像を通じて学びます	ASDについて事前学習を行ってください	4時間
第13回	発達障害について3 発達障害をテーマにした映画を視聴し、理解を深めていきます。	これまで学んだ発達障害について復習を行ってください	4時間
第14回	発達障害について4 発達障害をテーマにした映画を視聴し、理解を深め、自分なりの意見を形成します。	これまで学んだ発達障害について復習を行い、自分の考えをまとめてきてください	4時間
第15回	まとめ 授業で学んだことをまとめ、疑問点を整理し、質問などに回答します。	これまでの学習をまとめてください	4時間

722

授業科目名	グローバルコミュニケーション演習				
担当教員名	佐伯暁子				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、①敬語について理解を深めるとともに、②小説、アニメ、テレビドラマ、映画などのメディアにおいて敬語がどのように用いられているか、調査・分析・発表をすることで、調査方法や論理的な説明方法を身に付け、さらに、文化的背景についても考えられるようになることを目指す。本授業で取り上げる敬語については、日本語教育能力検定試験出題範囲のうち出題頻度の最も高い分野である「言語一般」の「文法体系」を踏まえている。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- 2 . DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

- 敬語についての深い理解と専門知識
敬語の用例分析力

目標：

- 敬語の適切な使い方を理解し、それらを正しく使うことができる。
収集した用例を分析し、説得力のある論理的な資料を作成できる。
収集した用例について、敬語の視点から課題を発見し分析できる。
分析した内容について、指定の形式に沿った資料を完成させ、発表することができる。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見
- 2 . DP7. 完遂

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

確認テスト	30%	： 授業内容の理解度について各回10点で評価し、合計30点とする。
発表	40%	： 用例分析の適切さ、発表資料の正確さ、分かりやすさにより評価する。
レポート	30%	： 指定の形式に沿って独自の分析結果及び意見を提示できているかどうかという観点から評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

山田敏弘『国語教師が知っておきたい日本語文法』（くろしお出版、2005年）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜日2限（10:40-12:10）
場所： 西館5階研究室

備考・注意事項： その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：saiki@osaka-seikei.ac.jp）。Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画			授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	ガイダンス—敬語について— 「グローバルコミュニケーション演習1」の目的と全体的な計画を学ぶ。また、敬語の概要について学ぶ。さらに、研究倫理教育も実施する。	レジュメをよく読み、敬語について復習する。	1時間
第2回	敬語（1） 敬語の種類 敬語の種類と違いについて学ぶ。	敬語の種類ごとに意味や使い方をまとめる。	1時間
第3回	敬語（2） 間違えやすい敬語 二重敬語など間違えやすい敬語について学ぶ。	間違えやすい敬語についてまとめ、適切な使い方を復習する。	1時間
第4回	敬語のまとめ 敬語の確認問題に取り組み、敬語の意味とその使い方について理解しているか確認する。	身につけていないものはレジュメに戻り、関連部分をよく読む。	1時間
第5回	言語調査の進め方、発表の仕方 言語調査の進め方、および発表の手順と発表資料の作成方法について学ぶ。	発表テーマおよび調査資料を考え、発表の準備を行う。	1時間
第6回	調査（1） 正しい敬語 具体的な資料から正しい敬語を抜き出す作業を行う。	自分の探してきた資料から正しい敬語を抜き出す。	1時間
第7回	調査（2） 間違っている敬語 自分の探してきた資料から間違っている敬語を抜き出す作業を行う。	自分の探してきた資料から間違っている敬語を抜き出す。	1時間
第8回	分析（1） 正しい敬語 具体的な資料から抜き出した正しい敬語について分析を行う。	収集した正しい敬語を分析する。	1時間
第9回	分析（2） 間違っている敬語 具体的な資料から抜き出した間違っている敬語について分析を行う。	収集した間違っている敬語を分析する。	1時間
第10回	発表（1） 自分の関心に沿った資料を探し、調査・分析をし、発表を行う。	他の学生の発表について、参考になる点をピックアップする。	1時間
第11回	発表（2） 前回は引き続き、調査・分析したことをまとめ、発表を行う。他の学生の発表資料について理解を深める。	他の学生の発表資料について、参考になる点をピックアップする。	1時間
第12回	発表（3） 前回は引き続き、調査・分析したことをまとめ、発表を行う。他の学生の発表内容について理解を深める。	他の学生の発表内容について、参考になる点をピックアップする。	1時間
第13回	発表（4） 前回は引き続き、調査・分析したことをまとめ、発表を行う。他の学生の発表資料について理解を深める。	他の学生の発表内容について、参考になる点をピックアップする。	1時間
第14回	発表（5） 前回は引き続き、調査・分析したことをまとめ、発表を行う。他の学生の発表の仕方について理解を深める。	他の学生の発表の仕方について、参考になる点をピックアップする。	1時間
第15回	発表の振り返りと「グローバルコミュニケーション演習1」のまとめ 発表の振り返りを行うとともに、敬語について理解し身に付いているか確認する。	最終レポートを完成させる。	1時間

722

授業科目名	グローバルコミュニケーション演習				
担当教員名	麻島徳子				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では、日本の文学作品の英訳本を原作と比較しながら、英訳版の読書を英語学習に生かすとともに、両者の比較を通じて双方の異文化理解を深めることを目的とします。各授業では、英語に翻訳され世界中に読者を持つ著名な日本の文学作品を原作や映像化作品と比較しながら、日本独特の文化や言語的特徴が英語でどのように表現されているのかを分析します。最終的には、日本語と英語の言語的相違を理解した上で、自分の言葉でその相違を分析し論述できるようになることを目的とします。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

日本語と英語の言語的相違への理解、異文化理解

目標：

英訳本と原作との比較を通じて、双方の文化や表現の違いについて説明できる。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

日本語と英語の文化の違いに基づいた表現の違いを理解し、適切な表現を用いて意見を述べるができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

小テスト	20%	： 毎回の授業の最初に、前回の授業の理解度を測る小テスト（参照可）を実施します。全体の平均点を評価の20%とします。
授業内課題	40%	： 授業内課題として、複数回授業内容の理解に基づいた論述レポートを課し、その提出状況と内容への評価点をもとに、評価の40%とします。
プレゼンテーション	20%	： 第15回目の授業に、自分で選択した英訳版の作品と原作との比較、分析をプレゼンし、その内容に応じて評価の20%とします。
期末レポート	20%	： 15回授業後に、プレゼンテーションの内容に基づいて、自分で作品を選び論述する最終レポートを提出します。その結果を、評価の20%とします。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜授業内で紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜1限
場所： 研究室（西館5階）
備考・注意事項： メールアドレス： asahata@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかるとする自らの時間
第1回	<p>オリエンテーション、世界が目にする日本文学・文化とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の進め方や評価方法について確認します。 ・ 世界が目にする日本文学、文化とはなにかをグループで話し合います。 ・ 村上春樹のエルサレムでの授賞式スピーチを読み、その意図を話し合います。 ・ 研究倫理教育も実施します。 	<p>第1回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。次の授業で扱う作家や作品について調べておきます。</p> <p>2時間</p>
第2回	<p>世界的作家、村上春樹『ノルウェイの森』原作・英訳の比較</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界的作家となった村上春樹についての予備知識を身につけるため、ネットで情報を集めます。 ・ 代表作『ノルウェイの森』を読解し、英訳との比較をして、相違を分析します。 ・ 映像化された作品と原文、そして英訳を比較して、表現方法の相違を分析します。 	<p>第2回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。第2回で学んだことに基づいて、自分の分析を論述できるようにまとめておきます。</p> <p>2時間</p>
第3回	<p>【課題①】村上春樹『ノルウェイの森』について論述する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 論文における作品の一部を引用をする方法について学びます。 ・ 論文における引用のルールを守って、村上春樹の『ノルウェイの森』について、原文・英訳・映像化作品の相違を論述します。 	<p>第3回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。次の授業で扱う作家や作品について調べておきます。</p> <p>2時間</p>
第4回	<p>鈴木光司『リング』原作・英訳の比較、ジャパニーズホラーというジャンル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ハリウッドでも映像化された『リング』という作品を書いた鈴木光司についての予備知識を身につけるため、ネットで情報を集めます。 ・ 代表作『リング』を読解し、英訳との比較をして、相違を分析します。 ・ 映像化された作品と原文、そして英訳を比較して、ジャパニーズホラーの表現方法を分析します。 	<p>第4回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。第4回で学んだことに基づいて、自分の分析を論述できるようにまとめておきます。</p> <p>2時間</p>
第5回	<p>【課題②】鈴木光司『リング』について論述する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 論文における作品の一部を3行以上にわたって引用をする方法について学びます。 ・ 論文における引用のルールを守って、鈴木光司の『リング』について、原文・英訳・映像化作品の相違を論述します。 	<p>第5回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。次の授業で扱う作家や作品について調べておきます。</p> <p>2時間</p>
第6回	<p>金原ひとみ『蛇にピアス』原作・英訳の比較、日本の女子高生の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 芥川賞を10代で受賞した『蛇にピアス』という作品を書いた金原ひとみについての予備知識を身につけるため、ネットで情報を集めます。 ・ 芥川賞受賞作品『蛇にピアス』を読解し、英訳との比較をして、相違を分析します。 ・ 映像化された作品と原文、そして英訳を比較して、女子高生としての視点の描かれ方を分析します。 	<p>第6回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。第6回で学んだことに基づいて、自分の分析を論述できるようにまとめておきます。</p> <p>2時間</p>
第7回	<p>【課題③】金原ひとみ『蛇にピアス』について論述する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 論文における典拠を示す方法について学びます。 ・ 論文における引用文献を挙げるルールを守って、金原ひとみの『蛇にピアス』について、原文・英訳・映像化作品の相違を論述します。 	<p>第7回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。次の授業で扱う作家や作品について調べておきます。</p> <p>2時間</p>
第8回	<p>角田光代『対岸の彼女』原作・英訳の比較、女性作家の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 直木三十五賞を受賞した『対岸の彼女』という作品を書いた角田光代についての予備知識を身につけるため、ネットで情報を集めます。 ・ 直木三十五賞受賞作品『対岸の彼女』を読解し、英訳との比較をして、相違を分析します。 ・ 映像化された作品と原文、そして英訳を比較して、日本社会における女性としての視点の描かれ方を分析します。 	<p>第8回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。第8回で学んだことに基づいて、自分の分析を論述できるようにまとめておきます。</p> <p>2時間</p>
第9回	<p>【課題④】角田光代『対岸の彼女』について論述する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 論文における他の批評家の意見を引用して論を展開する方法について学びます。 ・ 論文における先行研究の扱い方によって、角田光代の『対岸の彼女』について、原文・英訳・映像化作品の相違を論述します。 	<p>第9回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。次の授業で扱う作家や作品について調べておきます。</p> <p>2時間</p>

第10回	<p>夏目漱石『坊っちゃん』『吾輩は猫である』原作・英訳の比較、近代文豪の文体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の近代文豪を代表する夏目漱石についての予備知識を身につけるため、ネットで情報を集めます。 ・代表作『坊っちゃん』『吾輩は猫である』を読解し、英訳との比較をして、相違を分析します。 ・原文と英訳を比較して、古い日本語がどのように英語に翻訳されているかを分析します。 	<p>第10回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。第10回で学んだことに基づいて、自分の分析を論述できるようにまとめておきます。</p>	2時間
第11回	<p>【課題⑥】夏目漱石『坊っちゃん』『吾輩は猫である』について論述する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論文における他の批評家の意見を2人以上引用して論を展開する方法について学びます。 ・論文における先行研究の扱い方に倣って、夏目漱石の作品について、原文・英訳の相違を論述します。 	<p>第11回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。次の授業で扱う作家や作品について調べておきます。</p>	2時間
第12回	<p>中野独人『電車男』原作・英訳の比較、2ちゃんねるという現象</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映画にもTVドラマにも映像化された『電車男』という作品を書いた中野独人についての予備知識を身につけるため、ネットで情報を集めます。 ・話題作『電車男』を読解し、英訳との比較をして、相違を分析します。 ・映像化された作品と原文、そして英訳を比較して、2ちゃんねるという現象の描かれ方を分析します。 	<p>第12回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。第12回で学んだことに基づいて、自分の分析を論述できるようにまとめておきます。</p>	2時間
第13回	<p>【課題⑥】中野独人『電車男』について論述する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論文における他の批評家の意見を援用して論を展開する方法について学びます。 ・論文における先行研究の扱い方に倣って、中野独人の作品について、原文・英訳・映像化作品の相違を論述します。 	<p>第13回で学習した内容を整理し、ノートにまとめて小テストに備えます。自分のプレゼンテーションで扱う作家や作品について調べておきます。</p>	2時間
第14回	<p>【小括】これまでの学習内容の振り返り、プレゼンテーションの準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習内容を振り返り、小括します。 ・プレゼンテーションの作法を学びます。 ・プレゼンテーションのスライドを作成します。 	<p>これまで学習した内容を整理し、ノートにまとめます。プレゼンテーションの準備をします。</p>	2時間
第15回	<p>【プレゼンテーション】日本文化を世界に発信する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本文化を世界に発信するというテーマでプレゼンテーションを行います。 ・クラスからフィードバックをもらい、反省点を見つけます。 	<p>プレゼンテーションについてのフィードバックをもらい、自己評価を行い、反省点を改善します。</p>	2時間

授業科目名	卒業研究				
担当教員名	佐伯暁子・浅野法子				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、地域研究の視点から文化研究を試みます。前半には、大阪の今を知る一環として、黒門市場でのフィールドワークを実施します。その後、大阪の歴史や風土、自然、文化、文学文芸等をキーワードに、個人で課題を探して調査を進めます。日本文化の探求を深め、異文化の視点から欧米文化と比較した日本文化を「発見」することを試みます。演習形式で授業を進め、グループの課題と個人の課題を見つけて発表に取り組みます。最終課題は、調査結果を卒業研究として文章にまとめます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

大阪を事例とした文化研究。

目標：

周辺文化を客観的に分析できる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP7. 完遂

文学作品や周辺文化をクリティカルに分析できる。

自ら課題を発見し、情報収集・分析し、発表することができる。

学外連携学修

有り（連携先：黒門市場でのフィールドワーク）

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・見学、フィールドワーク
- ・課題解決学習（PBL）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

プレゼンテーション

30% : 内容の妥当性と論理的構成について、全学ルーブリックに基づいて評価します。

試験（論文）

30% : 内容の妥当性と論理的構成について、全学ルーブリックに基づいて評価します。

提出物（メモ）

30% : 毎回の授業で振り返りメモの提出を課します。授業内容を理解し、自分で考えられていれば、2ポイント。

受講態度

10% : 授業に積極的に参加し、課題に取り組む態度を評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

創元社編集部（編）『大阪の教科書—大阪検定公式テキスト—』（創元社、2018年）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。黒門市場フィールドワークの際には、交通費が必要。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 佐伯：月曜3限（13:00-14:30）、浅野：水曜3限

場所： 研究室（西館5階）

備考・注意事項： その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：saiki@osaka-seikei.ac.jp）。Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	授業ガイダンス—授業の進め方、課題、評価について— 大阪の歴史について学びます。 ・大阪の食文化について 文献を読み、気づいたことや感じたことをワークシートにまとめる。	振り返りシートの作成。大阪の歴史について調べる。 1時間
第2回	生まれ育った地域と大阪 生まれ育った地域と大阪の歴史や文化について調べ、それらの相違点について考えます。 ・大阪の看板・笑いについて 文献を読み、気づいたことや感じたことをワークシートにまとめる。	振り返りシートの作成。今回の課題プリントを通読する。 1時間
第3回	商業都市としての大阪 資料収集と課題の確認をします。 ・大阪の産業・企業 文献を読み、気づいたことや感じたことをワークシートにまとめる。	振り返りシートの作成。資料を収集する。 1時間
第4回	フィールドワークに向けての準備①文献調査 ・大阪のスーパーと商店街 文献を読み、気づいたことや感じたことをワークシートにまとめる。	振り返りシートの作成。資料を収集する。 1時間
第5回	フィールドワークに向けての準備②課題設定 ・黒門市場の歴史：事前調査と課題探し 文献を読み、気づいたことや感じたことをワークシートにまとめる。	振り返りシートの作成。資料を収集する。 1時間
第6回	フィールドワーク：黒門市場での体験学習 ・黒門市場フィールドワーク 聞き取り調査をし、気づいたことや感じたことをワークシートにまとめる。	振り返りシートの作成。調査したことをまとめる。 1時間
第7回	まとめ：発表準備 ・前回までに取り上げられた大阪の文化について、グループで話し合い、課題をみつけてまとめます。 ・発表方法について学び、発表テーマを探しましょう。	振り返りシートの作成。発表テーマを選定する。 1時間
第8回	中間発表 ・前回までに取り上げられた大阪の歴史について、知識を深めます。 ・他グループの発表を聞き、それぞれの良かった部分について話し合いましょう。	振り返りシートの作成。 1時間
第9回	論文の書き方を学ぶ①三部構成について ・序論、本論、結論といった三部構成を学びます。	振り返りシートの作成。三部構成の復習をする。 1時間
第10回	論文の書き方を学ぶ②引用について ・引用文献の処理について学びます。 書籍、雑誌、インターネットの情報の処理方法 短文のばあいと長文のばあい リストの作成方法	振り返りシートの作成。引用方法について復習する。 1時間
第11回	論文の書き方を学ぶ③参考文献の書き方について ・参考文献の処理について学びます。 リストの作成方法	振り返りシートの作成。参考文献の処理について復習する。 1時間
第12回	卒業研究①テーマを決める ・論文のテーマを決めて、発表し、意見交換をします。	振り返りシートの作成。卒業研究を進める。 1時間
第13回	卒業研究②論文の構成を決める ・論文の構成を決めて、発表し、意見交換をします。	振り返りシートの作成。卒業研究を進める。 1時間
第14回	卒業研究③執筆を進める ・これまでの意見交換を反映させて、卒業研究を完成させます。	振り返りシートの作成。卒業研究を進める。 1時間
第15回	発表およびまとめ ・卒業研究に関して発表者が話題提供者となり、それぞれ意見交換を行います。	振り返りシートの作成。これまでのまとめをしておく。 1時間

722

授業科目名	舞台表現演習				
担当教員名	美月亜優				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	宝塚音楽学校卒業後、宝塚歌劇団入団数々の舞台に出演。様々な役柄を演じると共に、歌、ダンス、日舞取得。退団後、舞台、映画、TV、ラジオでの出演。ダンスインストラクターとして講師も務める。日舞は花柳君乃安の名取取得。(全15回)				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

日常において、自分がどう見られているのか、そして、自分はどう見せたいのかを一度立ち止まって考え、客観視をする。もう一人の自分が、自分自身を見つめ、自分の行動、言動にきちんと責任をもって進んで行く。あらゆる角度から、色々なもの、自分自身を見ることが出来る。視野がどんどん広がり、色々なものが見え、色々な感情が湧いてきて、言葉で伝えたくなくなります。舞台パフォーマンスで培った基本をベースに、お芝居を通し、感性豊かで、心の広い人間性へと成長出来るお手伝いが出来ればと考えております。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

歌、ダンス、芝居

目標：

五感の向上と、自覚を持ち進むことができる。

五感の向上と自覚。

汎用的な力

- 1 . DP6. 行動・実践
- 2 . DP9. 役割理解・連携行動

自分自身のキャラクターについて考えることができる。

相手を思いやりながら、芝居をすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

授業内課題	50%	: 毎回の課題をどれだけ理解し、演じようとしているか。
授業態度	30%	: 挨拶、マナー等守られているか。他の人の実演もマナー良く見学しているか。積極的に参加しているか。
試験（発表）	20%	: どれだけ読解力をもって挑んでいるか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
 場所： 授業の教室
 備考・注意事項： 授業の前後に質問に応じます。

授業計画		授業外学修課題にかかる目安の時間	
第1回	発声、歌稽古、大芝居：キャラクターについて考える。 時代考証、キャラクターについて考える。	それぞれのキャラクターに合った台詞回しの反復練習をする。	4時間
第2回	発声、歌稽古、大芝居：大きく演じる 衣装や大舞台で演じることを想定したり、観客に伝わる演じ方について考える。	台詞回しの反復練習をし、体に叩き込む。	4時間
第3回	発声、歌稽古、大芝居：見せ方 大舞台で伝える演じ方について考える。キャラクターを大きく演じる。	台詞回しの反復練習をし、楽しむ。	4時間
第4回	発声、歌稽古、ダンス：リズムを感じる 体全体を使ってダンスをする。リズムを感じる。	振りの反復練習をする。	4時間
第5回	発声、歌稽古、ダンス：身体で覚える 振りを体で覚え、音楽を感じながら踊る。	振りの反復練習をし、感情も同時に作り上げていく。	4時間
第6回	発声、歌稽古、ダンス：感情をのせて踊ることを考える 音楽にのせて、感情表現しながら踊る。	心も体も開放し、振りの中に感情移入しながら踊りこむ。次の課題に目を通す。	4時間
第7回	発声、歌稽古、大芝居：キャラクターの立ち振る舞いについて考える 大芝居の型について学ぶ。舞台考証や、それぞれのキャラクターの所作、立ち振る舞いについて考える。	所作と台詞回しの反復練習をする。感情移入する。	4時間
第8回	発声、歌稽古、大芝居：所作を大きく振る舞うことを学ぶ 歩き方、挨拶の仕方等、所作を大きく優雅に振る舞うことに、少しずつ慣れる。動作も台詞も大きく演じる。	所作と台詞回しの反復練習をする。観客側のことも考えながら作りこむ。	4時間
第9回	発声、歌稽古、大芝居：大胆に演じることを学ぶ 様々な役を演じ分ける。思い切り演じる。役に成り切って唄う。	所作と台詞回しの反復練習をする。感情、動作も一体化させ作りこむ。	4時間
第10回	発声、歌稽古、大芝居：表現について考える 大きく芝居をする。表現を大きくし、動作も大きくし、流れるように、歌うように、優雅に演じ切る。	演じる相手のことも考え演じる。次の課題に目を通す。	4時間
第11回	発声、歌稽古、コミカル芝居：キャラクターについて考える 様々なキャラクターについて考える、演じる。	登場人物のキャラクターを作り上げる。台詞の反復練習をする。	4時間
第12回	発声、歌稽古、コミカル芝居：印象深くなる演技について考える 様々なキャラクターを色濃く演じ、印象を残せるように考える。	相手の反応を考え作りこむ。台詞の反復練習をする。	4時間
第13回	発声、歌稽古、コミカル芝居：スムーズに演じる 相手とのやり取りが、スムーズにいくように、テンポ良く演じる。思い切り演じる。	観ている人の反応も考えて作りこむ。次の課題に目を通す。	4時間
第14回	発声、古典芝居 古典芝居を演じる。	所作事も考え、時代考証も考えて大きく伸びやかに演じる。次の課題に目を通し読み込む。	4時間
第15回	まとめ：舞台表現、感情表現、キャラクター表現について考える セリフの課題を感情、キャラクターを考え演じ切る。心と体と感情を一体化して演じる。	授業内容を振り返る。これからの社会生活においても、思い切りが良く、心豊かで、素敵で優しく、みんなに愛される人生を、歩んでいって欲しいです。	4時間

722

授業科目名	キャリアディベロップメント				
担当教員名	中野 澄				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義と演習を織り交ぜながら授業を行う。				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

開講時期は短期大学2年生にとって就職活動の真っ最中にあたる。したがって、働くことの意味、キャリアのプランニング（計画）について、「キャリアデザイン」で学んだ内容を踏まえ、改めて確認するとともに、就職に必要なコミュニケーション力の向上や様々な就活技法の習得を目指す。そして、希望する職業人になることを目標とする。授業構成は、①基本課題、②テーマ課題（講義と個人またはグループワーク）、③自学による事後課題で構成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1．DP1.幅広い教養やスキル	社会人として必要な人間力、知識・展開力を身につける。	情報収集、言語能力、構成能力、共働力を身につける。
汎用的な力		
1．DP4.課題発見		収集した資料から将来のキャリアに関する課題や志望する業界の課題を発見できる。
2．DP5.計画・立案力		収集した資料から、新しいプランにも積極的に取り組むことができる。
3．DP9.役割理解・連携行動		集団やチームの中で自分の役割を理解し協働できる。
4．DP7.完遂		自分の担当カ所について指定の課題に従って資料を完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
毎回の課題	： 全15回課題を課します。各回2点満点。
30%	
「志望動機」シート	： 独自の意見を提示できているかどうかという観点から評価する。
20%	
課題提出（振り返りシート・小レポート）	： 授業内容と就職活動の関連、及び今後のキャリア開発との関連が提示できているかどうかという観点から評価する。
20%	
試験（レポート）	： 指定の形式に沿って、自己と社会の関係について独自の意見を提示できているかどうかという観点から評価する。
30%	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学・就職部	『就職ガイドブック』	・	・ 年

参考文献等

株式会社ワークアカデミー『書きこみ式「なりたい自分」を目指すシューカツワークブック』2013年、noa出版

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：saiki@osaka-seikei.ac.jp）。Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画		授業外学修課題にかかかる目安の時間
第1回	ガイダンスー働くとはー 本授業の概要及び進め方について学ぶ。 また、働くことの意味、人生設計の重要性について学ぶ。	筆記試験対策問題に取り組む。 4時間
第2回	ビジネスマナー 1回生の復習も含めて、電話応対（アポイントの取り方）や訪問マナー、会社訪問時の言葉遣いについて学ぶ。	筆記試験対策問題に取り組む。 4時間
第3回	面接演習1ー面接準備ー 面接シーンで起こりうる状況への対応や想定質問についての準備を行う。	筆記試験対策問題に取り組む。教科書p90, 91の「53の質問」の回答を考える。 4時間
第4回	面接演習2ー模擬面接ー 模擬面接（個人）を行う。 「志望動機」「就職先で実現したいこと」を考える。	筆記試験対策問題に取り組む。「志望動機」シートを作成する。 4時間
第5回	時事社会 1ー経済と産業ー 経済の基礎と産業の変遷について学ぶ。	筆記試験対策問題に取り組む。 4時間
第6回	時事社会 2ー日本と国際社会ー 日本と国際社会について学ぶ。	筆記試験対策問題に取り組む。 4時間
第7回	時事社会 3ー環境と科学ー 環境、科学、市民生活などについて学ぶ。	筆記試験対策問題に取り組む。 4時間
第8回	情報収集とメディアの活用 新聞記事を読んで、正確に情報を収集し分析する練習を行う。 記事についての自分の意見を述べる。	筆記試験対策問題に取り組む。記事についてのレポートを作成する。 4時間
第9回	共働を学ぶ コミュニケーションゲームを取り入れ、情報収集、伝達、他者への配慮を学ぶ。	筆記試験対策問題に取り組む。振り返りシートを作成する。 4時間
第10回	働き方を考える 労働環境の変化について学ぶ。 「正規雇用と非正規雇用」についてグループディスカッションを行う。	筆記試験対策問題に取り組む。 4時間
第11回	労働者の義務と権利を学ぶ 労働に関わる法律や税金、社会保障制度について学ぶ。 給与明細の読み方など身近な問題にも触れる。	筆記試験対策問題に取り組む。 4時間
第12回	報告・連絡・相談について学ぶ 電話メモのフォーマットを作成し、ハウレンソウに必要な基本的なポイントを学ぶ。	筆記試験対策問題に取り組む。電話メモのフォーマットを作成する。 4時間
第13回	ビジネス文書 ビジネス文書（社外文書や社内文書）を書くための基本的なポイントを学ぶ。	筆記試験対策問題に取り組む。 4時間
第14回	統計・データの読み方 会社で使われる数値の読み方を学ぶ。	筆記試験対策問題に取り組む。 4時間
第15回	まとめと振り返り 本授業及び実際の就職活動を振り返って、学んだこと、気づいたことを振り返る。	筆記試験対策問題に取り組む。レポートを完成させる。 4時間

授業科目名	オーディオドラマ演習				
担当教員名	葛城七穂				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	宝塚歌劇団出身。 その後、声優として映画・海外ドラマ・アニメ・ナレーション等の出演。 併せて女優として舞台公演の企画制作・振付・出演を行う。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

オーディオドラマを実際に作成する過程の中で、声に特化した表現力を身につけます。
作品の向こう側にいる聞き手を意識し、聞き手を楽しませる作品作りを目指します。その為には自分達も楽しんで取り組む事も必要です。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解	オーディオドラマ作成	作品を創る為に必要な、適切な表現方法を選択できる。
汎用的な力		他者へ向けての表現力がより豊かになる。
1 . DP6. 行動・実践		

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題の実演	40%	： 課題に対し、どれだけ積極的に取り組んでいるか。課題への理解度、表現力で評価します。
授業態度	30%	： 授業に対し、どれだけ真摯な態度で取り組んでいるか。挨拶・遅刻・忘れ物・受講態度等、マナーも含め評価します。
試験(実技)	30%	： 授業で学んだ事をどれだけ理解し、身につけているか評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	授業の教室

授業計画

第1回

オリエンテーション<マイク前のパフォーマンスとは>

滑舌、発声をきちんと練習する。

授業外学修課題にか
かる目安の時間

4時間

	授業の進め方の説明。 滑舌、発声の練習。 マイク前での注意点。		
第2回	小作品 本読み 本読みにより、作品の全体像を把握する。	テキストを読み込む。	4時間
第3回	小作品 感情 キャラクターの感情を分析、喜怒哀楽を豊かに表現する。	一文の中にも様々な感情が織り交ざる。細かく分析し、オリジナルな表現を見つける。	4時間
第4回	小作品 体感 最終的に音声のみで表現するものではあるが、実際身体を動かしながら演じて体感してみる。	身体ごと演じてみるにより、より表現の幅の可能性が膨らむことを実感する。	4時間
第5回	小作品 収録 小作品を実際に収録してみる。	収録にあたり、自分の可能性を最大限引き出す努力をする。	4時間
第6回	小作品 鑑賞 収録した小作品を鑑賞。 客観的に自分の声、演技を判断する。	客観的に受け止めた自身の声、演技を、更にごう伸ばすべきか考察する。	4時間
第7回	脚本 本読み 作品の世界観をしっかりと捉える。	作品を読み込む。	4時間
第8回	脚本 感情 分析した感情を的確に表現する方法を探る。	表現の可能性は無限にあり、その為の細かい分析をしていく。	4時間
第9回	脚本 背景 作品の背景を考察する。 作品を俯瞰で観る目を養う。	近づいた視点から、引いた視点への変換。新たな視点を見つけてみる。	4時間
第10回	脚本 キャラクター 作品内でのキャラクターの色付けをはっきりさせる。	キャラクター表現の可能性を探る。敢えてオーバーな表現にも挑戦する。	4時間
第11回	脚本 距離感 物理的な距離感の表現、そして作品の世界観を表す声のトーンを探る。	声のボリューム、声色に意識を向ける。	4時間
第12回	脚本 共有 作品は一人で創るのではなく、その作品に関わる仲間と一緒に創りあげる。 その仲間と空気感を共有し、更に大きな表現となるものを目指す。	一緒に作る仲間とどれだけ想いを共有できるか。共同作業に取り組む。	4時間
第13回	脚本 1回目収録(前半グループ) ここまでしてきた作品作りをマイクにのせ、収録に挑む。	収録に向けて、更にパフォーマンスを向上させる努力をする。	4時間
第14回	脚本 2回目収録(後半グループ) ここまでしてきた作品作りをマイクにのせ、収録に挑む。	収録に向けて、更にパフォーマンスを向上させる努力をする。	4時間
第15回	まとめ 収録した作品を鑑賞する。 客観的に自己を分析し、己の魅力や、必要なものを見つけていく。	己を知る事の大切さに気付こう。自分にきちんと興味を持ち、自分の周りの様々なものにも興味を持とう。	4時間

授業科目名	文学作品講読				
担当教員名	白瀬浩司				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

慌ただしい現代社会を生きる私たちが、大人として童話やファンタジーを読むことの効用とは、いったい何でしょうか。本講座では、みんなで議論しながら（新美南吉）の作品世界を読み解いていきます。新美南吉作品に、小学校の国語科教材として出会った人もいでしょう。忙しい日々を過ごす私たちが、いつしか、どこかに置き忘れてきたものに会えるかも知れません。さらに、物語構造や物語の仕掛けを捉えながら、作品分析に取り組んでいくことになります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

新美南吉作品を読み味わうこと、童話について理解すること、想像力を豊かにすること。

目標：

非現実的・幻想的な物語世界を理解し、楽しむことができる。

汎用的な力

- 1 . DP10. 忠恕の心

童話の中に描かれた人の優しさや温かさ、怖れや残酷さなど、人としての原初的な心情について捉え返すことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

童話本文音読	5%	: 講義時に担当した童話本文音読について、5段階で評価します。評価基準については、講義時に提示。
振り返りシート	30%	: 各回に提出する振り返りシートの記述から、よく理解できている=2点、概ね理解できている=1点とします。
討論・報告	10%	: 討議への参加態度、各自の報告内容によって、3段階で評価します。評価基準については、講義時に提示。
授業時小レポート	40%	: 読解を終えた作品に関する理解度と記述内容により評価します。なお、基本的な文章スキルにかかわる減点項目については、講義時に提示。
最終課題（期末レポート）	15%	: 与えられた論題に関する理解度と記述内容により評価します。なお、基本的な文章スキルにかかわる減点項目については、講義時に提示。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
新美南吉著、北川幸比古・鬼塚りつ子編集	『新美南吉童話集一心に残るロングセラー名作10話』	・世界文化社	・2004年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜・第3限
場所： 西館4階 91研究室

授業計画

		授業外学修課題にか かかる目安の時間	
第1回	<p>新美南吉の世界—作家の伝記的事実を踏まえつつ—</p> <p>〈童話〉とは何か、新美南吉の作品世界が有する特徴について彼の伝記的事実と照らしながら踏まえるとともに、本講座における基本的な視座の共有、授業展開の仕方について確認を行います。</p> <p>また、第5回から、個人あるいはグループによる報告を経て全員で討議していく授業形式となるため、報告準備（資料・構造図の作り方、読解の方法など）や報告の仕方について確認するとともに、それぞれの担当作品を決めます。</p>	次時の読解に備え、『ごんぎつね』を通読する。	4時間
第2回	<p>みんなで読み解く『ごんぎつね』の作品世界（1）—作品の構造を捉える—</p> <p>誰もが小学校4年生のとき出会った本作品を読み返し、まずは新美南吉作品を実際に読み味わってみます。</p> <p>※本文朗読演習</p>	『ごんぎつね』を読み返し、本時の学修事項を復習し、次時に備える。	4時間
第3回	<p>みんなで読み解く『ごんぎつね』の作品世界（2）—先行研究への反論を試みる—</p> <p>本作品の結末から〈ごん〉の哀しみを感じ取った人は多いと思いますが、〈ごん〉の形象を否定的に捉える読み方もあります。ごんを否定する言説への反論をみんなで試みていきます。</p> <p>※本文朗読演習</p>	次時の読解に備え、『手ぶくろを買いに』を通読する。	4時間
第4回	<p>『手ぶくろを買いに』を読み解く—報告サンプルとして—</p> <p>報告の事例として『手ぶくろを買いに』を読み解きます。レジュームの書き方や報告の仕方を本作品によって改めて具体的に確認します。</p> <p>※本文朗読演習</p>	次時の読解に備え、『牛をつないだつばきの木』を通読する。	4時間
第5回	<p>みんなで読み解く『牛をつないだつばきの木』の作品世界（1）報告・討議篇</p> <p>報告を経て、全員で『牛をつないだつばきの木』の問題点・疑問点、さらに構造や主題について討議していきます。</p> <p>※本文朗読演習</p>	次時の小レポート作成に備え、『牛をつないだつばきの木』を読み返し、本時の学修事項を復習する。	4時間
第6回	<p>みんなで読み解く『牛をつないだつばきの木』の作品世界（2）解決篇</p> <p>前回の報告および討議を踏まえ、本作品の構造や主題について小レポートにまとめます。</p> <p>※小レポート作成・提出</p>	次時の読解に備え、『花のき村とぬすびとたち』を通読する。	4時間
第7回	<p>みんなで読み解く『花のき村とぬすびとたち』の作品世界（1）報告・討議篇</p> <p>報告を経て、全員で『花のき村とぬすびとたち』の問題点・疑問点、さらに構造や主題について討議していきます。</p> <p>※本文朗読演習</p>	次時の小レポート作成に備え、『花のき村とぬすびとたち』を読み返し、本時の学修事項を復習する。	4時間
第8回	<p>みんなで読み解く『花のき村とぬすびとたち』の作品世界（2）解決篇</p> <p>前回の報告および討議を踏まえ、本作品の構造や主題について小レポートにまとめます。</p> <p>※小レポート作成・提出</p>	次時の読解に備え、『おじいさんのランプ』を通読する。	4時間
第9回	<p>みんなで読み解く『おじいさんのランプ』の作品世界（1）報告・討議篇</p> <p>報告を経て、全員で『おじいさんのランプ』の問題点・疑問点、さらに構造や主題について討議していきます。</p> <p>※本文朗読演習</p>	次時の小レポート作成に備え、『おじいさんのランプ』を読み返し、本時の学修事項を復習する。	4時間
第10回	<p>みんなで読み解く『おじいさんのランプ』の作品世界（2）解決篇</p> <p>前回の報告および討議を踏まえ、本作品の構造や主題について小レポートにまとめます。</p> <p>※小レポート作成・提出</p>	次時の読解に備え、『がちょうのたんじょう日』を通読する。	4時間
第11回	<p>みんなで読み解く『がちょうのたんじょう日』の作品世界（1）報告・討議篇</p> <p>報告を経て、全員で『がちょうのたんじょう日』の問題点・疑問点、さらに構造や主題について討議していきます。</p> <p>※本文朗読演習</p>	次時の小レポート作成に備え、『がちょうのたんじょう日』を読み返し、本時の学修事項を復習する。	4時間

第12回	<p>みんなで読み解く『がちょうのたんじょう日』の作品世界(2) 解決篇 前回の報告および討議を踏まえ、本作品の構造や主題について小レポートにまとめます。</p> <p>※小レポート作成・提出</p>	<p>次時の読解に備え、『でんでんむしの悲しみ』を通読する。</p>	4時間
第13回	<p>みんなで読み解く『でんでんむしの悲しみ』の作品世界(1) 報告・討議篇</p> <p>報告を経て、全員で『でんでんむしの悲しみ』の問題点・疑問点、さらに構造や主題について討議していきます。</p> <p>※本文朗読演習</p>	<p>次時の小レポート作成に備え、『でんでんむしの悲しみ』を読み返し、本時の学修事項を復習する。</p>	4時間
第14回	<p>みんなで読み解く『でんでんむしの悲しみ』の作品世界(2) 解決篇 前回の報告および討議を踏まえ、本作品の構造や主題について小レポートにまとめます。</p> <p>※小レポート作成・提出</p>	<p>これまで取り上げた作品を読み返し、本講座の学修事項を復習する。</p>	4時間
第15回	<p>私たちの日々の生活と、大人として童話を読むことの効用</p> <p>学修を終えるにあたり、大人にとって〈童話〉とは何か、新美南吉の作品世界が有する特徴は何であったか、改めて整理するとともに、私たちの生活において(ともすれば単なる絵空事に過ぎぬ)童話が担うものなど、全員で討議します。</p> <p>また、後日提出する最終課題(期末レポート)には、上記内容を記述するほか、使用テキストの未読作品である『二ひきのかえる』『去年の木』『一年生たちとひよめ』の中から1作品を選んで論じることになります。</p>	<p>最終課題(期末レポート)の執筆準備のため、上記3作品に目を通す。課題内容・分量・書式については講義時に指示する。</p>	4時間

授業科目名	Communications 3				
担当教員名	麻島徳子				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

グローバル社会で求められる英語力とは、非英語母語話者同士が英語を国際共通語としてコミュニケーションすることを想定し、文化的差異によって誤解が生まれても対応できるコミュニケーション・スキルを指しています。本科目では、そうした英語力を念頭に置き、継続的な英文読解演習を行いながら、異文化を理解するために必要な知識の習得を目的とします。また、大学の地域性をふまえ、大阪文化を世界に発信するにはどんな方法がありうるかという観点から、ディスカッションを進めていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

具体的内容：

異文化理解に関する知識、地域の文化を世界に発信する英語力

目標：

異文化理解に関する知識を英語で読解し、地域の文化を英語で紹介することができる。

ペアワーク、グループワークをつうじて、意見交換し、考えをまとめ、発表することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「S」とします。

成績評価の方法・評価の割合

毎回の小テスト

20%

Review Quiz

30%

スピーチ

20%

定期試験

30%

評価の基準

： 毎回、授業の初めに既習単元の単語テストや読解、聴解、ディクテーションを含めたテストを実施します。20点満点の小テストの平均を評価の20%とします。

： 二回のReview Quizを、第7回・第14回に実施します。既習範囲を対象として、それまでの振り返りと知識の定着を確認するQuizを行います。Review Quizの平均を評価の30%とします。

： スピーチについて、講義内容の理解と考察の独自性をもとに5段階評価で採点します。20点満点とし、評価の20%とします。

： 試験期間中に、既習範囲に基づいた定期試験を実施して、その結果を評価の30%とします。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜授業内で資料を配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜1限
 場所： 研究室（西館5階）
 備考・注意事項： メールアドレス： asahata@osaka-seikei.ac.jp

授業計画		授業外学修課題にか かかる目安の時間
第1回	オリエンテーション、異文化コミュニケーションはなにか ・授業の進め方、評価方法について確認します。 ・異文化コミュニケーションとはなにかについて学びます。 ・大阪文化の特徴について、各グループで話し合い、発表します。	Unit 1 で学習した単語・表現を復習し、第2回から始まる小テストに備えます。Unit 2 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。
第2回	文化とはなにか ・文化とはなにかについて学びます。 ・文化とコミュニケーションの関係について、各グループで話し合い、発表します。	Unit 2で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 3に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。
第3回	非言語的コミュニケーションとはなにか ・非言語コミュニケーションとはなにかについて学びます。 ・日本語における非言語の表現の特徴について、各グループで話し合い、発表します。	Unit 2で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 3に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。
第4回	明確に話すとはなにか ・コミュニケーションの取り方における文化的相違とは何かを学びます。 ・大阪文化における言語コミュニケーションの特徴はなにかについて、各グループで話し合い、発表します。	Unit4で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 5に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。
第5回	文化と価値観とは何か ・文化と価値観の関係とは何かを学びます。 ・大阪文化における固有の価値観はなにかについて、各グループで話し合い、発表します。	Unit 5で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 6に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。
第6回	知覚能力と大阪の色彩感覚 ・文化における知覚能力とは何かを学びます。 ・大阪の色彩感覚の文化的特徴を、各グループで話し合い、発表します。	Unit 1～6 で学習した単語・表現を復習し、Review Quizに備えます。
第7回	【小括】これまでの学習内容の振り返り、文化と言語の関係を分析する ・Review Quizを通じて、これまでの学習内容を振り返り、理解度を測ります。 ・文化と言語の関係を分析し、例を挙げて論述する課題を実施します。	Unit 7に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。
第8回	多様性と大阪の文化的スタンス ・文化における多様性とは何かを学びます。 ・大阪の多様性に対する文化的スタンスを、各グループで話し合い、発表します。	Unit 7で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 8に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。
第9回	ステレオタイプと大阪の県民性 ・ステレオタイプとは何かを学びます。 ・大阪の県民性の特徴を、各グループで話し合い、発表します。	Unit 8で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 9に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。
第10回	カルチャーショックと大阪対東京の構図 ・カルチャーショックとは何かを学びます。 ・大阪対東京の構図が生まれる原因を、各グループで話し合い、発表します。	Unit 9で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 10に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。
第11回	文化の移り変わりとはなにか ・文化の変化とは何かを学びます。 ・大阪文化の今と昔の相違点を、各グループで話し合い、発表します。	Unit 10で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 11に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。
第12回	日本文化の発信、大阪文化の発信 ・日本文化を世界に発信するとはどういうことかを学びます。 ・大阪文化を世界に発信するとして何をやっているのかを、各グループで話し合い、発表します。	Unit 11 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 12 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。
第13回	グローバル人材と英語力 ・グローバル人材とは何かを学びます。 ・第1回～13回の授業内容をふまえて、グローバル社会における英語力とは何かを考察します。	Unit 7～12で学習した単語・表現を復習し、Review Quizに備えます。
第14回	【小括】これまでの学習内容の振り返り、大阪文化をグローバルな視点で分析する	次回のスピーチに備えて、原稿を作成し暗記しておきます。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ Review Quizを通じて、これまでの学習内容を振り返り、理解度を測ります。 ・ 大阪文化がグローバル社会におかれた状況を分析し、例を挙げて論述する課題を実施します。 		
第15回	<p>【総括】「大阪文化を英語で紹介する」スピーチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの授業内容を振り返ります。 ・ 「大阪文化を英語で紹介する」スピーチを、クラスの前で行います。 ・ 発表者以外は、スピーチ内容やプレゼンテーション能力を採点し、結果をフィードバックします。 	説得力のあったスピーチについて分析し、その結果を発表者にフィードバックします。	4時間

授業科目名	Communications 4				
担当教員名	工藤 律子				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	幼・小・中・高において、グラマー指導やコミュニケーションに必要な英語の指導を20年行ってきました。また、カリキュラム作成や12年間一貫教育の内容にも携わってきました。(全15回)				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

Communications 5 に引き続き、本科目では、ナショナルジオグラフィックのコンテンツやTED TALK のプレゼンテーションを題材として、実在する人々や場所で交わされる生きた英語に触れながら、日常英会話に必要な聴解力・表現力を伸ばすことを目的とします。各授業では、自然な速度の英語を多く聞き、英語特有のリズムやイントネーションを理解するように努めます。また、題材に用いられている基本語彙や表現、文法項目を学習し、それらを用いて自分の意見を表現できるように、スピーキング練習や英作文を実施します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

日常的な英会話能力、英語聴解能力、英文読解能力、英作文能力

目標：

身近な日常生活について、英語で理解し表現することができる。世界で起こっている様々な話題を学び、異文化理解を深めることができる。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

各授業内でのペアワーク、グループワークを通じて、英語で自分のことを説明し理解してもらうことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回の小テスト（単語・ディクテーション）	20%	： 毎回、授業の初めに既習単元の単語テストやディクテーションテストを実施します。20点満点の小テストの平均を評価の20%とします。
Review Quiz	30%	： 二回のReviewQuizを、第7回・第14回に実施します。指定教科書の既習範囲を対象として、それまでの振り返りと知識の定着を確認するテストを行います。
グループ発表	20%	： 授業内で用いた英語の語彙や表現を応用して、TED TALKを参考に、グループプレゼンテーションを実施します。第15回の授業日に行い、評価の20%とします。
期末レポート	30%	： 第15回の授業後に日英両方のレポートを行います。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Kristin L. Johannsen, Rebecca Tarver Chase	World English 3 Second Edition	Cengage Learning	2015年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前・授業後
場所： 研究室

授業計画

			授業外学修課題にかかると目安の時間
第1回	オリエンテーション、Unit 7 (前半) Getting Around ・授業の進め方や評価方法について確認します。 ・世界の地理、気候、主要産物に関する語彙や表現を学びます。 ・現在形と現在進行形、過去形の時制の違いを学びます。	Unit 7 で学習した単語・表現を復習し、第2回から始まる小テストに備えます。Unit 7 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第2回	Unit 7 (後半) The Rickshaws of Kolkata ・食文化についての英文を読解します。 ・自分の住んでいる地域の食について表現できるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。	Unit 7で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 8に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第3回	Unit 8 (前半) Competition ・世界の文化、コミュニケーション、ジェスチャーに関する語彙や表現を学びます。 ・現在完了形の時制を使った表現を学びます。	Unit 8で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 8 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第4回	Unit 8 (後半) In Sports, Red is the Winning Color ・世界の文化についての英文を読解します。 ・初めて会う人とスモールトークができるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。	Unit 8 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 9 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第5回	Unit 9 (前半) Danger ・世界の都市生活や地図の読み方に関する語彙や表現を学びます。 ・助動詞willと時を表す句を用いた表現を学びます。	Unit 9 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 9 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第6回	Unit 9 (後半) Three Things I Learned While My Plane Crashed ・都市生活と食についての英文を読解します。 ・自分の都市生活についての見解を伝えられるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。	Unit 7-9 で学習した単語・表現を復習し、Review Quizに備えます。	4時間
第7回	Unit 7-9 Review Quiz, TED TALK ・Unit7-9までの内容に基づいたReview Quizを実施します。 ・TED TALK のひとつを視聴し、内容についてクラスで議論します。	Unit10 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第8回	Unit 10 (前半) Mysteries ・人間の身体構造や病気に関する語彙や表現を学びます。 ・比較級や不定詞を用いた表現を学びます。	Unit 10で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 10 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第9回	Unit 10 (後半) Hands Across Time ・人間と微生物についての英文を読解します。 ・自分の病状を伝えられるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。	Unit 10で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 11 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第10回	Unit 11 (前半) Learning ・物理的、精神的な挑戦に関する語彙や表現を学びます。 ・過去形と過去進行形の違い、enoughを用いた表現を学びます。	Unit 11 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 12 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第11回	Unit 11 (後半) Five Dangerous Things (You Should Let Your Children Do) ・北極地のある挑戦についての英文を読解します。 ・自分のこれまでの挑戦について表現できるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。	Unit 11で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 12 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間

第12回	Unit 12 (前半) Space <ul style="list-style-type: none"> ・人生の段階に関する語彙や表現を学びます。 ・現在完了形、How + 形容詞を用いた表現を学びます。 	Unit 12 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 12 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。	4時間
第13回	Unit 12 (後半) The Hubble Space Telescope <ul style="list-style-type: none"> ・自分の限界に対する挑戦についての英文を読解します。 ・自分の人生の段階に起きた出来事について話すために、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。 	Unit 10-12 で学習した単語・表現を復習し、Review Quizに備えます。	4時間
第14回	Unit 10-12 Reviw Quiz、TED TALK <ul style="list-style-type: none"> ・Unit4-6までの内容に基づいたReview Quizを実施します。 ・TED TALK のひとつを視聴し、内容についてクラスで議論します。 	Unit 7-12 で学習した単語・表現を復習し、プレゼンテーションの準備をしておきます。	4時間
第15回	Unit 7-12 、プレゼンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・前期の授業内容を振り返ります。 ・これまでの学習内容から課題をひとつ選び、プレゼンテーションを行います。 	既習範囲を振り返り、小テストの間違いや提出課題の内容を添削して、知識の定着を図ります。	4時間

授業科目名	Communications 5				
担当教員名	工藤 律子				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	幼・小・中・高において、グラマー指導やコミュニケーションで必要とされる英語の指導を20年行ってきました。また、カリキュラム作成や12年間一貫教育の内容にも携わってきました。(全15回)				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では、パラグラフリーディングが必要な程度の長さを持った英文の読解、リスニングストラテジーが必要な程度の長さを持った英語の聴解、これらを主な題材として、多読多聴をつうじた英語の表現力の増強を目的とします。各授業では、題材に関連する語彙や表現、文法項目を学習した上で、ひとつのトピックに関する英語の読解・聴解の課題を多数実施します。また、アカデミックな話題について意見する際のフォーマルな英会話表現も身につけます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

日常的な英会話能力、英語聴解能力、英文読解能力、英作文能力

目標：

身近な日常生活について、英語で理解し表現することができる。世界で起こっている様々な話題を学び、異文化理解を深めることができる。

汎用的な力

- 1 . DP8. 意思疎通

各授業内でのペアワーク、グループワークを通じて、英語で自分のことを説明し理解してもらうことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回の小テスト（単語・ディクテーション）	20%	： 毎回、授業の初めに既習単元の単語テストやディクテーションテストを実施します。20点満点の小テストの平均を評価の20%とします。
Review Quiz	30%	： 二回のReviewQuizを、第7回・第14回に実施します。指定教科書の既習範囲を対象として、それまでの振り返りと知識の定着を確認するテストを行います
グループ発表	20%	： 授業内で用いた英語の語彙や表現を応用して、TED TALKを参考に、グループプレゼンテーションを実施します。第15回の授業日に行い、評価の20%とします。
期末レポート	30%	： 第15回の授業後に、日英両方のレポートを行います。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Kristin L. Johannsen, Rebecca Tarver Chase	World English 3 Second Edition	Cengage Learning	2015年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前・授業後

場所： 研究室

授業計画

授業計画		授業外学修課題にかかるとの目安の時間
第1回	オリエンテーション、Unit 1 (前半) People and Places <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方や評価方法について確認します。 ・世界の地理、気候、主要産物に関する語彙や表現を学びます。 ・現在形と現在進行形、過去形の時制の違いを学びます。 	Unit 1 で学習した単語・表現を復習し、第2回から始まる小テストに備えます。Unit 1 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。
第2回	Unit 1 (後半) Pioneers of the Pacific <ul style="list-style-type: none"> ・食文化についての英文を読解します。 ・自分の住んでいる地域の食について表現できるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。 	Unit 1 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 2 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。
第3回	Unit 2 (前半) The Mind <ul style="list-style-type: none"> ・世界の文化、コミュニケーション、ジェスチャーに関する語彙や表現を学びます。 ・現在完了形の時制を使った表現を学びます。 	Unit 2 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 2 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。
第4回	Unit 2 (後半) In Your Face <ul style="list-style-type: none"> ・世界の文化についての英文を読解します。 ・初めて会う人とスマールトークができるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。 	Unit 2 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 3 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。
第5回	Unit 3 (前半) Changing Planet <ul style="list-style-type: none"> ・世界の都市生活や地図の読み方に関する語彙や表現を学びます。 ・助動詞willと時を表す句を用いた表現を学びます。 	Unit 3 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 3 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。
第6回	Unit 3 (後半) Salvation (and Profit) in Greentech <ul style="list-style-type: none"> ・都市生活と食についての英文を読解します。 ・自分の都市生活についての見解を伝えられるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。 	Unit 1-3で学習した単語・表現を復習し、Review Quizに備えます。
第7回	Unit 1-3 Review Quiz, TED TALK <ul style="list-style-type: none"> ・Unit1-3までの内容に基づいたReview Quizを実施します。 ・TED TALK のひとつを視聴し、内容についてクラスで議論します。 	Unit 4 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。
第8回	Unit 4 (前半) Money vs. Wealth <ul style="list-style-type: none"> ・人間の身体構造や病気に関する語彙や表現を学びます。 ・比較級や不定詞を用いた表現を学びます。 	Unit 4 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 4 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。
第9回	Unit 4 (後半) Music is Medicine, Music is Sanity <ul style="list-style-type: none"> ・人間と微生物についての英文を読解します。 ・自分の病状を伝えられるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。 	Unit 4 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 5 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。
第10回	Unit 5 (前半) Survival <ul style="list-style-type: none"> ・物理的、精神的な挑戦に関する語彙や表現を学びます。 ・過去形と過去進行形の違い、enoughを用いた表現を学びます。 	Unit 5 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 5 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。
第11回	Unit 5 (後半) Survival School <ul style="list-style-type: none"> ・北極でのある挑戦についての英文を読解します。 ・自分のこれまでの挑戦について表現できるように、英会話の練習をします。 ・ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。 	Unit 5 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 6 に出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。
第12回	Unit 6 (前半) Art	Unit 6 で学習した単語・表現を復習し、小テストに備えます。Unit 6 のリーディングに出てくる分からない単語を調べて、内容を予習しておきます。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人生の段階に関する語彙や表現を学びます。 ・ 現在完了形、How + 形容詞を用いた表現を学びます。 		
第13回	Unit 6 (後半) Saving a City's Public Art <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の限界に対する挑戦についての英文を読解します。 ・ 自分の人生の段階に起きた出来事について話すために、英会話の練習をします。 ・ ナショナルジオグラフィックの映像を視聴し、内容についてクラスで議論します。 	Unit 4-6 で学習した単語・表現を復習し、まとめテストに備えます。	4時間
第14回	Unit 4-6 ReviewQuiz、TED TALK <ul style="list-style-type: none"> ・ Unit4-6までの内容に基づいたReviewQuizを実施します。 ・ TED TALK のひとつを視聴し、内容についてクラスで議論します。 	Unit 1-6 で学習した単語・表現を復習し、プレゼンテーションの準備をしておきます。	4時間
第15回	Unit 1-6 総括、プレゼンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・ 前期の授業内容を振り返ります。 ・ これまでの学習内容から課題をひとつ選び、プレゼンテーションを行います。 	既習範囲を振り返り、小テストの間違いや提出課題の内容を添削して、知識の定着を図ります。	4時間

722

授業科目名	Communications 6				
担当教員名	田中哲平				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

私たちの生活において心理学は切っても切り離せない学問である。心理学が科学であるためには、実験を通じてデータを取得することが必要不可欠である。本授業では心理学、特に知覚や記憶などのテーマを中心にした実験データの取得方法を学び、実験を通じてデータ取得の重要性を学習する。パソコンによって制御された実験を行うだけでなく、実験器具や実験刺激を実際に作成したり、心理学実験を体験したりすることによって理解を深めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1 . DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

実験心理学に関する専門的な知識を身に付ける。

目標：

講義内で扱う内容を体験し、理解を深める。

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

実験心理学の手法を理解し、実験体験や実験器具作成などを行う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業への取り組み状況

30%

小レポート

30%

期末レポート

40%

評価の基準

： 授業内容に関する質問、コメント、感想などを記入するコメントカードを用いて評価する。
(2点×15回=30点)

： 講義の前半で学んだ知識を正しく理解し、表現できているかについて評価する。

： 講義で学んだ知識を正しく理解し、表現できているかについて評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で配布する資料

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜日3限

場所： 研究室

授業計画			授業外学修課題にか かかる目安の時間
第1回	実験心理学とはなにか 心理学実験の基礎を学び、授業の目的や評価方法について伝えます。	心理学についてのイメージをまとめてきてください	4時間
第2回	パソコンを用いた心理学実験 パソコンを用いた心理学実験を経験し、データ取得の手法を学びます	実験心理学についてのイメージをまとめてください	4時間
第3回	ストループ効果 人間の知覚と抑制について、心理学実験を通じて学びます	ストループ効果について事前学習を行ってください	4時間
第4回	人間の錯視1 幾何学的錯視について、実験器具を利用した心理学実験を通じて学びます	ミュラーリヤー錯視について事前学習を行ってください	4時間
第5回	人間の錯視2 幾何学的錯視について、パソコンを利用した心理学実験を通じて学びます	幾何学的錯視について事前学習を行ってください	4時間
第6回	技能の転移 技能学習の転移について、基本的な知識を学びます	技能学習について事前学習を行ってください	4時間
第7回	両側性転移 両側性転移の実験器具を実際に作成し、鏡映像描写の実験を体験します	両側性転移について事前学習を行ってください	4時間
第8回	記憶の不思議1 虚偽記憶の実験を体験し、人間の記憶の不思議について学びます	これまでの実験についてまとめてください	4時間
第9回	記憶の不思議2 虚偽記憶の実験を体験するだけでなく、虚偽記憶を生起させるようなリストを実際に作成します	虚偽記憶について事前学習を行ってください	4時間
第10回	知覚の不思議1 人間の目の仕組みを学び、視覚の恒常性について学びます	目の構造について事前学習を行ってください	4時間
第11回	知覚の不思議2 さかさめがねと呼ばれる実験を実際に体験し、その手法と不思議さを学びます	さかさめがねについて事前学習を行ってください	4時間
第12回	知覚の不思議3 さかさめがねに関する論文を講読し、経験した実験との相違をまとめる	さかさめがねに関する論文を事前に読むこと	4時間
第13回	感覚記憶 スパーリングの実験を実際に体験し、感覚記憶について学びます	感覚記憶について事前学習を行ってください	4時間
第14回	イメージ表象 人間が文字などを認識する際にイメージを利用しているかどうかを、心的回転の実験を通じて学びます	心的回転について事前学習を行ってください	4時間
第15回	まとめ 授業で学んだことをまとめ、実際におこなった実験を振り返ります。	これまでの学習をまとめてください	4時間

722

授業科目名	英米の文学				
担当教員名	麻島徳子				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では、英米それぞれの文学の基礎的な知識、歴史、作家、作品について時代を追って概説し、文学作品と共に、関連する映画、音楽なども交えながら、英米の文学、文化への知識を広げ、理解を深めていきます。英米の文学の流れを概観しつつ、様々な特徴をもつ作品を実際に鑑賞し、それぞれの作家、作品への理解を深めていくことを目標とします。各授業では、作品を英語で読解し、その英語らしい表現に触れながら、英文読解力とともに英米文学についての幅広い知識を身につけます。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

具体的内容：

英米の文学に対する知識を深め、その成り立ちや歴史を理解することができる。

目標：

英米文学の知識を活用して、自ら作品を分析し考察することができる。

課題図書を読み、各作品が成立した歴史的な脈絡を理解したうえで、作品を読む現代的意義について検討することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

毎回の小テスト	60%	： 毎回の授業の初めに、それまでの講義内容についての理解度を測る、参照可の小テストを実施します。それぞれ5点満点とし、12回全部で評価の60%とします。
論述型のReview Quiz	30%	： 参照不可の論述型のReview Quizについて、講義内容の理解と考察の独自性をもとに採点します。30点満点とし、2回分の平均を評価の30%とします。
期末レポート	10%	： 第15回の授業後に最終レポート課題を課し、講義内容の理解力、および課題意識、文書表現の正確性、表現力、明確性、伝達力により評価の10%として採点します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜授業内で紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜1限
場所： 西館5階研究室

備考・注意事項： メールアドレス： asahata@osaka-seikei.ac.jp

授業計画		授業外学修課題にかかると目安の時間
第1回	<p>オリエンテーション、英米文学の概観</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方などの説明します。 ・授業の目標、学習内容、評価について確認します。 ・イギリス文学とアメリカ文学の成り立ちについて概観します。 	<p>配布資料を読み、該当部分の内容把握をする。分からない英単語を調べておく。シェイクスピアについて調べておく。</p> <p>4時間</p>
第2回	<p>エリザベス朝演劇：ウィリアム・シェイクスピア『ジュリアス・シーザー』(1599)を読む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エリザベス朝演劇について学習します。 ・シェイクスピアの作品を読解し、その作品背景を理解します。 	<p>配布資料を読み、該当部分の内容把握をする。分からない英単語を調べておく。デフォーについて調べておく。</p> <p>4時間</p>
第3回	<p>18世紀小説勃興期：ダニエル・デフォー『ロビンソン・クルソー』(1719)を読む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近代小説の勃興について学習します。 ・デフォーの作品を読解し、その作品背景を理解します。 	<p>配布資料を読み、該当部分の内容把握をする。分からない英単語を調べておく。ワーズワスについて調べておく。</p> <p>4時間</p>
第4回	<p>ロマン主義の流行：ウィリアム・ワーズワスの詩集を読む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロマン主義の流行について学習します。 ・シェイクスピアの作品を読解し、その作品背景を理解します。 	<p>配布資料を読み、該当部分の内容把握をする。分からない英単語を調べておく。エミリー・ブロンテについて調べておく。</p> <p>4時間</p>
第5回	<p>19世紀女性作家：エミリー・ブロンテ『嵐が丘』(1847)を読む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・19世紀のイギリス女性作家の活躍について学習します。 ・エミリー・ブロンテの作品を読解し、その作品背景を理解します。 	<p>配布資料を読み、該当部分の内容把握をする。分からない英単語を調べておく。ロレンスについて調べておく。</p> <p>4時間</p>
第6回	<p>20世紀意識の目覚め：D・H・ロレンス『息子たち、恋人たち』(1913)を読む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20世紀の性に関する意識の目覚めについて学習します。 ・ロレンスの作品を読解し、その作品背景を理解します。 	<p>配布資料を読み、該当部分の内容把握をする。分からない英単語を調べておく。ウルフについて調べておく。</p> <p>4時間</p>
第7回	<p>モダニズムの文学到来：ヴァージニア・ウルフ『灯台へ』(1927)を読む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モダニズム文学について学習します。 ・ウルフの作品を読解し、その作品背景を理解します。 	<p>これまでの授業内容を振り返り、Review Quizに備える。</p> <p>4時間</p>
第8回	<p>【小括】これまでの学習の振り返り、イギリス文学の総括</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習内容についての理解度を測るReview Quizを実施します。 ・イギリス文学の流れを総括します。 	<p>Review Quizを通じて、自分の理解度を測り、理解の足りない箇所について復習する。配布資料を読み、該当部分の内容把握をする。分からない英単語を調べておく。ポーについて調べておく。</p> <p>4時間</p>
第9回	<p>アメリカ建国：エドガー・アラン・ポー『アッシュャー家の崩壊』(1839)を読む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピューリタン革命とアメリカ建国の歴史を学習します。 ・エドガー・アラン・ポーの作品を読解し、その作品背景を理解します。 	<p>配布資料を読み、該当部分の内容把握をする。分からない英単語を調べておく。ホイツマンについて調べておく。</p> <p>4時間</p>
第10回	<p>ピューリタンの精神：ナサニエル・ホーソン『緋文字』(1850)を読む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピューリタンとしての精神とアメリカ文学の関係を学習します。 ・ホーソンの作品を読解し、その作品背景を理解します。 	<p>配布資料を読み、該当部分の内容把握をする。分からない英単語を調べておく。ホイットマンとディキンソンについて調べておく。</p> <p>4時間</p>
第11回	<p>アメリカ文学と自然：ホイットマンとディキンソンの詩集を読む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ文学と自然の関係を学習します。 ・ホイットマンとディキンソンの作品を読解し、その作品背景を理解します。 	<p>配布資料を読み、該当部分の内容把握をする。分からない英単語を調べておく。トウエインについて調べておく。</p> <p>4時間</p>
第12回	<p>奴隷制度：マーク・トウエイン『ハックルベリ・フィンの冒険』(1885)を読む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの奴隷制度について学習します。 ・トウエインの作品を読解し、その作品背景を理解します。 	<p>配布資料を読み、該当部分の内容把握をする。分からない英単語を調べておく。キャザーについて調べておく。</p> <p>4時間</p>
第13回	<p>西部文学と女性作家：ウィラー・キャザー『マイ・アントニア』(1918)を読む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20世紀に入って以降のアメリカ西部出身の女性作家の活躍について学習します。 ・ウィラー・キャザーの作品を読解し、その作品背景を理解します。 	<p>配布資料を読み、該当部分の内容把握をする。分からない英単語を調べておく。フィッツジェラルドについて調べておく。</p> <p>4時間</p>
第14回	<p>ジャズ・エイジ：F・S・フィッツジェラルド『偉大なるギャツビー』(1925)を読む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャズ・エイジと呼ばれた世代について学習します。 ・フィッツジェラルドの作品を読解し、その作品背景を理解します。 	<p>これまでの授業内容を振り返り、Review Quizに備える。</p> <p>4時間</p>
第15回	<p>【総括】これまでの学習内容の振り返り、イギリス文学とアメリカ文学の比較</p>	<p>これまでの復習と要点の整理をする。第15回の授業に基づき最終レポートを作成する。</p> <p>4時間</p>

- ・これまでの学習内容についての理解度を測るReview Quizを実施します。
 - ・アメリカ文学の流れを総括します。
 - ・イギリス文学とアメリカ文学を比較し、それぞれの特徴を分析し、最終レポート課題にまとめます。
-

722

授業科目名	映像表現				
担当教員名	田中哲平				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

私たちの生活において映像を目にしない日はほとんどない。また映像作品は私たちの生活を豊かにしてくれる。しかし映像を漫然と受信するだけではその価値は半減してしまうだろう。そこで本授業では、映画を中心とした映像作品の心理学的な分解を試みる。例えば海外の作品と日本の作品では、物語の構成やキャラクター特性にどのような違いが見られるのだろうか。他にも実写とアニメーションの違いなどを把握し、映像表現についての理解を深めていく。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1 . DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

映像表現における心理学的な分解

目標：

映像作品における物語の構成要素やキャラクター特性を把握する手法を身に付ける

汎用的な力

- 1 . DP4. 課題発見

映像作品の深い理解

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業への取り組み状況

30%

評価の基準

： 授業内容に関する質問、コメント、感想などを記入するコメントカードを用いて評価する。(2点×15回=30点)

小レポート

30%

： 講義の前半で学んだ知識を正しく理解し、表現できているかについて評価する。

期末レポート

40%

： 講義で学んだ知識を正しく理解し、表現できているかについて評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中の配布資料

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜日1限

場所： 研究室

授業計画			授業外学修課題にか かかる目安の時間
第1回	映像表現とはなにか 映像表現についての概要をオリエンテーションで学びながら、授業の目的や評価方法について伝えます。	お気に入りの映画を探してください	1時間
第2回	映像の仕組み 私たちが映像作品をどのような仕組みで見ているのかを、フィルムの観点から学びます	映画の仕組みについて事前学習を行ってください	1時間
第3回	映像と心理 映像作品を見る際に、私たちの心の働きを、錯視の観点から学びます	錯視の仕組みについて事前学習を行ってください	1時間
第4回	キャラクター評定の方法 映像作品に登場するキャラクターを心理学的に評定する手法を学びます	SD法などの評定方法について事前学習を行ってください	1時間
第5回	物語の構造分析 映像作品の構造を心理学的に評定する手法を学びます	ユース分析などの分析手法について事前学習を行ってください	1時間
第6回	海外映画の分析1 海外の実写映画を視聴し、構造分析とキャラクター分析を行います	学習したことをレポートにまとめます	1時間
第7回	海外映画の分析2 海外の実写映画を視聴し、構造分析とキャラクター分析を行います	学習したことをレポートにまとめます	1時間
第8回	日本映画の分析1 日本の実写映画を視聴し、構造分析とキャラクター分析を行います	学習したことをレポートにまとめます	1時間
第9回	日本映画の分析2 日本の実写映画を視聴し、構造分析とキャラクター分析を行います	学習したことをレポートにまとめます	1時間
第10回	国内外作品の比較 視聴した実写映画についてまとめ、日本と海外の作品の違いを検討します	学習したことをレポートにまとめます	1時間
第11回	海外映画の分析3 海外のアニメーション映画を視聴し、構造分析とキャラクター分析を行います	学習したことをレポートにまとめます	1時間
第12回	海外映画の分析4 海外のアニメーション映画を視聴し、構造分析とキャラクター分析を行います	学習したことをレポートにまとめます	1時間
第13回	日本映画の分析3 日本のアニメーション映画を視聴し、構造分析とキャラクター分析を行います	学習したことをレポートにまとめます	1時間
第14回	日本映画の分析4 日本のアニメーション映画を視聴し、構造分析とキャラクター分析を行います	学習したことをレポートにまとめます	1時間
第15回	まとめ 授業で学んだことをまとめ、映像表現に関する振り返りを行います。	これまでの学習をまとめてください	1時間

722

授業科目名	人間関係論				
担当教員名	田中哲平				
学年・コース等	2	開講時期	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

人間は他者との関係を持たずに一人で生きていくことはできない。親や友人など周囲の様々なヒトとの関係性を理解することは、社会の中で生活する上で必要不可欠である。本講義では、ヒトとヒトとの様々な関係性や自分自身との関係性、ヒトと動物との関係性を、発達心理学・社会心理学・認知心理学・比較心理学などのそれぞれの観点から取り上げていく。本講義の受講によって、ヒトがどのように他者とかわり、自分と向き合うのかを考えるきっかけにしたい。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

各種心理学の観点から人間の関係性に関する知識を身に付ける。

目標：

講義内で扱う内容を深く理解し、議論する。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

人間の関係性に関する課題を発見する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業への取り組み状況

30%

小テスト

20%

期末試験

50%

評価の基準

： 授業内容に関する質問、コメント、感想などを記入するコメントカードを用いて評価する。(2点×15回=30点)

： 講義で学んだ知識を正しく理解しているかについて評価する。(10点×2=20点)

： 講義で学んだ知識を正しく理解しているかについて評価する。(50点)

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で配布する資料

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜日3限

場所： 研究室

授業計画		授業外学修課題にかかるとの自らの時間
第1回	人間関係論とはなにか 人間関係論の概要をオリエンテーションで学びながら、授業の目的や評価方法について伝えます。	人間関係について考えていることをまとめてください 4時間
第2回	親子の人間関係論1 子どもの発達を学び、親子間の人間関係がどのように形成されていくかを学びます	二項関係・三項関係について事前学習を行ってください 4時間
第3回	親子の人間関係論2 ボウルビイの愛着理論について学び、親子間の愛着について学びます	ボウルビイについて事前学習を行ってください 4時間
第4回	子ども同士の人間関係 子どもの発達を学び、子ども同士がどのように関係を築いていくかを学びます	心の理論について事前学習を行ってください 4時間
第5回	子どもと他者の人間関係 子どもの発達を学び、子どもが他者とどのように関係を築いていくかを学びます	児童期の心の理論について事前学習を行ってください 4時間
第6回	集団の構造について 自己と他者がどのように集団を形成するのかを学びます	内集団・外集団について事前学習を行ってください 4時間
第7回	集団におけるリーダーについて PM理論を中心に、集団におけるリーダーシップについて学びます	PM理論について事前学習を行ってください 4時間
第8回	人間関係と動機づけ 人間関係を築くにあたって動機づけがどのように関わるかを学びます	ホーソン実験について事前学習を行ってください 4時間
第9回	動機づけと脳機能 人間の動機づけにおいて脳機能の観点から学びます	大脳基底核について事前学習を行ってください 4時間
第10回	自分と自分の関係論1 人間が自分自身の記憶と関わる際の脳機能（短期記憶と長期記憶）について、症例H. M. から学びます	短期記憶と長期記憶について事前学習を行ってください 4時間
第11回	自分と自分の関係論2 人間が自分自身の記憶と関わる際の脳機能（技能記憶）について、症例H. M. から学びます	技能記憶について事前学習を行ってください 4時間
第12回	自分と自分の関係論3 人間が自分自身の記憶と関わる際の脳機能（意味記憶）について、症例H. M. から学びます	意味記憶について事前学習を行ってください 4時間
第13回	幻覚と脳機能 人間が経験する幻覚について、ビデオを見ながら学びます	幻覚について事前学習を行ってください 4時間
第14回	記憶障害と他者との関係 記憶障害をテーマにした映画を視聴し、記憶の仕組みをおさらいします	これまでの記憶に関する学習をまとめてください 4時間
第15回	まとめ 授業で学んだことをまとめ、疑問点を整理し、質問などに回答します。	これまでの学習をまとめてください 4時間

722

授業科目名	欧米の文化				
担当教員名	麻島徳子				
学年・コース等	2	開講時期	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当しない				
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

明治時代、文明開化により流れ込んできた欧米文化の波が日本の文化に大きな影響を及ぼしました。小説もそのひとつです。夏目漱石をはじめとする明治の文豪たちは、西洋の小説に触れ、それを自分たちの文体に取り込んでいきました。本科目では、日本の小説に影響を与えた西洋の小説のなかでも、他のヨーロッパ諸国に先駆けて近代小説が誕生したといわれる18世紀イギリスに注目し、それがどういう観点で「誕生」といえるのか、またどのような歴史的な過程を経て成立していったのかについて、具体的な小説作品を取り上げながら見ていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

18世紀イギリス小説史に関する知識

目標：

18世紀イギリスにおいて近代小説が誕生した歴史的背景を理解し、そうした散文芸術の文化的意義について考察することができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

課題図書を読み、各作品が成立した歴史的文脈を理解した上で、現代における文学の衰退について問題点を検討することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回の小テスト	60%	： 毎回（第6回、第10回、第15回は除く）の授業のはじめに、それまでの講義内容についての理解度を測る、参照可の小テストを実施します。それぞれ5点満点とし、12回全部で評価の60%とします。
論述型の小レポート	30%	： 参照不可の論述型の小レポート（第6回、第10回、第15回の授業内に実施）について、講義内容の理解と考察の独自性をもとに採点します。それぞれ10点満点とし、3回全部で評価の30%とします。
期末レポート	10%	： 第15回の講義のあと、課題図書のなかから一冊選び、その作品についての自分の意見文を提出してもらいます。講義との関連性を持った意見文であるかどうかを基準に採点します。意見文は評価の10%とします。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ① 『ロビンソン・クルーソー（上）（下）』、平井正徳（訳）、岩波文庫（1967）
 ② 『ガリヴァー旅行記』、平井正徳（訳）、岩波文庫（1980）
 ③ 『バミラ、あるいは淑徳の報い』、原田範行（訳）、研究社（2011）
 ④ 『トム・ジョーンズ（一）（二）（三）（四）』、朱牟田夏雄（訳）、岩波文庫（1952）
 ⑤ 『トリストラム・シャンディ（上）（中）（下）』、朱牟田夏雄（訳）、岩波文庫（1969）
 ⑥ 『オトランド城』、千葉康樹（訳）、研究社（2012）
 ⑦ 『フランケンシュタイン』、小林章夫（訳）、光文社（2010）
 ⑧ 『ノーザンガー・アビン』、中野康司（訳）、ちくま文庫（2009）
 ⑨ 『高慢と偏見』、小尾美佐（訳）、光文社（2011）
 ⑩ 『ジェイン・エア（上）（下）』、小尾美佐（訳）、光文社（2006）
 ⑪ 『嵐が丘（上）（下）』、小野寺健（訳）、光文社（2010）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜1限
 場所： 研究室（西館5階）
 備考・注意事項： メールアドレス： asahata@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

回	授業内容	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	はじめに：イギリス近代小説の「誕生」における歴史的文脈 ・授業の進め方、評価方法の確認をします。 ・イギリス近代小説が誕生した歴史的背景を概観します。 ・課題図書を指示します。	『ロビンソン・クルーソー』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。イギリス近代小説が誕生した歴史的背景について、1000字程度でまとめられるように講義内容を整理しておきます。
第2回	黎明期①：ダニエル・デフォー『ロビンソン・クルーソー漂流記』（1719）とジャーナリズム ・近代小説というジャンルが確立する以前の小説を読みます。 ・デフォーの経歴と作品との関係を学びます。 ・ジャーナリズムと小説の起りの関連性を学びます。	『ガリヴァー旅行記』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。第2回の講義内容について、300字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。
第3回	黎明期②：ジョナサン・スウィフト『ガリヴァー旅行記』（1726）と植民地支配 ・近代小説というジャンルが確立する以前の小説をもうひとつ読みます。 ・デフォーのライバル的存在であったスウィフトの経歴とその作品を学びます。 ・小説と現実の関連性を学びます。	『バミラ』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。第3回の講義内容について、300字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。
第4回	勃興期①：サミュエル・リチャードソン『バミラ』（1740）と書簡文化 ・近代小説の父と呼ばれるリチャードソンの経歴と作品について学びます。 ・書簡体小説とは何かを学びます。	『トム・ジョーンズ』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。第4回の講義内容について、300字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。
第5回	勃興期②：ヘンリー・フィールディング『トム・ジョーンズ』（1749）と古典主義 ・リチャードソンのライバル的存在であったフィールディングの経歴と作品について学びます。 ・三人称小説という小説の語りの技法について学びます。	第1～4回の講義内容について、2000字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。第6回の授業内で実施する論述小テストのために復習しておきます。
第6回	リチャードソンとフィールディング：小説技法の比較、これまでの振り返り ・リチャードソンとフィールディングの語りの技法のメリット、デメリットについて学びます。 ・第1～5回までの内容を振り返り、学習内容が理解できているか、またどのような意見をもったかを確認する小テストを実施します。	『トリストラム・シャンディ』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。第6回の講義内容について、300字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。
第7回	展開期①：ローレンス・スターン『トリストラム・シャンディ』（1759-67）と観念連合 ・近代小説が勃興した以降の小説の展開を見ていきます。 ・メタ小説とよばれる作品『トリストラム・シャンディ』の内容と、スターンの経歴について学びます。 ・メタ小説とは何かを理解します。	『オトランド城』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。第7回の講義内容について、300字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。
第8回	展開期②：ホレス・ウォルポール『オトランド城』（1765）とゴシック・リバイバル ・ゴシック・ロマンスというジャンルの流行について学びます。 ・ゴシック・ロマンスの火付け役であるウォルポールの経歴と、その作品について学びます。	『フランケンシュタイン』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。第8回の講義内容について、300字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。
第9回	展開期③：メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』（1818）と女流作家 第5～9回の講義内容について、2000字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。第10回の授業内で実施する論述小テストのために復習しておきます。	4時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴシック・ロマンスの流行と『フランケンシュタイン』の関連性を学びます。 ・メアリー・シェリーの経歴とその作品の関係について学びます。 		
第10回	<p>ゴシック・ロマンスとオースティン：小説というジャンル意識の確立、これまでの振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴシック・ロマンスの流行とオースティン作品の関連性について学びます。 ・第6～9回までの内容を振り返り、学習内容が理解できているか、またどのような意見をもったかを確認する小テストを実施します。 	『ノーザンガー・アビー』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。第10回の講義内容について、300字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。	4時間
第11回	<p>円熟期①：ジェイン・オースティン『ノーザンガー・アビー』(1818)とパロディ意識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近代小説の母と呼ばれるオースティンの経歴と作品について学びます。 ・ゴシック・ロマンスという形式とオースティンの作風との関連性について学びます。 	『高慢と偏見』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。第11回の講義内容について、300字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。	4時間
第12回	<p>円熟期②：ジェイン・オースティン『高慢と偏見』(1813)と中産階級意識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オースティンの代表作『高慢と偏見』の内容を学びます。 ・オースティンが確立した自由間接話法という小説技法について学びます。 	『ジェイン・エア』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。第12回の講義内容について、300字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。	4時間
第13回	<p>円熟期③：シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』(1847)と結婚制度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小説というジャンルが確立した以降の発展を辿っていきます。 ・自伝的小説といわれる『ジェイン・エア』とシャーロット・ブロンテの経歴について学びます。 ・小説のテーマ性というものが生まれてきた過程を辿ります。 	『嵐が丘』について、あらすじや時代背景などを下調べしておきます。第13回の講義内容について、300字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。	4時間
第14回	<p>円熟期④：エミリ・ブロンテ『嵐が丘』(1847)とロマン主義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シャーロット・ブロンテの妹、エミリ・ブロンテの生涯唯一の作品を読みます。 ・エミリ・ブロンテとロマン主義の関連性について学びます。 ・『嵐が丘』における小説のテーマ性の追求について学びます。 	第1～14回の講義内容について、それぞれ300字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。第15回の授業内で実施する論述小テストのために復習しておきます。	4時間
第15回	<p>総括：イギリス近代小説誕生の文化的意義、これまでの振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの講義内容を総括し、イギリス近代小説が生まれた背景とその過程を整理します。 ・第1～14回までの内容を振り返り、学習内容が理解できているか、またどのような意見をもったかを確認する小テストを実施します。 	講義内で取り扱った作品の中で興味を持ったものは、翻訳や映像化されたものをつうじて、実際に鑑賞してみること。	4時間